258 共有者ノ一人カ共有物ニ關スル犯罪ニ對シテ告訴ヲ爲シタルトキハ告訴人カ被害共有物ニ付有スル持分ノ多少ニ拘ラス其告訴ヲ効力ヲ及ホス（大一四・大審「大判四巻七號刑四一〇頁」）

第二百五十九條　祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

◇二六三＝親告罪ニ付告訴ヲ爲スヘキ者ナキ場合・二六八＝親告罪ニ於ケル告訴又ハ共ノ取消ト共犯人。

第二百六十條　被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

◇民八八四＝財産ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・五三＝理事。商六一・六二＝合名會社ノ代表者・一一四＝合資會社ノ代表者・一七〇＝株式會社ノ代表者。民九六八以下・七二六。

第二百六十一條　被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

◇民八八四＝財産ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・七二五＝親族・七二六＝親等。刑訴二六〇3項。

第二百六十二條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

◇刑二三〇2項＝死人ニ對スル誹毀罪。民七二五＝親族。

第二百六十三條　親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ル者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

◇二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六二＝被害者ノ法定代理人其他ノ告訴。刑三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二三二・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上凡テ親告罪ニ關スル條文。

二五九　告訴ノ制限規定（昭六・東北・上野）共通　二六二・二六四・二六五

264 姦通ノ事實ヲ知ラス離婚セシ場合ニアリテハ姦婦ト夫タリシ者トノ再婚事實ノ有無ハ告訴權ノ消長ニ影響ナシ（昭五・法決「法曹八巻六號一一〇頁」）

267 我現行法ノ下ニ於テハ犯罪後ト雖モ告訴ノ取消ヲ除ク以外ニ於テハ告訴ニ付之カ自由處分ヲ許サス告訴權ノ拋棄ニ付テハ之ヲ認メサルノ精神ナリト解スルヲ正當トス（昭四・大審「法新三〇九八號一一頁」）

第二百六十四條　刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

◇民八一三以下＝裁判上ノ離婚。刑訴二六七＝告訴ノ取消・二一五＝公訴棄却ノ決定・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。

第二百六十五條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

◇刑一三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二三二・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上凡テ親告罪ニ關スル條文。刑訴八一＝期間ノ計算。民七八〇以下＝婚姻ノ絕對的取消。

第二百六十六條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ホサス

◇二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六二＝被害者ノ法定代理人其ノ他ノ告訴。

第二百六十七條　告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

◇二四〇＝親告罪告訴取消ニ於ケル訴訟費用ノ負擔者・二六八＝親告罪ニ於ケル告訴又ハ其ノ取消ト共犯人・三一五＝公訴棄却ノ決定・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。刑九〇—九二＝國交ニ關スル罪。

二六四　親告罪ノ告訴ノ性質（昭三・行。昭四・明・岡田。昭五・日・清水）関係　民八一三以下・刑訴二六七・三一五・三六三—三六五・二六八

二六七　訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルヤ（昭六・辯）共通　二九二・三八二・一一四関係三一五・三六五・一二一・一二九・一一九・二四〇・二六四・二六八・二七一・二七五・三六四・二七五・四七〇

▽第二審裁判所ニ於テ有罪ノ言渡ヲナシソノ確定前親告罪ニツキ告訴ノ取下アリテ公訴權ノ消滅ノ場合生シタルトキ其ノトルヘキ手續（大一一・京・中川）関係　二四〇・二六四・二六八・二七一・三一五・三六四

▽親告罪ノ告訴ハ起訴後之ヲ追究スルヲ許スヤ（昭五・明・板倉）関係　二四〇・二六八・三一五・三六

276 自首ハ必スシモ犯人親ラ之ヲ爲スヲ要セス他人ヲ介シテ自己ノ犯罪ヲ申告セシメタルトキト雖モ亦其ノ效アルモノトス（大一三・大審「大判三卷一〇號刑六九四頁」）

279 檢事ノ起訴猶豫處分ニ對シ被疑者ヨリ抗告ヲ爲スノ權ナシ（昭五・法決「法曹九卷二號一二〇頁」）—檢事ノ不起訴處分ハ之ニ因リ公訴權ヲ消滅セシムルモノニ非サル故一旦不起訴處分ヲ爲セル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シ得（昭二・大審「大判六卷五號」）

第二百六十八條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

◇刑九〇—九二＝國交ニ關スル罪。

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條　第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

◇二五八—二六三＝押收搜索ノ立會、豫告其ノ他・二六七＝告訴ノ取消。

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

◇二七三＝告訴告發ノ手續。

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

◇五六＝訊問調書・五九＝裁判所書記ノ立會ナキ場合ノ取調又ハ處分。

第二百七十四條　司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條　第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條　犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探査スヘシ

四・刑九〇—九二

▽告訴權ノ拋棄（昭五・東・小野）〔關係〕二五八

▽告訴ノ拋棄及取消（昭六・司）

二六八　告訴取消不可分ノ意義（昭五・明・板倉）

▽告訴不可分ノ原則（昭五・中・矢追。昭六・東北・上野）

二六九　告訴、告發、自首ノ異同（昭三・中・平井）〔共通〕二五八・二七六

第二章　公訴

第二百七十八條　公訴ハ檢事之ヲ行フ

◇裁構六＝檢事ノ職務權限・七＝檢事ノ數・一八＝檢事代理・三三＝檢事正・四二＝檢事長・五六＝檢事總長・七九—八四＝檢事。

第二百七十九條　犯人ノ性格、年齡及境遇竝犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

◇交涉法八＝陸海軍ノ檢察官ト豫審判事及檢事。少年法六二＝檢事ノ刑事手續・六三＝刑事訴追ノ不能。裁構一四〇＝司法事務取扱ニ對スル抗告。

【問題】

第二章　公訴

二七八　公訴ノ意義（大一四・日・清水）

▽檢事公訴（昭四・關・宮本）

▽彈劾式訴訟及糺問式訴訟（大四・立・佐藤。大八・中林。大一三・中・林）〔共通〕二九五

▽公訴權（大一一・關・鈴木。昭五・明・板倉）〔共通〕二八〇・二九一

▽刑訴當事者（大正四・京・勝本）〔共通〕二八〇・二九一〔關係〕裁構六・八・一八、三三・四二・五六・七九—八四・刑訴二四七・二四八・二五〇・八四・一〇〇・三九・四七・三三一・五六七

▽檢事ノ地位ト職務範圍（大九、一一・中・林。昭五・日・鹽野）〔共通〕五三五・二四六〔關係〕二五二・一一1項・二五五

▽被告人ノ意義並ニ地位（大五・辯。大五・中・林。大一四・關。昭四・行）〔關係〕二八〇・二九一・三九以下

▽訴追權者ニ關スル主義（大一一・中・林）

▽公訴權ノ主義、本質、作用、發生、消滅（大四・東・豐島。大四・關・鈴木。大一四・日・清水。昭四・關・鈴木。昭五・明・板倉。昭五・司口）〔共通〕二七九—二九四

▽起訴ト上訴トノ差別（大九・京・中川）〔共通〕三七六

二七九　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）〔共通〕三九・九二・一一三・一二三・一二九・一四四・一七〇・一八〇・二一四・二五五・二八八・二九二・三二九—三三一・三四三・三八二・四一二—四一四・四四〇・四四三・四四四〔關係〕憲五九・陪審法・舊刑一四二・一四三・一八四但・一八五・一五九

▽便宜主義（昭三・京。昭三・明・板倉）〔關係〕刑事交涉法八・少年法六二・六三

▽公訴提起ノ任意主義ト法定主義ノ優劣（昭三・辯）

▽公訴提起ノ效力（昭三・司）

第二百八十條　公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

◇二九一＝公訴提起ト被告人指定其ノ他・四一〇18＝上告ノ理由ノ一。

第二百八十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

◇八一＝期間ノ計算・三一四4＝時效完成ノ爲ノ免訴・三七三4＝時效完成ノ爲ノ無罪。衆議院議員選擧法一三八＝選擧犯罪ノ時效。治安警察法三二＝時效。

第二百八十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

◇二五六＝强制處分ト其ノ書類證據物。

第二百八十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

◇刑四七＝併合罪ノ處分・五九＝再犯・三六—四〇＝正當防衛行爲、緊急避難行爲、犯意ナキ行爲・犯罪無能力者ノ行爲・四二＝自首輕減・四三＝未遂罪・六三＝從犯・六六＝酌量輕減・一七〇・一七一＝僞證罪・一七三＝誣告罪・一九八＝贈賄罪。

▽搜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）共通 二八八—二九〇・二九四

▽連續犯ノ關係アル甲乙二所爲ノ中甲ト乙トノ行爲ヲ併セ裁判スルハ刑訴第二七九條ニ違反セサルカ（大一五・行）關係 七・刑五四

二八〇　公訴權（大一一・關・鈴木。昭五・明・板倉）共通 二七八・二九一　關係 三一五6・三六五1・四一〇18

▽刑訴當事者（大四・京・滕本）共通 二七八

▽不告不理ノ原則ト公訴不可分ノ原則トノ關係（大七・中・林。大八・東・牧野）共通 二九一・四一〇18　關係 舊刑訴一四二・一四三・一八四但・一八五・刑訴二九七・二九八

▼告訴ノ效力（昭三・司口）

二八一　時效ノ完成、中斷及ヒ停止（昭五・司）共通 二八四・二八五・二八七

284 連續犯ノ時效ハ其最終行爲タル犯行完了ノ日ヨリ起算ス（昭六・大審「評論二〇卷七號二六六頁」）

285 違警罪卽決例ニ依ル警察署長ノ卽決ハ公訴ノ時效中斷ノ原因トナラサルモノトス（昭六・法決「法曹九卷七號八一頁」）

288 連續犯ニ對シ檢事カ其一部ノミ起訴スルモ受訴裁判所ハ之レカ爲メニ全部ニ對スル審判上ノ拘束ヲ受クルモノニアラス（大一五・大審「評論一五卷刑訴三〇八頁」）

第二百八十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

◇二八一＝公訴ニ關スル時效ノ完成。刑六〇以下＝共犯。

第二百八十五條　時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無效ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

◇二八八＝公訴ノ提起・二九八＝豫審手續・四七九・四八〇＝大審院ノ特別權限ニ屬スル事件及ソレト牽連スル事件。交涉法一〇＝時效ノ中斷。刑六〇以下＝共犯。

第二百八十六條　時效ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

◇二八五＝時效ノ中斷。

第二百八十七條　時效ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間內ハ進行セス

第二百八十八條　公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

◇四七九・四八〇＝大審院ノ特別權限ニ屬スル事件及ソレト牽連スル事件。

第二百八十九條　拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限リ豫審ヲ請求スルコトヲ得

◇二＝牽連管轄・八＝牽連スル場合・三一〇＝管轄違ノ決定。

二八四　公訴時效ノ進行（大一二・東・牧野）關係 二八一・刑六〇以下

二八八　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）共通 三九・九二・一一三・一二三・一二九・一四四・一七〇・一八〇・二一四・二五五・二七九・二九二・三二九—三三一・三四三・三八二・四一二—四一四・四四〇・四四三・四四四　關係 憲五九・陪審法・舊刑一四二・一四三・一八四但・一八五・一五九

▽搜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）共通 二八九・二九〇・二九四・二七九

290 公判請求書ニハ必スシモ受訴裁判所ヲ表示スルヲ要セス（昭四・大審「法新二九八二號一一頁」）

291 犯罪事實ノ表示ハ必スシモ起訴狀自體ニ其內容ヲ記載スル要ナク記錄中ノ他ノ書類ヲ援用シ其內容ヲ明ニスルヲ妨ケス（昭四・大審「法新三〇九七號一三頁」）— 本條ノ所謂犯罪事實トハ犯罪ヲ構成スル具體的事實ヲ指スモノト解スヘシ故ニ他ノ犯罪事實ト識別シ得サルモノ若ハ犯罪ノ內容ヲ知ルニ由ナキモノハ犯罪事

第二百九十條　公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

◇五四＝刑事訴訟ノ書類ノ作成者・六〇＝公判調書ノ作成ト記載事項。

第二百九十一條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

◇二八〇＝公訴提起・三一五9＝公訴棄却決定ノ理由ノ一・三六四6＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス事由ノ一。

第二百九十二條　公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

◇三一五6＝公訴棄却決定ノ理由ノ一・三六五1＝公訴棄却ノ裁判ヲ言渡ス事由ノ一。

第二百九十三條　檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共

二九〇　訴訟條件（大一三・中・小野）共通 三六四

▽捜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）共通 二八八・二八九・二九四・二七九

二九一　公訴權（大一一・關・鈴木。昭五・明・板倉）共通 二七八・二八〇　關係 三一五6・三六五1・四一〇18

▽刑訴當事者（大四・京・勝本）共通 二七八

▽訴訟條件（大一三・中・小野）共通 三六四

▽公訴提起ノ方式（大一〇・中・林。昭五・日・清水）關係 二八〇・三一五9・三六四6・四七九

▽不告不理ノ原則ト公訴不可分ノ原則トノ關係（大七・中・林。大八・東・牧野）共通 二八〇・四一〇18　關係 舊刑訴一四二・一四三・一八四但・一八五・刑訴二九七・二九八

二九二　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）共通 二七九・二八八・三二九—三三一・三四三・四一二—四一四　關係 憲五九・陪審法

▽訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルヤ（昭六・辯）共通 二六七・三八二・一一四

▽訴訟條件（大一三・中・小野）共通 三六四

實ノ表示トシテ不適法ナリ（昭五・大審「法新三二〇一號一二頁」）

ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

◇一二九＝檢事ノ逮捕後ノ手續及勾留狀・二五五＝强制處分・三一八＝豫審ニ於テ免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル場合・三七一＝公判ニ於テ無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫其ノ他ノ言渡ヲ爲シタル場合。

第二百九十四條　告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

◇二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六二＝被害者ノ法定代理人其ノ他ノ告訴・二六三＝親告罪ニ於テ告訴ヲ爲スコト得ル者ナキ場合・二九二＝公訴ノ取消・二九三＝事件ノ送致。裁構一四〇＝司法事務取扱ニ對スル抗告。

第三章　豫審

第二百九十五條　豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條　豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條　豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

◇刑六〇以下＝共犯。

二九四　捜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）共通 二八八・二八九・二九〇・二七九

第三章　豫審

二九五　豫審ト公判トノ關係、異同（大一五・日・清水。昭三・明・板倉）

▽豫審ノ目的及性質（大四・東・豐島）

▽豫審ニテ取調ヲ爲スヘキ範圍（大一三・明・岡田庄）

▼豫審（昭二・司口）共通 二九六

二九六　豫審（昭二・司口）共通 二九五

301 本條ハ豫審判事ニ對シ豫審終結前被告人ヲシテ嫌疑ヲ受ケタル原由ニ付辯解ヲ爲サシムヘク注意シタル規定ニ止マリ其違反ノ爲再審後ノ公判ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トスル趣旨ニ非ス蓋シ公判ノ際被告人ハ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケタル原由ニ付辯解ヲ爲スコトヲ得ルカ故豫審處分ニ於テ右違反アリタリトスルモ之カ爲判決ヲ不法トスル理由ナシ（昭四・大審「法新二九六九號九頁」）

第二百九十八條　檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間內ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

◇二八八—二九一＝公訴ノ提起・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第二百九十九條　豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

◇裁構二二＝事務ノ分配。

第三百條　豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

◇一三三以下＝被告人訊問。

第三百一條　豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條　豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◇四一〇11＝上告ノ理由ノ一。

第三百三條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

◇四四2項＝辯護人ノ證據物謄寫。

二九九　共助（大一一・關・鈴木）【共通】九四・一五四・一六〇・一七八・二一二・二二八・二四七・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

三〇一　豫審ニ於ケル被告人ノ防禦權（昭五・司）【共通】三九・三〇三

三〇二　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・早野）【共通】四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）【共通】四六

三〇三　豫審ニ於ケル被告人ノ防禦權（昭五・司）【共通】三九・三〇一

第三百四條　豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

◇二五四＝强制處分・三二八＝公務所ノ報告。

第三百五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人ノ所在分明ナラサルトキ

二　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

◇五〇＝裁判ノ告知・六六＝裁判書・二八七＝時效ノ進行・三七＝被告人意思能力ナキ場合。

第三百六條　豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ

◇交涉法三＝豫審ノ請求。

第三百七條　檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得

豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三百八條　檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百九條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇一—一〇＝裁判所ノ管轄。裁構二七＝地方裁判所ノ刑事訴訟ノ管轄。刑訴六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知・三一〇・三一一＝管轄違ノ決定・三一三＝免訴ノ決定・三一八・三一九。

第三百十條　豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管內ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

◇裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄。

第三百十一條　豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

◇一＝土地管轄・二＝牽連管轄・五・六＝牽連ニ依ル土地管轄・一〇＝同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スル場合。

三〇五　被告人ノ訴訟能力（大一〇、大一一、昭三・中・林）【共通】三六—三八・三五二・三五三

▽訴訟條件（大一三・中・小野）【共通】三六四

三〇九　豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）【共通】三一二—三一五

312 豫審判事ハ豫審請求ノ事件ヲ取調ヘタル上終結決定ヲ爲スカ又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル旨渡ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

◇六六＝裁判書・五〇＝裁判ノ告知。

第三百十三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一九。

第三百十四條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

五　法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

◇六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知・三五八＝有罪ノ判決・三五九＝刑ノ免除ノ判決・三六二＝無罪ノ判決・三六三＝免訴ノ言渡ヲ爲ス判決。

三一二　豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。中・平井）共通　三〇九・三一三―三一五

三一三　免訴ノ裁判（大一二・東・牧野。昭五・東・小野）共通　三一四・三六三・四八三 關係 三一八・三一九・三五二・三七一・四八六・五九〇

▽判決ノ效力（大七・中・林。昭四・明・岡田。昭五・明・板倉。昭六・九・上原）共通　三六三

▽豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）共通　三〇九・三一二・三一四・三一五

▽公判取消（大一四・司）共通　三一四

三一四　確定判決（大一一・關・鈴木）共通　三六三 關係 三五八・三五九・三六二・三六三・五三三・違警罪即決例七

▽訴訟條件（大一三・中・小野）共通　三六四

▽判決ノ效力（大七・中・林。昭四・明・岡田。昭五・明・板倉。昭六・九・上原）共通　三六三

サル罪ニ關スル條文・二四四・二五一・二五五・二五七＝以上ハ直系血族、配偶者、同居ヲ親族又ハ家族及此等ノ配偶者ナルカ故ニ刑ヲ免除サル罪ニ關スル條文。刑訴三一七―三一九・五三三。恩赦令二・三。

315 略式命令發布後其送達前即チ裁判機關ヨリ送達シタル略式命令ヲ交付シタル後其送達ニ前ノ本ハキトキ被告人死亡シタルトキ又ハ略式命令ニ關スル條文ノ適用ヲ誤リタルトキ其他法令ニ違反シタルトキ（昭五・一一・一號四卷八號曹法「決」）

第三百十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴ノ取消アリタルトキ

七　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

八　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

九　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

◇六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知。交錯法三＝檢事及陸海軍ノ檢察官ノ豫審請求。刑訴三六四6＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス決定ノ事由ノ一。・三六五1＝公訴棄却ノ裁判ヲ言渡ス事由ノ一。刑一三五・一八〇・一八三・二二〇八・二〇九・二二九・二三一・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上ハ凡テ親告罪ニ關スル條文・九〇―九二＝國交ニ關スル罪。刑訴二六七＝告訴ノ取消・二九二＝公訴ノ取消・二九〇・二九一＝公訴ノ提起・三一八・三一九。

第三百十六條　第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝即時抗告ノ期間其ノ他。

▽豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）共通　三〇九・三一二・三一三・三一五

三一五　一事不再理（昭三・行。昭六・日・清水）

▽豫審免訴ニ對シ更ニ豫審請求アリタル場合ノ處分（大九・東・中川）共通　三一七

▽豫審免訴決定ノ效力（大二・京・吾孫子。大一四・日・清水）共通　三一七

▽豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）共通　三〇九・三一二―三一四

▽檢事總長ハ直接ニ地方裁判所ノ豫審判事ニ大審院特別權限事件豫審ヲ求メタリ豫審判事ハ之ヲ大審院ニ移送スヘキカ、或ハ他ノ如何ナル裁判ヲ爲スヘキカ（昭三・明・板倉）共通　四七九―四八一

▽親告罪ト免訴ノ判決（昭三・辯）共通　三六五

第三百十七條　免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一　新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ

二　決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

◇交涉法八‖同一事件ニ於ケル陸海軍ノ檢察官ト豫審判事及檢事。刑一九四—一九七‖逮捕監禁罪、暴行凌辱罪及收賄罪。

第三百十八條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

三一七　豫審免訴ニ對シ更ニ豫審請求アリシ場合ノ處分(大九・東・中川) (共通) 三一五 (關係) 刑事交涉法八・刑一九四—一九七・刑訴三一八・三一九

▽豫審免訴決定ノ效力(大二・京・吾孫子。大一四・日・淸水) (共通) 三一五

▽第三一七條第一項ノ新事實ト新證據トノ差異ノ具體的說明(大一四・明・板倉)

三一八　同一事件ニ對シ誤ツテ二ツノ裁判所ニ於テ判決ヲナシタル場合(昭五・行) (共通) 三一九

◇二九三‖事件ノ送致・三〇九‖管轄違ノ決定・三一三—三一五‖免訴及公訴棄却ノ決定・四七〇‖裁判ノ取消變更。

320 裁判所カ公判期日ヲ定メ訴訟關係人ニ對シ召喚手續ヲ爲シタル後始テ辯護屆ヲ提出セラレシ場合ニハ其辯護人ハ辯護屆提出當時ノ訴訟進行程度ニ於テ訴訟關係人ト爲ルニ過キサルヲ以テ之ニ對シ最早召喚ノ要ナシ（昭二・大審「法新二七七七號一一頁」）

— 被告人カ出頭セル辯護人ノミニ辯論セシメ 其他ノ 辯護人ノ辯論ヲ拋棄スル旨申立テタルトキハ辯護人ノ出廷ナキニ不拘公判ヲ開廷スルモ違法ニ非ス（昭二・大審「法新二七七七號一一頁」）

第三百十九條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇二九三‖事件ノ送致・三〇九‖管轄違ノ決定・三一三—三一五‖免訴及公訴棄却ノ決定・四五七‖抗告・四七〇‖裁判ノ取消變更・四七一‖檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

◇八四‖召喚狀・九九‖召喚狀ノ送達・五八一‖私訴關係人ノ召喚。少年法四三‖審判期日ニ出席シ又ハ呼出スヘキ者・七三‖豫審又ハ公判ノ手續。陪審法五‖第三條ノ請求ノ期間。

第三百二十一條　第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

◇八一・八二‖期間。陪審法三八‖召喚狀ノ送達ニ要スル期間。

第四章　公判

第一節　公判準備

三二〇　合議裁判所ニ於ケル裁判長ノ職權(大六・明・岡田) (共通) 三二二・三三三・三三四・三三八—三四一・三四七・三四九・三六六・五八三・四三・五一三三五・九三—九五・九七

▽大審院ノ特別事件ノ公判廷ニ於テ裁判長ハ次回ノ公判期日ヲ日曜日ト定メタ、辯護人一同ハ之ヲ不當トシ期日ノ變更ヲ請求シタカ却下サル、ソコテ辯護人ハ公判期日ニ出頭セヌコトニ決議シタ、若シ辯護人カ決議通リニ行動スルトキハ裁判所ハ如何ニシテ公判手續ヲ行フヘキカ、又出頭セサル辯護人一同ニ對シ何等カノ制裁ヲ加ヘラルルカ(大一五・京・瀧川) (共通) 三三四 (關係) 八四・九九・三二二・辯護士法三一

321 被告人異議ナク辯論シタルトキハ本條ノ猶豫期間ノ利益ハ之ヲ拋棄セルモノト認ム（昭四・大審「法新三〇五六號一三頁」）

第三百二十二條　裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得
公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス
◇五〇＝裁判ノ告知。

第三百二十三條　裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得
訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
◇一三三—一三八＝被告人訊問・四一〇11＝上告ノ理由ノ一。少年法六五＝公判期間前ノ調査。陪審法四二＝公判準備期間ノ被告人訊問。

第三百二十四條　裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物又ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ
檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ
◇一九二＝證人ノ召喚・一九四＝證人ノ召喚狀及勾引狀・二二八＝鑑定・二三六＝通譯及翻譯・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇＝裁判ノ告知・四一〇14＝上告ノ理由ノ一。交渉法六。陪四三。

第三百二十五條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得
◇三四二＝訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類。

三二二　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇・三三三・三三四・三三八—三四一・三四七・三四九・三六六・五八三・四三・五一・三三五・九三—九五・九七
▽公判ノ準備手續（大一三・行）（關係）三二六・三二八・三二四・三二五

三二四　證據書類ト證據物トノ別（大一四・京・宮本）

第三百二十六條　裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得
第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
◇三三八＝被告人訊問及證據調・四一〇11＝上告ノ理由ノ一。少年法六五＝公判期日前ノ調査。陪審法四九＝公判準備期日外ニ於ケル證人又ハ鑑定人ノ訊問。

第三百二十七條　裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得
◇二一九以下＝鑑定・二三四＝國語ニ非サル文字又ハ符號・一四〇以下＝押收及搜索・一七五以下＝檢證・一五四＝押收搜索ノ方法・一七八＝檢證ノ方法・二二八＝鑑定・二三六＝通譯及翻譯。少年法六五。陪審法四九。

第三百二十八條　裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
◇二五四＝强制處分・三〇四＝豫審判事ノ公務所ノ報告請求。

第二節　公判手續

第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ
公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク
◇四一〇1＝上告ノ理由ノ一。

第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス
◇三三一＝罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人・三五二＝被告人心神喪失ノ狀態又ハ病疾ノ場合・三六六—三六八＝被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲シ得ル場合・四〇四＝被告人出頭セサル時・四一〇8＝上告ノ理由ノ一。

第三百三十一條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第二節　公判手續

三二九　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・二九二・三三〇・三三一・三四三・四一二—四一四（關係）憲五九・陪審法

三三〇　公判期日懈怠ノ效果（大一一・早・清水）（關係）三三一・三五二・三六六・三六七・三六八・四〇四・四一〇8

三三一　被告人出頭セサルトキ審判ヲ爲シ得ルカ（大一五・行。昭三・中・矢追）（共通）三三〇

332 公判ノ準備及鑑定人訊問ノ各期日ニ於ケル取調ニ際シ被告人ノ身體ノ拘束ヲ解カサリシトスルモ爲ニ其手續ノ違法ヲ來スモノニ非ス（昭五・大審「法新三一三七號七頁」）

第三百三十二條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

◇四一〇9＝上告ノ理由ノ一。

第三百三十三條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

◇三三九＝證人ニ付テノ特例・三六六＝被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷セル場合。

裁構一〇九＝裁判長ノ退廷セシムルノ權。

第三百三十四條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

◇四三＝裁判長ノ辯護人選任・三六八＝辯論終結後ノ宣告・四一〇10＝上告ノ理由ノ一・四三三＝辯護人ノ出席セサル時又ハ其ノ選任ナキ時。陪審法三六＝被告人辯護人ヲ選任セサル時。

第三百三十五條　左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一　被告人二十歲未滿又ハ七十歲以上ナルトキ

二　被告人婦女ナルトキ

三　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

四　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

五　其ノ他必要ト認ムルトキ

◇四三＝裁判長ノ辯護人選任・四一〇10＝上告ノ理由ノ一・四三三＝辯護人ノ出席セサル時又ハ其ノ選任ナキ時。

三三三　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇・三二二・三三四・三三八―三四一・三四七・三四九・三六六・五八三・四三・五一・三三五・九三―九五・九七

三三四　官選辯護ト必要辯護トノ差（大六・明・岡田）（共通）四三・三三五（關係）四一〇10・四三三・陪審三六

▽大審院ノ特別事件ノ公判廷ニ於テ裁判長ハ次回ノ公判期日ヲ日曜日ト定メタリ、辯護人一同ハ之ヲ不當トシ期日變更ノ請求ヲシタカ却下サル、ソコテ辯護人ハ公判期日ニ出頭セヌコトヲ決議シタ若シ辯護人カ決議通リニ行動スルトキハ裁判所ハ如何ニシテ公判手續ヲ行フヘキカ、又出頭セサル辯護人一同ニ對シ何等カノ制裁ヲ加ヘ得ルカ（大一五・京・瀧川）（共通）三二〇・辯護士法三一（關係）八四・九九・三二二

336 犯人ノ性行經歷ト犯罪行爲トカ交涉スル場合ニ在リテハ其犯罪ト交涉ヲ有スル限度ニ於テ證據ニ依リ認定セラレタル性行經歷モ之ヲ當該犯罪認定ノ資料ト爲スヲ妨ケス（昭四・大審「法新三〇八六號九頁」）

337 共同被告人ノ一人ノ爲シタル供述ハ常ニ他ノ者ノ爲ニ證據タリ得ルニ適スルモノトス（昭四・大審「法新三〇〇一號一三頁」）―苟モ法令ニ禁止セサル限リ直接ニ之ヲ證明スルモノナル

第三百三十六條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

◇爆發物取締罰則六＝爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者。

第三百三十七條　證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條　被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

◇一三三以下＝被告人訊問・一七五以下＝檢證・一八四以下＝證人訊問・二一九以下＝鑑定・二三二以下通譯及翻譯・三三九―三四二・三四九。

第三百三十九條　裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

◇三四八＝裁判長ノ處分ニ對シテノ異議ノ申立。少年法六八＝少年ノ被告人ト他ノ被告人トノ分離・六九＝少年ニ對スル被告事件ト他ノ被告事件トノ分離・七〇＝少年ノ被告人ノ退廷。

三三六　裁判ニ採用スヘキ證據範圍（昭五・明・岡田）

三三七　實質的眞實主義（大一一・京・宮本。昭四・關・宮本）

▽自由心證主義及法定證據主義（大六・東・牧野。大九・中・林。大一一、大一四・中・林。昭六・司）（共通）三四六

▽證據ノ意義及種類（大一二・京・宮本）（共通）三四〇・三四一・一三四・一八四

▽自由心證ノ原則（大一一・東・牧野）

▽顯著ナル事實ト證明（大元・京・富田）

▽第三三七條ノ說明（昭四・辯）

三三八　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

ト間接ニ證明スルモノナルトヲ問ハス汎ク事實認定ノ資料トナシ自由ニ其ノ採擇ヲ許ス趣旨ナリ（最判昭和二九・六・五刑集八巻六号九七五頁）

第三百四十條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風說又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル處アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限リ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

問題

三四〇　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）四八・三四一・二・三四三・三・五三・三五四・裁構一二〇（関係）二八・一一六・三二四4項・三六五—三六七

▽裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽證據ノ意義、種類（大一二・京・宮本）（共通）三三〇

▽直接證據ト間接證據（大五・法・清水）（共通）三四一

▽訴訟關係人異議ナキトキ證據物證據書類ノ取調ヲ省略シ得ルヤ（昭二・早・清水）（共通）三四一

▽證據書類ノ證據調ノ方法、手續（大一四・行、辯。昭四・中・平井。昭六・中・矢追）（共通）三四一・三四二

▽刑訴法ニ於ル書證（大一五・明・板倉）（共通）三四一

三四一　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）四八・三四〇・三四二・三四三・三五三・三五四・裁構一二〇（関係）二八・一一六・三二四4項・三六五—三六七

▽現行刑訴法ニ於ル直接審理トソノ例外（大二・東・豊島。大三・中・林）（共通）三四三・一七八・一五四

▽裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽證據ノ意義、種類（大一二・京・宮本）（共通）三三七

▽直接證據ト間接證據（大五・法・清水）（共通）一三四・一八四・三四〇

▽訴訟關係人異議ナキトキ證據物證據書類ノ取調ヲ省略シ得ルヤ（昭二・早・清水）（共通）三四〇

▽證據物ノ證據調ノ方法、手續（大一四・辯、行。昭四・中・平井。昭六・中・矢追）（共通）三四二

340 法令ヲ判決ノ證據理由ノ引用ニ中明說ノ由理據ノ證據ハ於テ合場スル用ニ（昭五・大審「法新三一一九號一六頁」）

343 區裁判所ノ管轄ニ屬スル本件ニ於テ檢事聽取書ヲ罪證ニ供シタルハ違法ニ非ス（昭五・大審「法新三一九六號四頁」）

第三百四十二條　公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

◇三二五‖公判期日前ニ於ケル物證ノ提出・一〇13‖上告ノ理由ノ一。

第三百四十三條　被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　供述者死亡シタルトキ

二　疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三　訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

◇五六‖訊問調書・六〇‖公判調書ノ作成及記載事項。裁構一六‖刑事事件ノ區裁判所管轄。陪審法七一—七五證據。

第三百四十四條　證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

◇四八‖裁判ノ方式・五〇‖裁判ノ告知・六六‖訊問調書・四一〇14‖上告ノ理由ノ一。

三四二　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）三四〇

▽證據書類、證據物ノ證據調ノ方法、手續（大一四・行、辯。昭四・中・平井。昭六・中・矢追）（共通）三四〇・三四一

三四三　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・二九二・三二九—三三一・四一二—四一四（関係）憲五九・陪審法

▽直接審理主義（大三・中・林。昭六・東・小野）

▽現行刑訴法ニ於ル直接審理トソノ例外（大二・東・豊島。大三・中・林）（共通）三四一・一七八・一五四

▽檢事ノ聽取書ハ證據ト爲シ得ルヤ（大一三・中・林）（関係）五六・六〇・關稅法八六・九三・裁構一六・陪審七一—七五

345 公判廷ニ於ケル審理手續ハ本條ノ順序ニ依ルヲ普通トスルモ必要ナル場合ニハ被告事件ノ陳述ニ先チ證人訊問ヲ爲スヲ妨ケス（昭五・大審「法新三一七四號八頁」）

347 本條第二項ノ告知ハ各個ノ證據ニ付各別ニ之ヲ爲スノ要ナク數個ノ證據ニ付テ一回之ヲ爲スヲ以テ足レリトス（昭六・大審「法新三二六〇號一三頁」）

348 公判期日ノ指定ノ如キハ公判ノ準備手續ニ屬シ公判中ニ於テハ之ヲ爲スヲ得ス（昭五・大審「法新三一七四號八頁」）

第三百四十五條　裁判長被告人ニ對シ第百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

◇一三三以下＝被告人訊問・三三八―三四二＝被告人訊問及證據調・四一〇12＝上告ノ理由ノ一。陪審法六＝被告人ト陪審ノ評議。

第三百四十六條　區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限リ他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

◇四一〇13＝上告ノ理由ノ一。

第三百四十七條　裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

◇四八＝裁判ノ方式・五〇＝裁判ノ告知・六六＝訊問調書・四一〇15＝上告ノ理由ノ一。陪審法七八＝裁判長ノ說示。

第三百四十九條　證據調終リタル後檢事公訴ノ趣旨及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フ

三四五　辯論ノ意義（昭五・日・清水）共通　三四六―三四九

三四六　自由心證主義（大六・東・牧野。大一一、大一四・中・林。昭六・司）共通　三三七

▽自白ノ性質（大一三・京・宮本）關係　三二七

▽第三三七條トノ關係（大一五・京・瀧川）

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）共通　三四五・三四七―三四九

▽第三四六條ノ說明（昭六・行）

三四七　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）共通　三二〇

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）共通　三四五・三四六・三四八・三四九

三四八　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）共通　四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）共通　四六

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）共通　三四五―三四七・三四九

三四九　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）共通　三二〇

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）共通　四六

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）共通　三四五―三四八

申立ノ議異リ依ニ條本シ對ニ之テ以ヲルサ非ニ分處ノ長判裁ケル爲ヲスヲ得ス（「昭五・大審「法新三一〇五號一一頁」」）

ヘシ

◇四一〇17＝上告ノ理由ノ一。少年法七三＝豫審又ハ公判ノ手續・四四＝少年保護司、保護者及附添人ノ意見ノ陳述。陪審法七六。

第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條　裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第三百五十二條　被告人心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

◇四一〇16＝上告ノ理由ノ一。陪九八＝公判手續更新ノ場合。

第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

◇四一〇16＝上告ノ理由ノ一。陪九八＝公判手續更新ノ場合。

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

◇五〇＝裁判ノ告知・六六＝訊問調書・二八七＝時效ノ進行・四一〇16＝上告ノ理由ノ一・三七＝被告人意思能力ヲ有セサル時。

三五一　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）共通　四四

三五二　被告人ノ訴訟能力（大一〇、大一一、昭三・中・林）共通　三六―三八・三〇五・三五三

▽訴訟條件（大一三・中・小野）共通　三六四

▽公判辯論ノ停止ヲナスヘキ場合（大七・日・宮城）關係　五〇・六六・二八七・四一〇16・三七

三五三　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）共通　四八・三四〇―三四三・三五四・裁構一二〇關係　二八・一一六・三二四4項・三六五―二六七

▽被告人ノ訴訟能力（大一〇、大一一、昭三・中・林）共通　三六―三八・三〇五・三五二

▽公判手續ノ更新（昭四・司口。昭四、昭六・東・小野）共通　三五四關係　四一〇16・陪審九八

第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
◇四一〇16上告ノ理由ノ一。

第三節　公判ノ裁判

第三百五十五條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ
◇一―〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝地方裁判所ノ刑事訴訟ノ管轄。刑訴三五六・三五七＝管轄違ノ言渡ヲ爲シ得サル場合・三七一・三七二＝管轄違ノ言渡ト勾留狀及押收・五六九＝公訴ノ管轄違ノ言渡ト私訴。陪五三。

第三百五十六條　地方裁判所ハ其ノ管內ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得
◇裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄。

第三百五十七條　裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス
管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス
管轄違ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

◇一＝土地管轄・二＝數個ノ牽連事件カ事物管理ヲ異ニスル時・五・六＝數個ノ牽連事件カ土地管理ヲ異ニスル時・一〇＝同一事件事物管理ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スル時・一三四＝被告事件ニ就テノ訊問・三二三＝公判期日前ノ被告人訊問・三四七＝證據ニ對スル被告人ノ辯解ト被告人ニ對スル證據提出ノ告知・三四九＝證據調ヲ終リタル後。

第三節　公判ノ裁判

三五五　管轄違緊屬事件ノ裁判（昭五・明・岡田）[共通]三五六―三五七・一三[関係]三六四1
▽訴訟條件（大一三・中・小野）[共通]三六四
▽起訴ノ效力、權利拘束ノ意義、效果（大二・京・吾孫子。大七・東・牧野。大一四・日・清水。昭三・司。昭五・辯）[共通]三五六―三五九・三六二―三六五

三五六　管轄違緊屬事件ノ裁判（昭五・明・岡田）[共通]三五五・三五七・一三[関係]六四1

360　本條第二項ニ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張トハ犯罪構成要件以外ノ事實ニシテ法律上犯罪ノ不成立ニ歸スヘキ事實上ノ主張ノ義ナリ（昭五・大審「法新三一二二號一五頁」）—第二項ニ所謂主張トハ法律上特定ノ事實アル場合ニハ必然刑ノ減免ヲ爲スヘキ場合ニ關スルモノニシテ法律上刑ノ減免ヲ爲シ得ル旨ヲ定メ之ヲ爲スト否トヲ裁判所ノ裁量ニ委ネシ場合ノ如キハ之ニ該當セス（昭五・大審「法新三二一一號九頁」）

第三百五十八條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ
刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ
◇刑二五＝刑ノ執行猶豫。少年法六六＝裁判所又ハ豫審判事ノ職權ヲ以テノ處分・七一＝少年審判所送致ノ決定・七二＝第六十六條ノ處分ノ效力ノ消失。刑訴三七一。

第三百五十九條　被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ
◇刑三六＝正當防衛行爲ノ爲ニ依ル刑ノ免除・三七＝緊急避難行爲ノ爲ニ依ル刑ノ免除・四三＝未遂ニ依ル刑ノ免除・八〇・九三・一九八＝以上ハ自首ニ依ル刑ノ免除・一一三・二〇一＝以上ハ情狀酌量ニ依ル刑ノ免除・一七一・一七〇・一七三＝以上ハ自白ニ依ル刑ノ免除・二四四・二五一・二五五・二五七等＝以上ハ他ノ理由ニ依ル刑ノ免除。刑訴三七一。

第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ
◇三五八＝有罪及執行猶豫ノ判決・三五九＝刑ノ免除ノ判決・四一〇19 24＝上告ノ理由。刑三五一四一＝犯罪ノ不成立・四三＝未遂罪・四五以下＝併合罪・五六以下＝累犯・六三＝從犯・八〇・九三・二四四・二五一・二五五・二五七。陪審法九七。

三五八　被疑者、被告人、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ區別（大一三・明・岡田庄）[共通]一二三・二七八[関係]一二九・二五五
▽檢事甲事實ヲ起訴、豫審判事連續犯トシテ甲乙二事實ニ付決定、然ルニ裁判所ハ乙事實ヲ證據十分、甲事實ヲ不十分ト認メタル事案ノ判決（大五・東・牧野）
▽檢事甲乙二事實ヲ併合罪トシテ起訴、豫審判事ハ之ヲ一個ノ連續犯トシテ決定、裁判所ハソノ甲事實ヲ證據十分、乙事實ヲ不十分ト認メタル事案ノ判決（大五・東・牧野）[共通]三六二

362 連續罪トシテ公訴提起アリシ場合ニ裁判所ハ事實審理ノ結果其一罪ノ一部ヲ認メサルトキハ其部分ハ元來獨立一罪トシテ公訴事實ノ一部ニ非サルヲ以テ之ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス（昭二・大審「法新二七九七號一四頁」）

363 事物管轄ヲ同クスル數個裁判所中同一事件ニ付後ニ公訴ヲ受ケシ裁判所ノ裁判ヨリ先ニ確定スルニ至リタルトキ又ハ最初ニ公訴ヲ受ケシ裁判所カ誤テ本案ニ付有罪ノ判決ヲ言渡シ其判決ニ付キ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日內ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文竝罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

◇三九五＝控訴ノ提起期間・四一八＝期間・五三＝裁判調書ノ謄本抄本・六〇＝公判調書・八一＝期間ノ計算。

第三百六十二條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇三七一＝無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ判決ヲ以テ免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ト勾留セラレタル被告人。陪審法九七＝判決ノ言渡。

第三百六十三條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ
二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ
三　大赦アリタルトキ
四　時效完成シタルトキ

◇三七一＝無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ト勾留セラレタル被告人。陪審法五四＝免訴ノ決定。刑訴二八一―二八七＝時效・三五八・三六三＝有罪ノ判決・三六二＝無罪ノ判決・五三三＝略式命令ノ確定。違警罪即決例七等。恩赦令二・三。

第三百六十四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

三六三　確定判決（大一一・刪・鈴木）共通　三一四
關係　三五八・三五九・三六二・三六三・五三三・違警罪即決例七

▽訴訟條件（大一三・中・小野）共通　三六四

▽免訴ノ裁判（大一二・東・牧野。昭五・東・小野）
共通　三一三・三一四・四八三　關係　三一八・三一九・三五二・三七一・四八六・五九〇

▽判決ノ效力（昭二・緑。昭四・明・岡田。昭五・明・板倉。昭六・九・上原）共通　三一三―三一五・三六四　關係　三一七・四八五―五一五・五一六―五二二

▽免訴ノ判決（昭三・司）

三六四　訴訟條件（大一三・中・小野）共通　三一五・三五五・三〇九・三一〇・三五六・三一一・三五七・三六五・三〇五・三五二・三六三・三一四・三一三・一〇I、II・九I、II・三一七・裁構六・八三

▽同事件カ二重ニ公訴提起セル時ノ處理（昭六・行）
共通　五三五

スル有ヲ力定確ノ樣同ト判決ノ所判裁スル有權ヲ判審付ニ案本ハ
ニ至ル（昭五・大審「法新三一二八號五頁」）

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ
二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ
三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ
四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ
五　告訴又ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ
六　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

◇三七一＝無罪・免訴、刑ノ免除其ノ他言渡ト勾留セラレタル被告人・三七二＝押收物ト沒取ノ言渡。陪審五三＝公訴棄却又ハ管轄違ノ決定・三一五6＝公訴棄却ノ決定ノ場合ノ1＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス事由ノ一・三六五一八〇・一八三・二〇八・二一九・二二二・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上ハ凡テ親告罪ニ關スル條文・九〇＝九二＝國交ニ關スル罪。刑訴二六七＝告訴ノ取消・二九〇＝二九一＝公訴ノ提起。

第三百六十五條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ
二　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ
三　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇二九二＝公訴取消・三七一＝無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ト勾留セラレタル被告人・三七二＝押收物ト沒收ノ言渡・四五九以下＝即時抗告。陪審法五三＝公訴棄却又ハ管轄違ノ決定。

第三百六十六條　被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇四八＝裁判ノ方式・三三〇＝被告人ノ出廷・三三三＝被告人ノ退廷・四一〇8上告ノ理由ノ一。裁構一〇九＝裁判長ノ退廷セシムルノ權。

第三百六十七條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇四八＝裁判ノ方式・三三〇＝被告人ノ出廷・四一〇8＝上告ノ理由ノ一。

三六六　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）共通　三二〇

372 所謂判示ノ犯罪ニ供シタル物ハ犯人ノ用ニ供シ又ハ供セントシタルモノニ非サルモ犯罪ノ用ニ供シタル物ニ過キス固ヨリ獨立ノ主體自レ其ハ没收ヲ附加スヘキ解然ラサルトキハ没收ヲ及之ヲ包藏セル袋ナレハ之ヲ没收スヘキ旨ヲ判示スルヲ以テ足レリトス（大判六・一二・刑集一巻八一四頁）

（昭二・大審「大判六巻八九二頁」）

第三百六十八條　辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

◇五〇＝裁判ノ告知・五一＝裁判ノ宣告・三六九＝有罪ノ判決ヲ告知スル場合・三七〇＝裁判長ノ訓諭。

第三百六十九條　有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

◇三五八・三五九＝有罪ノ判決・三九五＝控訴ノ提起期間・三九六＝控訴ノ申立書・四一八＝上告ノ提起期間・四一九＝上告ノ申立書。

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ裁判所ヲ告知スヘキ裁判ノ言渡アリタルモノトス

◇三五八・三五九＝有罪ノ判決・三九五＝控訴ノ提起期間・三九六＝控訴ノ申立書・四一八＝上告ノ提起期間・四一九＝上告ノ申立書。

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付テハ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇三五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三五八・三五九＝有罪ノ判決・三六一＝無罪ノ判決・三六三＝免訴ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四・三六五＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決及決定。

第三百七十二條　押收シタル物ニ付没收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇三五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三五八・三六五＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決及決定・二九三・三六八　刑事閲席判決ニ關スル手續ノ特質（大三・東・豊島）（關係）五〇・五一

376 被告人ノ爲ニスル上訴ハ下級裁判所ノ裁判ニ對スル不服ヲ以テ其本人ノ利益ヲ爲ス目的ヲ以テ申立ニシテ被告人ノ意思ニ反スルトキハ之ヲ却下スヘキモノトス（大一〇・旭地「評論一〇一刑訴四三頁」）

第三百七十三條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

◇一六六＝押收物ノ還付。

第三百七十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝卽時抗告ノ期間其他。

第三百七十五條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝卽時抗告ノ期間其他。

第三編　上訴

第一章　通則

三七六　上訴ノ意義（大九・京・中川。大一五・日・清水）（共通）三七七―三七九（關係）三九四・四〇八・四一六・四五六・四六九・四七四・五八九・五九〇・六一二

▽上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）（共通）三九四・四〇八・四五六

▽起訴ト上訴トノ差別（大九・東・中川）（共通）二七八

379 原審辯護人ノ上告權ハ上告申立ヲ爲スノ權利ノ外上告趣意書ヲ提出スルノ權利ヲ包含セス（昭六・六・大審「評論」二〇刑訴一七五頁）

第三百七十七條　檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

◇二五2項ニ忌避ノ申立・三一ニ忌避ノ申立却下ニ對スル即時抗告・一四〇—一四二ニ差押、差押物ノ提出命令及領置・一四五〇ニ押收捜索ノ命令狀・一五一ニ命令狀ニ指定ナキ他ノ證據物ノ押收・一五三ニ他ノ犯罪ニ關スル證據物ノ押收・一六六・一六七ニ押收物ノ還付・一九〇ニ證人ノ不出頭・二一〇ニ證人ノ宣誓又ハ證言ノ拒絶・二二八ニ鑑定・二三六ニ通譯及翻譯・二三九—二四一ニ告發人、告訴人又ハ上訴者ニ費用ヲ負擔セシムル場合・二四三・三八九・四六九・四七四・五一〇・五六四等。

第三百七十八條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

◇民八八四ニ財産ニ關スル親權・九〇一—九〇四ニ後見人・五三ニ理事・九〇九ニ保佐人。商六一・六二ニ合名會社代表者・一一四ニ合資會社ノ代表者・一七〇ニ株式會社ノ代表者。刑訴三八二・三八三ニ上訴合資會社ノ代表者。

第三百七十九條　原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

◇三九ニ辯護人ノ選任・三三一ニ罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人。

第三百八十條　上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條　上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

◇五〇ニ裁判ノ告知・八一ニ期間ノ計算・三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上訴ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間。

第三百八十二條　檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

◇三八四—三八五ニ上訴ノ拋棄及取下ノ申立・三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル場合・二四一ニ上訴取下ノ場合ノ費用負擔者。

三七九　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）共通　四四

▽辯護人ノ上訴權ノ範圍（昭三・早・清水）關係　三九

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）共通　四六

三八〇　全部上訴ト一部上訴（昭二・辯）

三八二　訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルヤ（昭六・辯）共通　二六七・二九二・一一四

387 避他其災天カ能不ハトヽ云由事サルカヘスヽ歸ニ責故ノ人代人ハ又者權訴上訴ハ上訴ノ不ラス限ニ原因ニ變事ルス場合ニ原因ニ變事ルカヘクヘカラサル事變ニ基カサル一切ノ場合ヲ包含ス（昭五・五大審「新法」三一一六號一五頁）

第三百八十三條　第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

◇三八四—三八五ニ上訴ノ拋棄及取下ノ申立・三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・二四一ニ上訴取下ノ場合ノ費用ノ負擔者。

第三百八十四條　上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

訴訟記錄ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

◇三八五ニ上訴拋棄又ハ取下申立ノ手續。

第三百八十五條　上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

◇六〇ニ公判調書。

第三百八十六條　上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

◇三八二ニ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三ニ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者。

第三百八十七條　第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

◇三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上訴ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間・三八八ニ上訴權回復ノ請求・三九二ニ在監者ノ上訴權回復ノ請求。

第三百八十八條　上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ原由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

◇三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上訴ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間・三九二ニ在監者ノ上訴權回復ノ請求。

三八三　上訴取下（大一五・辯）關係　三七八

三八四　上訴權ハ拋棄シ得ルヤ（大六・中・林）關係　三八二・三八五・三八六

三八六　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）共通　三九五・四一八・四五八・四五九・五三三・違警罪即決例七

▽上訴權ノ消滅（昭五・中・矢追）共通　三九五・四一八　關係　三八一

391 本條ニ基キ監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲ス爲法律上ノ方式ニ違反スルコトナキ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其代理者ニ差出シタルトキハ上訴申立ノ效力ハ其時ニ於テ發生スルモノトス（昭五・法決「法曹八卷五號一九六頁」）

392 第三九一條ヨリ類推スレハ本條ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ノ書面ヲ監獄ノ長又ハ其代理者ニ差出シタルトキハ此時ヲ以テ裁判所ニ對シ拋棄又ハ取下ノ效力ヲ生セシムル法意ナリ（同上）

第三百八十九條　原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝卽時抗告ノ提起期間其他。

第三百九十條　上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

◇九七＝令狀ノ方式・四五七＝抗告。

第三百九十一條　監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此場合ニ於テ上訴ノ提起期間內ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

◇三九五＝控訴ノ提起期間・四一八＝上告ノ提起期間・四五九＝卽時抗告ノ提起期間・七四＝私人ノ署名捺印不能ノ場合。

第三百九十二條　前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

◇三八二＝上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・三八七＝上訴權回復ノ請求ヲ爲シ得ル場合。

第三百九十三條　上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

◇三七六—三七九＝上訴ヲ行ヒ得ル者・三八二＝上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・三八七上訴權回復ノ請求ヲ爲シ得ル場合。

第二章　控訴

第三百九十四條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

◇三七六—三七九＝上訴ヲ行ヒ得ル者・三五五＝管轄違言渡ヲ爲ス判決・三五八・三五九＝有罪ノ判決・三六二＝無罪ノ判決・三六三＝免訴ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四＝公判棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。陪審法一〇一。

第二章　控訴

三九四　上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）［共通］三七六・四〇八・四五六

▽上訴ノ種類（大一三・日・清水）［共通］四〇八・四五六・四八五—四八九・五一六

▽第一審判決ニ對スル不服ノ方法（大一四・日・清水）［共通］四一六・四八五・四八六・五一六

▽控訴ト上告トノ異同（大一四・東・牧野。昭三・司口・昭四・行）［共通］四〇八［關係］三九五—四〇七・四〇九—四五五

三九五　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）［共通］三八六・四一八・四五八・四五九・五三三・違警罪卽決例七

▽上訴權ノ消滅（昭五・中・矢追）［共通］三八六・四一八［關係］三八一

三九八　上訴ノ效力（移審ノ效果）（昭三・中・平井。昭三・明・岡田庄。昭三・司口）［共通］四二一・五三四［關係］四六一1項・四六二・三九七・四二〇・四六〇2項

三九九　附帶控訴（昭五・辯）［關係］三八六

▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司口）［共通］四〇三・四五二・五一四

401 刑事訴訟法ハ覆審主義ヲ採用セルヲ以テ第二審裁判所カ本案ニ付判決ヲ爲ストキハ第一審判決ハ當然其效力ヲ失フモノナレハ第二審判決ハ第一審判決ノ當否ヲ批判スル要ナシ（昭五・大審法新三一九六號七頁」）— 訴控審ノ判決アルトキ第一審判決ハ當然失效スヘキモ右ハ效力ノ問題ニ止マリ事件カ控訴審ニ繫屬スルニ至リシ故ヲ以テ第一審ノ判決ソノモノノ存在ヲ否定スヘカラス（昭五・大審「法新三一八九號」）

第三百九十五條　控訴ノ提起期間ハ七日トス

◇八一＝期間ノ計算・三八一＝上訴ノ提起期間ノ進行。

第三百九十六條　控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

◇三九一＝在監者ノ上訴手續。

第三百九十七條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇三九六＝控訴ノ手續・三八六＝更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・三九一＝在監者ノ上訴手續・三九五＝控訴ノ提起期間・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・四五九＝以下卽時抗告ノ提起期間。

第三百九十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ

第三百九十九條　控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

◇三八六＝更ニ上訴ヲ爲シ得サル者。

第四百條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

◇三九六＝控訴ノ手續・三八六＝更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・三九一＝在監者ノ控訴手續・三九五＝控訴ノ提起期間。

第四百一條　控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ
第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ
◇一—一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴二五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。

第四百二條　第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル事件。少年法七一。
ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得
◇一—一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴二五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。

第四百三條　被告人控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス
◇三七六—三七九＝上訴ヲ爲シ得サル事件。少年法七一。

第四百四條　被告人出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得
◇三三〇＝公判開廷ト被告人ノ出頭・四一〇八＝上訴ノ理由ノ一。

▽主タル控訴ト附帶控訴トノ異同（大五・日・宮城）
▽附帶控訴ノ性質（大四・關・佐藤）
四〇三　不利益變更禁止ノ原則（昭五、六・日・清水）
共通　四五二・五一四　關係　三七六・三七八・三七九
▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司口）　共通　三九九・四五二・五一四
▽被告人ノミノ控訴事件ニ付控訴裁判所ハ追徵金ヲ原審判決ヨリ多額ニ言渡シウルヤ（昭三・早・清水）

第四百五條　控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得
◇三六〇＝有罪ノ言渡ヲ爲ス時。

第四百六條　第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セサリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス
◇四〇四＝被告人出頭セサル時・四〇五＝第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ノ引用。

ノトス（昭六・六・大審「法新」三二六〇號一四頁）

410　事件ノ審理ニ關與シタル一員ノ裁判官カ事件終結後其事件ニ關シ判事ト雖モ職務ノ執行ヲ除斥セラルヘキ判事ト同一ノ公訴ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

第三章　上告

第四百八條　上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
◇三七六—三七九＝上訴ヲ行ヒ得ル者・四〇〇＝控訴ノ棄却・四〇一＝判決ノ更新・四〇二＝事件ノ差戻・四一六＝控訴ヲ爲サス判決ヲ爲シ得ル場合。

第四百九條　上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
◇四一一＝上告ノ理由ト爲スコトヲ得サル場合。
陪審法一〇三＝上告ヲ爲スコトヲ得ル場合。

第四百十條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス
一　法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ
二　職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ
三　判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避ノ申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ
四　審理ニ關與セサリシ判事判決ニ關與シタルトキ
五　不法ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ
六　不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ
七　審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

四〇八　上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）　共通　三七六・三九四・四五六
▽上訴ノ種類（大一三・日・清水）　共通　三九四・四五六・四八五—四八九・五一五
▽控訴ト上告トノ異同（大一四・東・牧野。昭三・司口。昭四・行）　共通　三九四　關係　三九五—四〇七・四〇九—四五五

四〇九　宣誓手續違背ノ證言ノ效力（昭三・中・矢追）　共通　四一一・陪審一〇三

四一〇　區裁判所ニ於テ辯護權行使ヲ不法ニ制限シタル判決效力（大三・東・豐島）　關係　本條11・19
▽判決原本ト公判調書ト牴觸セル記載アリシ場合ノ效力ノ優劣（昭五・明・板倉）　關係　四八・六〇・六四
▽原裁判所ハ判決言渡ノ際判決ノ理由ヲ明示セサリシトノ上告理由ハ原裁判破毀ノ基本トナシウルヤ（大四・東・豐島）　關係　本條19
▽職權審理主義ト其制限規定（大一四・行。大一四・辯。昭六・東北・上野）

判其ハキトルナト異ナト事検事立會検公判ト載セル検記ニ書決ハ第六九條二項ニ違反スト影響ヲ及ホシタルモノニ非サル故上告理由タラス（昭二・大審「法新三一七七二七號」頁）

クシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合・三六〇ノ言渡ヲ爲ス時・七一ニ官公吏ノ作成書類・三〇二・三一三・三二六・三三六・三六七。

第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

◇四〇九ニ法令ノ違反ヲ理由トスル時ノ上告・四一〇ニ上告ノ理由。

第四百十二條　刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

◇四二五ニ上告趣意書・四三四ニ上告裁判所ノ審理範圍。

第四百十三條　再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

◇四八五―四八七ニ再審ノ請求ヲ爲シ得ル判決・四二五ニ上告趣意書・四三四ニ上告裁判所ノ審理範圍・四三五ニ上告裁判所ノ事實ノ取調。

第四百十四條　重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

◇四二五ニ上告趣意書・四三四ニ上告裁判所ノ審理範圍。陪審法一〇三ニ上告ヲ爲シ得ル場合。

第四百十五條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

◇恩赦令二・三。

四一一　宣誓手續違背ノ證言ノ效力（昭三・中・矢追）（共通）四〇九・陪審一〇三

▽第四一一條ノ說明（昭二・東・小野）（關係）四〇九・四一〇

四一二　新刑訴訟ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・二九二・三二九―三三一・三四三・四一四（關係）憲五九・陪審法

▽上告審ニ於ケル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）（共通）四一三・四一四・四四〇・四四一・四四三・四四四

四一三　上告審ニ於ケル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）（共通）四一二・四一四・四四〇・四四一・四四三・四四四

四一四　新刑訴訟法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・二九二・三二九―三三一・三四三・四一二（關係）憲五九・陪審法

▽上告審ニ於ケル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）（共通）四一二・四一三・四四〇・四四一・四四三・四四四

事實ヲ認メタリト謂フヲ得ス（昭五・大審「法新三一八五號」頁）

八　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

九　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタル時・一―一〇ニ裁判所ノ管轄・三五五―三五七ニ管轄違ノ言渡。裁構一六ニ刑事事件ノ區裁判所管轄・二七ニ刑事訴訟ノ地方裁判所管轄・五〇ニ大審院ノ管轄。刑訴三六四ニ公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五ニ公訴棄却ノ決定。裁構一〇五ニ公開停止。憲五九ニ對審判決ノ公開。刑訴三三〇ニ開廷ト被告人ノ出頭・三三一ニ罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人・四〇四ニ被告人出頭セサル時・三三二ニ被告人ノ公判廷ニ於ケル身體ノ拘束・三三四ニ辯護人ナクシテ開廷シ得サル場合・三三五ニ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スル場合・一五八ニ押收捜索ト立會・一七八ニ檢證ト立會・二二七ニ鑑定ト立會・三四五ニ檢事ノ被告事件ノ要旨ノ陳述・三四二ニ訴訟關係人ヨリ提出シタル物證・三四六ニ他ノ證據ノ取調ヲセサルヲ得ル場合・二二四ニ公判期日前ノ取調準備トシテノ物證提出命令・三四四ニ證據調ノ請求ノ却下・三四八ニ裁判所ノ處分ニ對スル異議ノ申立・三五二―三五三ニ被告人心神喪失ノ場合・三四九ニ證據調終リタル後ノ意見ノ陳述・二九一ニ公訴ノ提起・四九ニ裁判所書記ノ立會ナキ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脫シタルトキ

十　不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十一　檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十二　法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十三　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十四　公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲ササリシトキ

十五　法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セサリシトキ

十六　被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシトキ

十七　審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲ス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十八　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

十九　判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

二十　◇陪審法一〇四ニ上告ノ理由アル場合。刑訴三二九ニ公判廷・二四ニ判事ノ除斥・二五ニ忌避・三五四ニ開廷後ニ判事ノ更迭アリタル時・一―一

第四百十六條　左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

◇陪審法一〇二＝大審院ニ上告ヲ爲シ得ル場合。恩赦令二・三。一〇三＝上告ヲ爲シ得ル場合。

第四百十七條　第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇三八二＝上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナル者・三九七・四〇〇＝控訴ノ取下ヲ理由トスルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條　上告ノ提起期間ハ五日トス

◇八一＝期間ノ計算・三八一＝上訴提起期間ノ進行。

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

◇三九一＝在監者ノ上訴手續。

第四百二十條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所又ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四一九＝上告申立書ノ差出所・三八五＝上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立方法・三九一＝在監者ノ上訴手續・四一八＝上告ノ提起期間・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・四五九以下＝卽時抗告ノ提起期間其ノ他。

第四百二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

四一六　第一審判決ニ對スル不服ノ方法（大一四・日・清水）（共通）三九四・四八五・四八六・五一六

四一八　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）（共通）三八六・三九五・四五八・四五九・五三三・違警罪卽決例七

▽上訴權ノ消滅（昭五・中・矢追）（共通）三八六・三九五（關係）三八一

四二一　上訴ノ效力（移審ノ效果）（昭三・中・平井。昭三・明・岡田。昭三・司ロ）（共通）三九八・五三四（關係）四六一I・四六二・三九七・四二〇・四六〇II

423　上告裁判所ハ上告趣意書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ（昭三・三・一五新聞二八四一・法學一巻一號一四三頁）

第四百二十二條　上告裁判所ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十三條　上告申立人ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

◇四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項。

◇四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項・四二七＝上告ノ棄却。

第四百二十四條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

◇四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項。

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

◇四〇九＝法令ノ違反ヲ理由トスル上告・四一二—一五＝第四一〇條以外ノ上告ノ理由・四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場合・四三四＝上告裁判所ノ審理範圍。

第四百二十六條　上告裁判所ハ上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

◇七五—八〇＝送達。

第四百二十七條　上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

◇四二三＝上告趣意書ノ差出期間。

第四百二十八條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

◇七五—八〇＝送達。

第四百二十九條　裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

◇四一九＝上告申立書ノ差出所・四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項・四二八＝答辯書。

第四百三十條　上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

425 被告人ノ辯護人カ相被告人辯護人ノ上告理由ヲ援用シタル場合ニ於テ相被告人カ公判前死亡セル爲公訴棄却ノ決定アリシトキハ其援用ノ效ナシ（昭三・大審「大判七卷六號刑三九六頁」）一 原判決後始メテ現ハレタル新事實ニシテ即チ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現レサル事實ヲ援用シテ上告論旨ト爲シタルモノナルトキハ本條第三項ニ依リ適法ノ上告理由ト爲ラサルモノトス（昭二・大審「新報一三六號一四頁」）

◇四〇‖辯護人ノ選任。

第四百三十一條 上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇四三〇‖上告審ニ於ケル辯護人。

第四百三十二條 公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

◇四二九‖上申申立書、上告趣意書及答辯書ニ付テノ報告書・四二五‖上告趣意書ニ記載スヘキ事項。

第四百三十三條 辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

◇三三四‖辯護人ナクシテ開廷シ得サル事件・三三五‖檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スル場合。

第四百三十四條 上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

◇四二五‖上告趣意書ニ記載スヘキ事項・一—一〇‖裁判所ノ管轄。裁構一六‖刑事事件ノ區裁判所管轄・二七‖刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三六四‖公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五‖公訴棄却ノ決定。恩赦令二・三。

第四百三十五條 上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續竝第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

◇一—一〇‖裁判所ノ管轄。裁構一六‖刑事事件ノ區裁判所管轄・二七‖刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三六四‖公告棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五‖公訴棄却ノ決定。

第四百三十六條 第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

◇四一六‖控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場

439 第二審裁判所カ併合罪トシテ各別一刑ヲ併科シタル場合ニ其判決全部ニ對シ上告申立アリシトキ上告審カ其一ニ付免訴ヲ言渡スヘキモノト判定セルトキハ之ニ關スル部分ノミヲ破毀スヘキモノトス（昭三・大審「大判七卷一號刑五七頁」）

440 原審カ判示第一事實ト同第二事實トカ併合罪ノ關係ニ在リトシ刑法第四七條第一〇條ヲ適用シテ一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ判示第一事實ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ理由存スルニ於テ

合。

第四百三十七條 第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付調査ヲ爲スヘシ

◇四〇八‖上告ト第二審ノ判決・四〇九—四一〇‖上告ノ理由ト爲シ得ル場合・四一一‖上告ノ理由ト爲シ得サル場合。

第四百三十八條 不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

◇一—一〇‖裁判所ノ管轄。裁構一六‖刑事事件ノ區裁判所管轄・二七‖刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三六四‖公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五‖公訴棄却ノ決定・四四九‖差戾ノ判決・四五〇‖移送ノ判決。

第四百三十九條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條 前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條 上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇四四六‖上告棄却ノ判決。

第四百四十三條 上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

四四〇 上告審ニ於ル 事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）〔共選〕四一二—四一四・四四一・四四三・四四四

ハ判示事實全部ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキモノトス（昭二・大審「評論一七卷刑訴一〇八頁」）

449 刑事訴訟法ニハ第二審裁判所カ不法ニ控訴ヲ棄却シタル場合ニ付直接規定ナキモ本條ノ精神ハ第二審裁判所未タ本案ニ付審判ヲ爲ササルニ依ルモノト解スヘキカ故ニ上記ノ場合モ同法條ニ準據シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シテ本案ニ付審判ヲ爲サシムルヲ相當トス（昭五・大審「法新三一二九號五頁」）

第四百四十四條　上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

◇四四〇・四四三＝事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨言渡ス決定・四五五＝上告ノ審判。

第四百四十五條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

◇四一九＝上告申立書ノ差出所・三八六＝更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・三九一＝在監者ノ上訴手續・四一八＝上訴ノ提起期間。

第四百四十六條　上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十七條　上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百四十八條　前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

◇四五五＝上告ノ審判及事理。

第四百四十九條　不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

◇三五五－三五七＝管轄違ノ言渡・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・四〇二＝第一審裁判所ニ差戻ノ判決・四三八＝原判決破毀ノ判決。

第四百五十條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

◇一一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄・五〇＝大審院ノ管轄。

第四百五十一條　被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十二條　被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

四五二　不利益變更禁止ノ原則（昭五、六・日・清水）

452 本條ニ規定スル原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サル制限ハ刑ニ關シテ被告人ノ不利益ニ之ヲ變更スルヲ許ササルノ趣旨ナルヲ以テ假令刑期金額ハ同一若ハ短小ナルモ刑名ヲ變シテ重キ刑名ト爲スコトヲ得サルコトヲモ包含スルノ趣旨ナリト解スヘキモノトス（昭二・大審「新報一三四號一一頁」）

第四百五十三條　判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百五十四條　原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

◇三六五＝第一審裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定・四〇六＝控訴裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定。

第四百五十五條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章　抗告

第四百五十六條　抗告ハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇三一＝忌避ノ申立却下ノ決定ニ對スル卽時抗告・三五＝裁判所書記ノ除斥忌避等ニ對スルモノ・一九〇＝證人出頭セサル時ノ決定ニ對スルモノ・二一〇＝證人ノ宣誓又ハ證言ノ拒絕ニ關スル決定ニ對スルモノ・二二八＝鑑定ニ關スル決定ニ對スルモノ・二三六＝通譯及翻譯ニ關スル決定ニ對スルモノ・二四三・二四四＝訴訟費用ニ關スル決定ニ對スルモノ・三一六＝管轄違及免訴ノ言渡ノ決定ニ對スルモノ・三六五＝判決棄却ノ決定ニ對スルモノ・三七四＝執行猶豫ニ關スル請求ニ就テノ決定ニ對スルモノ・三七五＝犯罪事實ニ關スル請求ニ就テノ決定ニ對スルモノ・三八九＝上訴權回復ノ請求ニ關スル決定ニ對スルモノ・三九七＝判決ノ申立ニ關スル決定ニ對スルモノ・四〇六＝第一審裁判所ノ公訴棄却ニ關スル決定ニ對スルモノ・四二〇＝上告ノ申立ニ關スル決定ニ對スルモノ・四六九＝抗告裁判所ノ決定ニ對スルモノ・四七四＝裁判長判事檢事及司法警察官ノ處分ノ取消變更ニ關スル請求ニ就テノ決定ニ對スルモノ・五一〇＝再審ノ請求ニ關スル決定ニ對スルモノ・五二九・五三一＝正式裁判ノ請求ニ關スル決定ニ對スルモノ・五六四＝疑義又ハ異議ノ申立ニ關スル決定ニ對スルモノ・四五七・五八九・五九〇・五九一・六一二。

共通　四〇三・五一四　關係　三七六・三七八・三七九

▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司口）共通　三九九・四〇三・五一四

第四章　抗告

四五六　上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）共通　三七六・三九四・四〇八

457 公判ニ於テ證據調ノ請求ヲ却下スル決定ノ如キハ本條第一項ニ所謂訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ包含セラルルモノト解スヘキモノニシテ此決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ規定ナキヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（昭四・大審「法新三〇八五號九頁」）

第四百五十七條　裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付之ヲ適用セス

◇三・四＝數個ノ牽連事件カ事物管轄ヲ異ニスル時・六・七＝數個ノ牽連事件カ土地管轄ヲ異ニスル時・九・一〇＝管轄ノ競合・二及移轉ノ請求・三二四4項＝物證其他ニ關スル請求ノ却下・三四4項＝證據調ノ請求ノ却下。刑訴一一三＝陪九＝管轄移轉ノ請求ヲ爲ス時。刑訴一一四＝勾留ノ期間・一一四＝勾留ノ原由消滅・一一六＝保釋ノ取消・三一九但書＝押收ノ存續・一六六＝押收物・一九2項3項＝保釋ノ請求ト許可・一二二3項＝被告人ノ留置・三一・三二六五・四〇六・五一〇。

第四百五十八條　抗告ハ即時抗告ヲ爲スヘキ場合ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消シ又ハ變更スヘキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇四五九＝即時抗告期間。

第四百五十九條　即時抗告ノ提起期間ハ三日トス

◇五〇＝裁判ノ告知・三八一＝上告ノ提起期間ノ進行・八一＝期間ノ計算・三九一＝在監者ノ上告手續。

第四百六十條　抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ一部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條　抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十二條　即時抗告ノ提起期間内及其ノ申立アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

◇四五九＝即時抗告ノ提起期間。

▽上訴ノ種類（大一三・日・清水）共通　三九四・四〇八・四八五—四八九・五一六

四五八　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）共通　三八六・三九五・四一八・四五九・五三三・違警罪即決例七

469 本條第一號乃至第五號ニ於テハ主トシテ被告人其他ノ訴訟當事者ニ對シ爲サレシ決定ヲ列擧規定シ第六號ニハ訴訟當事者ニ非サル證人鑑定人ヲ例示的ニ揭出セルニ鑑ミレハ第六號ニ所謂其ノ他ノ者ノ中ヨリハ訴訟當事者タル被告人若クハ被告人ノ地位ニ立ツヘキ者ヲ除外スル趣旨ナリト解スルヲ相當トス（大一四・大審「大判四卷八號刑四五九頁」）

第四百六十三條　原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記錄及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記錄及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條　抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條　抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

◇三一六＝管轄違、免訴及公訴棄却ノ言渡ノ決定ニ對スル即時抗告。

第四百六十六條　抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

◇四五六—四六〇＝抗告ノ期間及手續。

第四百六十七條　抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條　第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス

第四百六十九條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ揭クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一　公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三　再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五　裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

六　證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

◇三六五＝第一審裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル即時抗告・四〇六＝控告裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スルモノ・三九七＝控訴ノ申立棄却ニ付テノ決定ニ對スルモノ・三八九＝上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スルモノ・五一〇＝再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スルモノ・三七五＝犯罪事實ニ關スル請求ニ付テノ決定ニ對スルモノ・五六四＝疑義又ハ異議ノ申立ニ付テノ決定ニ對スルモノ・一九〇・二一〇＝證人ノ受ケタル決定ニ對スルモノ・二二八＝鑑定人ノ受ケタル決定ニ對スルモノ・二三六＝通事及翻譯人ノ受ケタル決定ニ對スルモノ・二四三・二四四＝訴訟費用ニ付テノ決定ニ對スルモノ。

第四百七十條　裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ揭クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求

スルコトヲ得
一　忌避ノ申立ヲ却下スル裁判
二　勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判
三　鑑定ノ爲被告人ノ留置ヲ命スル裁判
四　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シタル事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日內ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求期間內及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

◇二九＝回避ノ申立却下・九三・一二二＝召喚勾引及勾留・一一六＝保釋ノ請求ト許可・一五四・一六九＝押收捜索・一六六・一六七＝押收物ノ還付・二一二3項＝鑑定ノ爲ノ被告人ノ留置・二一八＝鑑定・二一二4項・二一三＝證人ノ訊問・二二五＝鑑定ニ付必要ナル處分・二三六＝通譯及翻譯。

第四百七十一條　檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條　前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條　第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條　第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝卽時抗告ノ提起期間其ノ他。

四七〇　裁判ノ取消變更(大一三・辯)

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第四百七十五條　裁判所構成法第五十條第二號ニ揭クル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長捜査ヲ爲スヘシ

◇刑七三＝天皇乃至皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者・七五＝皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者・七七—七九＝內亂ニ關スル罪。

第四百七十六條　控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲スヘシ

第四百七十七條　第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲スヘシ

第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察吏ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ捜査ノ補助ヲ爲スヘシ

第四百七十八條　檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前捜査ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條　檢事總長捜査ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條　檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

◇八＝數個ノ事件牽連スル場合。

第四百八十一條　大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條　大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

四七九　檢事總長ハ直接地方裁判所ノ豫審判事ニ大審院特別權限事件ノ豫審ヲ求メタリ、豫審判事ハ之ヲ大審院ニ移送スヘキカ、或ハ他ノ如何ナル裁判ヲ爲スヘキカ(昭三・明・板倉)(共同)四八〇・四八一・三一五

第四百八十三條　大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ

一　被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二　被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三　被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

第四百八十四條　第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ之ヲ準用ス

第五編　再審

第四百八十五條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

一　原判決ノ憑據ト爲リタル證據書類又ハ證據物ニ付偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二　原判決ノ憑據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虚偽ナリシコト證明セラレタルトキ

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四　原判決ノ憑據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

485　本條第二號ニ所謂原判決ノ憑據ト爲リタル證據ノ虚偽ナリシコト證明セラレタルトキハ原判決ニ於テ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲スヘキ場合ニ該當スルヤ否ヤニ付テハ學說ノ分ルル所ナリ然レトモ本條ハ原判決ノ憑據ト爲リタル證據ノ虚偽ナリシコト證明セラレタルトキニ限リ再審ノ請求ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルニ過キス原判決ノ憑據ト爲リタル證據ノ虚偽ナリシコトヲ解釋シテ原判決ノ憑據ト爲リタル證據ノ虚偽ナリシコトヲ證明スルニ足ルヘキ證據ヲ發見シタル場合ニモ再審ノ請求ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルモノニ非ス（昭六・大審「法新」一二八四號七頁）本條第六號後段ニ所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキトハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタル場合ヲ謂フモノニアラス（昭二・大審「法新」二七五九號七頁）

◇四八九＝確定判決ヲ得ル能ハサル時ノ再審ノ請求・四九二＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル者。

第四百八十六條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ

三　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

◇四八九＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル場合・四九二＝再審ノ請求・四九五＝再審ノ請求ト公判ノ時效期間。

第四百八十七條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴又ハ上告ノ申立ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

◇四〇〇＝控訴ノ棄却ノ判決・四八九＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル場合・四九二＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル者・四九五＝再審ノ請求ト公判ノ時效期間。

第五編　再審

四八五　通常裁判所ト軍法會議トノ關係（大一五・日・鹽野）（共通）四八六（關係）陸海軍軍法會議法。刑事交涉法

▽上訴ノ種類（大一三・日・清水）（共通）三九四・四〇八・四五六・五一六

▽第一審判決ニ對スル不服ノ方法（大一四・日・清水）（共通）三九四・四一六・四八六・五一六

▽本條中ニ管轄違ノ確定判決ヲ除外シタル理由（昭六・日・清水）

492 刑事訴訟ニ於テハ特ニ認メシ場合ノ外代理ヲ許サス而テ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ本條ニ列記セルモノノ一ニ該當スルコトヲ要シ而モ委任代理人ニ依ル再審請求ハ不適法タルヲ免レス（昭四・大審「法新二九九八號一六頁」）

第四百八十八條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百三十五條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

◇四四五・四五六＝上告棄却ノ判決・四八九＝確定判決ヲ得ル能ハサル時ノ再審ノ請求・四九二＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル者・四九五＝再審ノ請求ト公訴ノ時效期間。

第四百八十九條　第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條　再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

◇四九一＝控訴及上告裁判所ノ管轄スル再審ノ請求。

第四百九十一條　判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之ヲ管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

◇三八〇＝上訴ノ裁判ノ部分。

第四百九十二條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ揭クル者之ヲ爲スコトヲ得

一　管轄裁判所ノ檢事

二　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫

四　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁

497 單ニ趣意書及原判決ノ謄本ノミヲ提出シ證據書類若ハ證據物ヲ添付セル再審請求ハ本條ニ違背スルモノト謂ハサルヘカラス（昭四・大審「法新二九五五號一五頁」）

判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

◇四八五＝有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對スル再審ノ請求・四八七＝控訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對スル再審ノ請求・四八八＝上告ヲ棄却シタル判決ニ對スル再審ノ請求。民八八四＝財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・五三＝理事。商六一・六二＝合名會社ノ代表者・一一四＝合資會社ノ代表者・一七〇＝株式會社ノ代表者・二三六＝株式合資會社ノ代表者。民九〇九＝保佐人・九六八以下＝家督相續人・七二六＝親等。

第四百九十三條　檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

◇四九二＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル者・四〇・四二＝辯護人ノ選任ト其ノ手續。

第四百九十四條　再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

◇四九五＝再審ノ請求ト公訴ノ時效期間。

第四百九十五條　第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時效期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

◇二八一—二八三＝時效ノ完成。

第四百九十六條　再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢事ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

◇五〇四—五〇八＝再審棄却及再審開始ノ決定。

第四百九十七條　再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

◇四九〇—四九一＝再審請求ノ管轄裁判所。

第四百九十八條　再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下ケタル者ハ同一ノ原由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

◇四九九＝再審ノ請求又ハ取下ニ準用スル規定。

第四百九十九條　第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條　第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再

審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條　第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

◇四八五—四八七＝再審ノ請求アリタル決定。

第五百二條　第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續ヲ停止スヘシ

◇四八五—四八八＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル決定。

第五百三條　再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ原由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ嘱託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第五百四條　再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

◇四九七＝再審ノ請求手續・四九五＝再審ノ請求ト公訴ノ時效期間・四九八＝再審ノ請求ト取下・五一〇＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇九＝再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス時。

第五百五條　再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ原由ニ因リ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

◇五一〇＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇九＝再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス時。

第五百六條　再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

◇五一〇＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇九＝再審請求ニ付決定ヲ爲ス時。

第五百七條　第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

◇五一〇＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇九＝再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス時。

第五百八條　第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁

511 再審請求ノ趣旨ハ必ス之ヲ陳述スルコトヲ要セサルモノトス（昭二・一二・一五大審院決定、刑集八巻一二九頁）

判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

◇五一〇＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇九＝再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス時。

第五百九條　再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ揭ケル者ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ尚有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

◇五〇四—五〇八＝再審請求棄却ノ決定ノ他。

始ノ決定。

第五百十條　第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝即時抗告ノ提起其ノ他。

第五百十一條　裁判所ハ再審開始ノ決定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

◇五一二＝公判ヲ開カスシテ爲ス判決・五一三＝場合。

再審ノ請求及決定ノ效力ヲ失フ場合。

第五百十二條　死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者、辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前條ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條　第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第五百十四條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

五一四　不利益變更禁止ノ原則（昭五、六・日・清水）

（共通）四〇三・四五二（関係）三七六・三七八・三七九

▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司ロ）（共通）三九九・四〇三・四五二

第五百十五條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編　非常上告

第五百十六條　判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條　公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

◇五一七＝非常上告申立書。

第五百十九條　非常上告ヲ理由ナシトスル判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條　非常上告ヲ理由アリトスル左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ

一　原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス

二　訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ手續ヲ破毀ス

第五百二十一條　非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除タノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十二條　第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編　略式手續

第五百二十三條　區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

◇七五—八〇＝送達・五一四＝略式命令ノ請求・五二六＝正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ提示・五二七＝略式命令ト裁判書謄本ノ送達。

五一六　第六編　非常上告　上訴ノ種類（大一三・日・清水）（共通）三九四・四〇八・四五六・四八五—四八九

▽第一審判決ニ對スル不服ノ方法（大一四・日・清水）（共通）三九四・四一六・四八五・四八六

524 本條ハ略式命令ノ請求書ニ檢事ノ求刑ノ記載ヲ要求セサルヲ以テ假令檢事ノ求刑ノ記載部分ニ缺點アリ爲ニ其ノ求刑ノ效力ヲ失フ場合ト雖モ之カ爲該請求書ノ無效ヲ來スコトナク又該請求書ニ基キ公訴ノ提起ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホサス（昭四・大審「法新三一五一號一三頁」）

528 略式命令ノ請求ハ第一審ノ正式裁判ト之ニ對スル第一審一級審ニ於ケル特別手續ヲ以テ爲シタル公訴ノ提起ト同一書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ル外ニ於テハ同ノ裁判ヲ爲スヘキ事實、適用スヘキ法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

◇四八＝裁判ノ方式・四九＝裁判ノ理由・六六—六九＝裁判書。

第五百二十四條　略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

◇二九〇—二九一＝公訴ノ提起。

第五百二十五條　前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ

第五百二十六條　裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

◇五三三＝略式命令ノ確定。

第五百二十七條　略式命令ニ於テ其ノ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四八＝裁判ノ方式・四九＝裁判ノ理由・六六—六九＝裁判書。

第五百二十八條　略式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

◇七七＝檢事ニ對スル送達。

第五百二十九條　略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

◇八一＝期間ノ計算・五二三＝略式命令ヲ以テ科スル處分ト其ノ送達。

第五百三十條　第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十一條　正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決ヲ迄之ヲ取下クルコトヲ得

◇五三三＝略式命令ノ確定。

第五百三十二條　正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

◇五二八＝略式命令ニ對スル不服ト正式裁判ノ請求・五三〇＝正式裁判ノ取下・五三三＝略式命令ノ確定・四五九以下＝卽時抗告。

第五百三十三條　正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

◇五二八＝略式命令ニ對スル不服ト正式裁判ノ請求・五三〇＝正式裁判ノ取下・五三一＝正式裁判請求棄却ノ決定ト審判開始。

五三三　第七編　略式手續　裁判確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）（共通）三八六・三九五・四

ニヨリテ爲サレシ裁判タルニ過ニキサレシ之ヲ後者トノ關係ニ於テ

一號四九六二新法）（昭二・大審「法新

解ノ法訟訴事刑我ハ求請ノ判裁式正式裁ル對ニ令命式略ー

釋トシテハ代理ヲ許ササルモノト云ハサルヲ得ス（昭五・大審

「法新三二〇一號五頁」）

537 懲役刑ノ執行ハ第五四六條所定ノ事由アル場合ノ外他ノ體刑ヲ執行スル爲ニ停止セラルルコトナシ

第八編　裁判ノ執行

第五百三十四條　裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス（昭二・大審◇四六一＝抗告ノ效力ト裁判執行ノ停止・五三八＝死刑ノ執行。

第五百三十五條　裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス（昭二・大審◇刑九＝主刑ト附加刑・一〇＝主刑ノ輕重・五一＝併合罪ノ處分。

第五百三十六條　上訴ノ裁判ノ執行ハ原裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ裁判所ノ檢事ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス（昭二・大審◇一〇〇＝勾引狀及勾留狀ノ執行・一四〇＝差押・一五〇＝押收物搜索場所等ニ關スル命令狀・四〇〇＝控訴棄却ノ判決・四四五—四四六＝上告棄却ノ判決・四六六＝抗告ノ棄却ト裁判ノ更新。司法事務共助法四＝刑事ノ判決ト其ノ執行ノ囑託。

第五百三十七條　裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三十八條　死刑ノ執行ハ檢事之ヲ指揮スル命令狀ニ依ル

第五百三十九條　死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條　司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

◇五二＝檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ト裁判書調書ノ謄本又ハ抄本ノ送付。

第五百三十七條　二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

◇刑九＝主刑ト附加刑・一〇＝主刑ノ輕重・五一＝併合罪ノ處分。

第五百三十八條　死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

第五百三十九條　死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條　司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

一八・四五八・四五九・違警罪即決例七

第八編　裁判所ノ執行

五三四　上訴ノ效力（移審ノ效果）（昭三・中・本井。昭三・明・岡田庄。昭三・司口）（共通）三九八・四二一（關係）四六一I・四六二・三九七・四二〇・四六〇II

五三五　檢事ノ職務範圍（大九・大一一・中・林。昭五・日・豊野）（共通）二四六・二七八（關係）二五二・一一I・二五五

▽同事件カ二重ニ公訴提起セル時ノ處理（昭六・行）

ヲ許ササルハ本條ノ規定ニヨリ明カナリ而テ罰金ヲ納完シ得サル刑ト體刑トヲ變ヘ金刑ヲ罰金ニ合セ換算スル場合ニ因リ受刑者ヲ勞役場ニ留置スル期間ハ本條ノ規定ニ從ヒ其執行方法ヲ變セシムルニ過キサルヲ以テ本條ニ所謂罰金ヲ完納シ得サル者ニ對シ其ノ執行ヲ停止スル事由ト爲サス（大一四・法決・四一六）

第五百四十一條　死刑ノ執行ハ檢事及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ

檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百四十二條　死刑ノ執行ニ立會ヒタル記ハ執行始末書ヲ作リ檢事及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百四十三條　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊癒又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百四十四條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

◇五四五＝本條ノ規定ニ依リ刑ノ執行停止シタル時。

第五百四十五條　前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

◇監四三＝精神病傳染病等ノ病者ニ對スル處置。

第五百四十六條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ揭クル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル處アルトキ

二　七十歲以上ナルトキ

三　受胎後百五十日以上ナルトキ

四　分娩後六十日ヲ經過セサルトキ

五　刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル處アルトキ

六　祖父母又ハ父母七十歲以上又ハ癈篤疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ

七　其ノ他重大ナル事由アルトキ

◇監四三＝精神病傳染病等ノ病者ニ對スル處置・四四＝姙婦、產婦、老衰者及不具者ニ對スル處置。

第五百四十七條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢事ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

◇五五〇＝逮捕狀作成ノ方式。

「法曹三巻五号一一三頁」）

556 上訴申立後ノ未決勾留日数ノ通算ニ付テハ本條ニ於テ特ニ甲事件ニ付テノ禁錮執行アルト共ニ乙事件ニ付テノ禁錮執行ヲ停止スヘキ法定理由ナキヲ以テ甲事件ニ付勾留状ヲ發シ之ヲ執行スルトキハ之ヲ爲其刑ノ執行ヲ停止スヘキ限ニ在ラス（昭三・大審「新新二八四五號九頁」）

第五百四十八條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

◇五五〇＝逮捕狀作成ノ方式。

第五百四十九條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事ハ檢事長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管内ノ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

◇五五〇＝逮捕狀作成ノ方式。

第五百五十條　逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢事又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添附スヘシ

第五百五十一條　逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

◇八九＝勾引シタル被告人ト訊問及勾留事及司法警察官ノ爲ス押收捜索。

第五百五十二條　逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾留狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

◇一〇〇―一〇七―一〇五＝勾引狀及勾留狀ニ關スル法令ノ規定・一〇七―一〇九＝勾引狀又ハ勾留狀ノ執行・一七四＝檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部

二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

◇刑二一＝未決勾留ノ日數。

第五百五十三條　罰金、科料、沒收、追徵、過料、沒取、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ於テハ民事訴訟法ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

◇少年法六一＝費用ノ徵收・七三＝公判及豫審ノ手續。刑補法一七。

第五百五十四條　沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徵ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徵ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

◇民九六四＝家督相續ノ開始。刑補法一七。

第五百五十五條　法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徵ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

◇商四四ノ三＝會社ノ合併。刑補法一七。

第五百五十六條　上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

未決勾留存スルモノトス（大一五・大審「大判五巻一〇號」）

560 警察官カ質屋取締法第一六條ノ規定ニヨリ遺失物又ハ盜品ヲ押收シタル場合モ之ヲ以上本條ノ押收ニ外ナラス故ニ被害者ノ所在不明ノトキハ質屋取締法第一六條ヲ適用セス本條ヲ適用ス（昭五・法決「法曹八巻五號一九七頁」）

561 本條ニ規定セル疑義ノ申立ハ刑ノ言渡ヲ受ケシ者カ其裁判ノ解釋ヲ裁判所ノ判斷ヲ爲シタル事項ニ於テ合場ニ付疑義アリトスル

一　檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部

二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

◇刑二一＝未決勾留ノ日數。

第五百五十七條　沒收物ハ檢事之ヲ處分スヘシ

◇刑一九＝沒收シ得ル物。

第五百五十八條　沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢事ハ破壞又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢事ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

◇八一＝期間ノ計算。

第五百五十九條　僞造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

僞造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條　押收物ノ還付ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間内ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

◇八一＝期間ノ計算。

第五百六十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

◇五六三＝疑義又ハ異議ノ申立。

第五百六十二條　裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

◇五六三＝疑義又ハ異議ノ申立。民八八四＝財産ニ關スル親權・九〇一―九〇四＝後見人・九〇九＝保佐人・五三＝理事。商六一―六二＝合名會社ノ代表者・一一四＝合資會社ノ代表者・一七〇＝株式會社ノ代表者・二三六＝株式合資會社ノ代表者。

五六〇　公知ノ事實（昭二・行）

法不當不キヘルサル許テシ判テシ非スニルムル求ヲ釋解ノ決判ハレナ績手ルム求ヲ鳴ラシ之カ更正ヲ如キハ疑義ノ申立トシテ決ノ判ヘ求ヲ當不ノ決判テシ非スニルムル求ヲ釋解ノ決判ハレナ績手ルム求ヲ鳴ラシ之カ更正ヲ如キハ疑義ノ申立トシテ決ノ判ヘ求ヲ當不ノ決判テシ非スニルムル求ヲ釋解ノ決判ハレナ績手ルム求ヲ鳴ラシ之カ更正ヲ如キハ疑義ノ申立トシテ決ノ判ヘ求ヲ當不ノ決判テシ非スニルムル求ヲ釋解ノ決判ハレナ績手ルム求ヲ鳴ラシ之カ更正ヲ如キハ疑義ノ申立トシテ決ノ判ヘ

（「大審院判決録」二九輯一四〇頁・昭四・大審「法新」七〇號一四頁）

567 本條ノ身體ナル語ハ廣ク解シ被害者ノ死亡ニ因ルル其父母配偶者等ノ受クル精神上ノ苦痛ヲ蒙リタル場合モ所謂身體ヲ害セラレタルモノノ中ニ包含セシムルヲ相當ト認メ得（大一四・大審「大」判録二〇輯六三二頁）

第五百六十三條　疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百九十一條ノ規定ハ疑義又ハ異議ノ申立及其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百六十四條　疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇六六‖裁判書・四九‖裁判ノ理由・四五九以下‖即時抗告ノ提起期間其ノ他。

第五百六十五條　罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲メ爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

◇五四四—五四六‖刑ノ執行停止・五四七—五五二‖逮捕狀。刑一八‖科料及罰金。

第五百六十六條　第五百五十三條第一項ノ裁判ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九編　私訴

第一章　通則

第五百六十七條　犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財產ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十八條　私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

◇三四九‖證據調終リタル後ノ意見陳述。

第五百六十九條　公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇三五五‖事物管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決。

第五百七十條　私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ（大正十五年法律第七十二號ヲ以テ但書削除）

◇五七二11‖請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決ニ關スル規定。

第五百七十一條　私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇六〇七・六一〇・六一二‖事件ヲ差戻シ又ハ移送スル場合。

第五百七十二條　民事訴訟法中左ニ揭グル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ即時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

一　訴訟能力
二　共同訴訟人
三　第三者ノ訴訟參加
四　訴訟代理及輔佐
五　訴訟費用
六　擔保（大正十五年法律第七十二號ヲ以テ本號改正）
七　訴訟上ノ救助
八　訴訟手續ノ中斷及中止
九　當事者本人ノ出頭
十　訴訟上ノ和解
十一　請求ノ拋棄（大正十五年法律第七十二號ヲ以テ本號改正）

十二　訴又ハ上訴ノ取下
十三　強制執行

◇民訴四五以下‖當事者能力及訴訟能力・五九以下‖共同訴訟・六四以下‖訴訟參加・七九以下‖訴訟代理人及輔佐人・八九以下‖訴訟費用ノ負擔・一〇七以下‖訴訟費用ノ擔保・一八以下‖訴訟上ノ救助・二〇八以下‖訴訟手續ノ中斷及中止・一三一‖訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲ノ當事者本人ノ出頭命令・一三六‖訴訟上ノ和解ト其ノ爲ノ當事者本人ノ出頭命令・二〇三‖和解又ハ請求ノ拋棄・二三六‖訴ノ取下・三六三‖控訴ノ取下・三九六‖上告及上告審ノ訴訟手續・四九七以下‖強制執行。

第五百七十三條　當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

◇五七二4項‖訴訟代理及輔佐ニ關スル規定

第五百七十四條　辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

◇三九・四三二‖辯護人ノ選任。

五七二　訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）共通
四六

577 本條ノ規定ニ依レハ私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用スルモノナルヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却シタル私訴判決ニ對スル控訴ノ審判ニ於テ一審原告ノ請求ヲ正當トスルトキニ於テモ私訴ニ關スル原判決ヲ廢棄スヘキニ非サルモノトス（大一四・法決「法曹四卷一號一二二頁」）

第五百七十五條　當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

◇四四＝辯護人ノ職權。

第五百七十六條　私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

◇民訴四二〇以下＝再審。

第五百七十七條　私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

◇六〇七・六一〇・六一二＝事件ノ差戻ト移送。

第二章　第一審

第五百七十八條　私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ

◇五八二＝口頭ヲ以テノ私訴提起。民訴二二三以下＝訴ノ提起。

第五百七十九條　訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應シテ之ヲ差出スヘシ

第五百八十條　裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ

公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

◇七五—八〇＝送達。

第五百八十一條　公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ

第五百八十二條　原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條　私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得

◇三四九＝證據調終リタル後ノ意見陳述。

第五百八十四條　原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ

被告ハ答辯ヲ爲スヘシ

第五百八十五條　裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命スヘシ

第二章　第一審

五八三　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

五八五　訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

第五百八十六條　公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス

第五百八十七條　裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍內ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

◇五六七＝私訴ヲ提起シ得ル者・五七〇＝私訴ノ判決。

第五百八十八條　檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス

檢事私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者ノ辯論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得

◇三二九＝公判期ニ於ケル取調・三四九＝證據調終リタル後ノ意見ノ陳述。

第五百八十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十條　公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

◇三六二＝無罪ノ判決・三六三＝免訴ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五＝公判棄却ノ決定。

第五百九十一條　略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

◇五三三＝略式命令ノ效力。

第五百九十二條　裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

第五百九十三條　當事者召喚ヲ受ケテ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ秩序維持ノ爲退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇裁構一一〇＝法廷ノ秩序維持ト當事者證人及鑑定人。

五八七　第五八七條ノ解釋（昭六・東・小野）（關係）五六七・五七〇

五八九　私訴權取消ノ原因（大二・京・吾孫子）（共通）五六八・五九〇・五九一

597 私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對スル上告ハ公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ及法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ事實ノ誤認アルコトヲ以テ其理由ト爲スコトヲ得ス（大一三・大審「評論一四卷刑訴七四頁」）

第三章　上訴

第五百九十四條　私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

◇四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上訴ヲ爲シ得ル場合・三八二＝上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者。

第五百九十六條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

◇四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場合・八一＝期間ノ計算。

第五百九十七條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ

二　法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

◇四〇八＝上告ヲ爲シ得ル判決・四一〇＝上告ノ理由・四一一＝上告ノ理由ト爲スコトヲ得サル場合。

第五百九十八條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ

二　判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

◇四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場合。

第五百九十九條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴

ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

◇三九四＝控訴ヲ爲シ得ル判決・三八二＝控訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ公訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・三九七＝控訴申立棄却ノ決定・四〇〇＝控訴棄却ノ判決。

第六百條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

◇三九四＝控訴ヲ爲シ得ル判決・五九八＝私訴ニ付上告ヲ爲シ得ル判決・八一＝期間ノ計算。

第六百一條　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得

◇四二三＝上告趣意書ノ差出期間。

第六百二條　上告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

◇五七二＝私訴ノ審判手續・五七四＝私訴ニ於ケル辯護人ト訴訟行爲。

第六百三條　當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條　第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス

第六百五條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第六百六條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條　前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

一　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス

二　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス

612 本條ニ基キ附帶私訴事件ヲ其裁判所ノ旨ニ立申ノ定指日期ノ者事當ハ部事民同テ於ニ合シタル場ト爲ス移送ヘク（大一四・法決ス付送ヘキモノトス直接其民事部ニ局檢事當該ハ）

616 舊法ノ下ニ於テ公訴ノ被告人タラサル上告人ヲ相手方トシテ提起シタル私訴ハ適法ナリシヲ以テ現行法ノ下ニ於テモ適法ニ移送スルヲ相當トス（大一四・法決・四四八＝上告理由アルニ依リ原判決ヲ破毀スル時。）

第六百九條　前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除ク外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條　第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ

◇四四九＝不法ニ管轄違ノ言渡シ又ハ公告ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スル時。

第六百十二條　上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百十三條　本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附則

第六百十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年勅令第二百十五號ヲ以テ大正十三年一月一日ヨリ施行）

第六百十五條　明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條　本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條　本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條　本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ原由ノ疏明ヲ爲ササリシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日內ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條　本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百二十條　本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則

六一六　舊法施行中ノ起訴犯罪ニ對スル公訴時效ノ成否（大一四・東・牧野、小野）（關係）刑六・刑施法四▽刑訴法ノ時ニ關スル效力（大一三・辯）

舊カ所裁判ハ訴訟法ニ依ル檢事聽取書ヲ證據トシテ採用スルト否トヲ決スルハ法律ノ解釋ニ關スル問題ニシテ事實ノ認定ニ關スルモノニアラス然ラハ本條第二項ノ規定ニ依リ同法施行前ノ手續ナリ（大一三・大審「新報」一七號二二七頁）」

原判決カ舊法ニ依ル檢事聽取書ヲ證據トシテ採用スルト否トヲ決スルハ訴訟法施行同法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケサルカ故ニ原判決ニ該當スルモノトス然ラハ本條第二項ノ規定ニ依リ同法施行前ノ手續ナリ（大一三・大審「新報」一七號二二七頁）」

第六百二十一條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第六百二十二條　本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十三條　第二百六十五條ニ規定スル期間ハ本法施行前犯人ヲ知リ又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百二十四條　本法施行前免訴ノ決定確定シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第百七十五條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十五條　本法施行前爲シタル本案前ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十六條　本法施行前明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ取調ヲ命セラレタル受命判事ハ事件ニ付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六百二十七條　本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得本法施行前闕席判決ニ對シテ爲シタル故障申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十八條　本法施行前爲シタル抗告ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル卽時抗告ト看做ス

第六百二十九條　本法施行前爲シタル再審ノ訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付スヘシ

第六百三十條　本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ

第六百三十一條　本法施行前提起シタル要償ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百三十二條　本法中市町村吏員ニ關スル規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適用ス

本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

◇一五七＝押收捜索ト立會・一七四＝檢事及司法警察官ノ押收捜索・一七八＝檢證・一八三＝檢事及司法警察官ノ檢證・五四五＝懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ル爲刑ノ執行ヲ停止シタル場合。

附則（大正十五年法律第七十二號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス）

3　正式裁判ノ請求アリタルトキハ被告事件ハ通常裁判所ニ繫屬シ同時ニ卽決處分ハ其效力ヲ失フモノト解スルヘキモノトス從テ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル結果被告事件通常裁判所ニ繫屬シタル以上之カ取下ヲ爲スコトヲ得ス（昭三・法決「法曹六卷四號一四六頁」）

違警罪卽決例

（明治十八年九月二十四日　太政官布告第三十一號）

改正、昭和六—法六六

明治十四年九月第四拾四號布告及ヒ同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ違警罪卽決例別紙ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

（別紙）

違警罪卽決例

第一條　警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地內ニ於テ犯シタル「違警罪」ヲ卽決スヘシ

但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條　卽決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘテ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　卽決ノ言渡ニ對シテハ「違警罪裁判所」ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

被告人ノ法定代理人、保佐人、又ハ配偶者ハ被告人ノ爲獨立シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得（昭和六年法律第六十六號ヲ以テ本項ヲ追加）

第四條　卽決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限竝ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ卽決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日內第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日內トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ「違警罪裁判所」檢察官ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限內ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ卽決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ「一圓ヲ一日」ニ折算シテ之ヲ留置ス其「一圓」ニ滿サル者ト雖モ仍ホ「一日」ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ「一日ヲ一圓」ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限內之ヲ留置ス但刑期五日內ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十條ノ二　前二條ノ規定ニ依リ留置シタル場合ニ於テハ速カニ被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬配偶者及ヒ被告人ノ屬スル家ノ戶主中被告人ノ指定スル者ニ其旨ヲ通知スヘシ（同上本條ヲ追加）

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ「一日ヲ一圓」ニ折算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第十四條　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ留置セラレタル者ノ接見又ハ書類其他ノ物ノ接受ニ付テハ刑事訴訟法第百十一條及ヒ第百十二條第一項ノ規定ヲ準用ス但接見ハ之ヲ禁止スルコトヲ得ス（同上本條ヲ追加）

附　則（昭和六年法律第六十六號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年八月三十一日公布）

1　陪審事件ト非陪審事件トハ其判決ニ對スル上訴ノ方法ヲ異ニシ同法ニ依リ刑事事件ニ關シ犯シタル罪ト民事ニ關シ犯シタル罪トハ其ノ審判ヲ爲ス裁判所ヲ異ニシ又陪審事件ニ關スル訴訟ニ於テハ豫審ヲ經ルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

2　陪審事件ニ關スル訴訟ニ於テハ豫審ヲ經ルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

3　陪審事件ニ關スル訴訟ニ於テハ豫審ヲ經ルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

4　陪審事件ニ關スル訴訟ニ於テハ豫審ヲ經ルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

5　陪審事件ニ關スル訴訟ニ於テハ豫審ヲ經ルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

6　陪審事件ニ關スル訴訟ニ於テハ豫審ヲ經ルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

7　本條但書ノ所謂必要的共同被告人ニ關スル規定ハ所謂共犯共同ノ場合ニ適用スルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇〇四號一四頁）

陪審法（大正十二年四月十八日法律第五十號）

改正、昭和四―法律五一

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル陪審法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陪審法

第一章　總則

第一條　裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付キ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

第二條　死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條　長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付スヘシ

第四條　左ニ掲クル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪

二　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪（昭和四年法律第五十一號ヲ以テ本號ヲ追加、第三號ヲ第四號トシ第四號ヲ第五號トス）

三　治安維持法ノ罪

四　軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪

五　法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第五條　第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第七條　被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判ニ繫屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條　前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日內ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

管轄移轉ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第十條　管轄移轉ノ請求ヲ取下ケタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキハ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ニ同シ

第十一條　上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章　陪審員及陪審ノ構成

第十二條　陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　帝國臣民タル男子ニシテ三十歲以上タルコト

二　引續キ二年以上同一市町村內ニ住居スルコト

三　引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト

四　讀ミ書キヲ爲シ得ルコト

第十三條　左ニ掲クル者ハ陪審員タルコトヲ得ス

一　禁治產者、準禁治產者

二　破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ

三　聾者、啞者、盲者

四　懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル

第十四條　左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　國務大臣

二　在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官

三　在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官

四　在職ノ宮內官吏

五　現役ノ陸軍軍人、海軍軍人

六　在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳支廳長

七　在職ノ警察官吏

八　在職ノ監獄官吏

九　在職ノ裁判所書記長、裁判所書記

十　在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏

十一　郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ從事スル者竝船員

十二　市町村長

十三　辯護士、辨理士

十四　公證人、執達吏、代書人

十五　在職ノ小學校敎員

關係アル場合ノミナラス一般ノ共犯關係ノ場合ニ適用スルモノトス（大審・昭和五・一・二一新報二〇四八號五九一頁）

15　陪審員ト被害者ト被告人ノ一トノ關係ハ陪審員ト被害者ト被告人トノ關係ト相竝ヒテ其中モトレトモ之ヲ審査カ論ナル勿ヤ要スルヲ以テ足ル（昭・五・大審）

31　補充陪審ハ他ノ陪審員ト共ニ宣誓ヲ爲シ公判ニ立會フ可キ者ヲ許可ノ所判裁論勿ノ定所項二第條〇七第法審陪他其人告被ケ受ヲ忌除ノ交付シタル裁判長ノ但シ得ヘキコトヲ訊問スルコトヲ得ルモノトス（昭四・大審「新報二一二號二四〇頁」）

十六　神官、神職、僧侶、諸宗教師
十七　醫師、齒科醫師、藥劑師
十八　學生、生徒

第十五條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　陪審員被害者ナルトキ
二　陪審員私訴當事者ナルトキ
三　陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ
四　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戸主又ハ家族ナルトキ
五　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
六　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
七　陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ
八　陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人トナリタルトキ
九　陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、佐人又ハ私訴當事者ノ代理人トナリタルトキ
十　陪審員事件ニ付制事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ

第十六條　左ニ揭クル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得

一　六十歲以上ノ者
二　在職ノ官吏、公吏、教員
三　貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル

第十七條　市町村長ハ每年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村內ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登載スヘシ

陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ

市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第十八條　市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

第十九條　法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縱覽期間內及其ノ後七日內ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ疏明スヘシ

第二十條　市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滯ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ

市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滯ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町

村長及異議申立人ニ通知スヘシ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命シ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　地方裁判所長ハ每年九月一日迄ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域內ノ市町村ノ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第二十三條　市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者ノ選定ニ之ヲ準用ス

第二十四條　區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス

區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條　市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第二十七條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ年內再ヒ陪審員ニ選定セラルルコトナシ

第二十九條　陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條　陪審ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第三十一條　裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他

公ニフルヲ稽キ基ニ旨ノ度制審陪シ寛通ヲ條〇四第及條本　37
判準備手續ニハ陪審員ノ立會ヲ要セサルコト疑ナシ檢證及鑑定カ之ヲハキトキトナルモノニ同シ（昭・五）シ外ニ爲サレシ公判準備手續ニ異議ナキモノトキハ一ノ事件ヲ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ　38
猶豫期間ハ召喚ヲ受クヘキモノニ於テハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
存セサルコトヲ得（昭三・法決「法曹六卷八號九四頁」）

第三章　陪審手續

第一節　公判準備

第三十五條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ

第三十六條　被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三十四條　陪審員ノ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テハ補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フ者之ニ代ルモノトス
ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル

第三十二條　同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條　檢事及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日ニ審理スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十四條　陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第二節　公判準備

第三十五條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ

第三十六條　被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　公判準備期日ニハ被告人ヲ召喚スヘシ

第三十八條　召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

第三十九條　公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備期日トス

第四十條　公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス
公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲スコトヲ得ス辯護人數人アルトキハ其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足ル

第四十一條　第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ

第四十二條　公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ付出頭シタル被告人ヲ訊問スヘシ
陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得
檢事及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

第四十三條　公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調ノ決定ヲ爲スヘシ
檢事、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコトヲ得

日期判公ルス對ニ人護辯テ以ヲ故ノアル定規ノ項一第條本　47
ノ召喚狀ノ送達ト公判期日ト間ノ日七ニ猶豫期間ヲ存セサルヘカラサルモノトナスヘキニ非ス蓋辯護人ハ召喚狀ノ送達ヲ受クル前ト雖本條第一項ニ定ムル請求ヲ爲シ得ヘキヲ以テナリ（大・五昭）
審「新報一一二號八一頁」

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第四十四條　裁判所書記ハ公判準備調書ヲ作リ公判準備期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢事被告人辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

第四十五條　公判準備調書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外被告事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名竝手續ヲ爲シタル裁判所年月日及裁判長陪席判事檢事裁判所書記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セサルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　公判準備調書ハ三日內ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ
裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閱シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條　檢事、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前迄亦同シ
第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢事、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

第四十九條　公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得

裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條　前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ
公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條　裁判所公判準備期日ニ免訴ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ
免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付キ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條　前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

58　陪審員ニ對スル呼出狀ニハ被告人ノ氏名及被告事件ノ記載ヲ爲スヘキニ非ス（昭五・大審「新報」二二二號九七頁）

60　本條以下ノ規定ヲ通覽スルトキハ陪審員ト被告人トノ身分關係ノミナラス第一五條列記ノ各關係ノ調査モ亦陪審構成ノ手續ニ屬シ從テ第六二條ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ疏明スヘシ（昭五・大審「新報」二三二號二八七頁）

決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス

第五十七條　公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第五十八條　第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セサルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第六十條　陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第二節　公判手續及公判ノ裁判

第六十一條　陪審構成ノ手續ハ判事、檢事、裁判所書記、被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十二條　前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭シタル場合ニ於テ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ

檢事、被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨ノ申立ヲ爲スヘシ

除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十三條　出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條　檢事及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條　裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

69　被告人ハ法ノ規定スル當初ノ一回ニ限リ必要ナル裁判長ノ要求ヲ拒ムコトヲ得ス（昭四・大審「新報」一九七五號二七二頁）

73　證人ノ旅行不在ニヨリ召喚シ難キトキ又ハ召喚ヲ受ケタル者ノ供述ニ代ヘ本條ニ該當スル場合ニ於テ公判期日ニ於ケル被告人ノ面前ニ於テ其ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ得ルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ本條ノ場合ニ於テモ被告人ノ面前ニ於テ供述ヲ爲サシムルコトヲ要スルモノニ非ス（昭四・大審「新報」一九五號二七二頁）

裁判長ハ氏名票ヲ一票宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ

裁判長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ忌避ノ理由ヲ認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス

次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述スルコトヲ得ルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲ササルトキ亦同シ

陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ

第六十六條　前條ノ手續ニ依リ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣言スヘシ

第六十七條　陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條　陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ

第六十九條　裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ說告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第七十條　裁判長ハ陪審判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第七十一條　證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

第七十二條　左ニ揭クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書

二　檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫

三　公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類

四　前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ眞正ナルコトノ證明アルモノ

五　鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

第七十三條　裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病

75　所謂訴訟關係人ノ異議ナキ場合ニハ公判ニ於テ訴訟關係人ノ異議ナキヲ默示スル場合モ含ム（昭四・大審「新報」二〇二號）

77　證據ノ要領ヲ說示スルニハ公判ニ於テ證據調ヲ經タル證據ニ付キ其要領ヲ說示スルヲ以テ足ル（昭四・大審「新報」二七二頁）―裁判長カ被告人ノ性質竝ニ犯罪後ノ情狀ノ一切ノ事由ニ因リ上告理由ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條　證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ援用スルコトヲ得ス

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十六條　前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實竝證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十七條　裁判長ハ說示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十八條　裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第七十九條　陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十條　裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付スヘシ

陪審員ハ問書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條　裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類

80　訴訟當事者カ裁判長ノ發問方法不十分ニシテ主問ノ外補問ノ立ヲ爲シ更ニ申立ヲ爲スニ於テハ本條ノ規定ニヨリ問ノ變更ヲ爲スヘキ必要アリト認メタルトキハ之ヲ許スヘシ（昭五・大審「評論」一九卷七號）

82　本條第二項ニ「公判廷ニ於テ示シタル證據物云々」トアルハ「公判廷ニ於テ調ヘタル證據物云々」ノ誤ナリト云フ（昭四・大審「評論」一八卷一〇號）

97　裁判所カ判決ニ於テ累犯ニ由ル刑ノ加重ヲ爲ス場合ニ當リ前ノ判決ニ付スル陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條　陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條　陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ滯留ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條　陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條　陪審員ハ陪審長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條　陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ說示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條　答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ掲クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條　評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條　陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條　犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半數ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半數ニ達セサルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條　答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ

答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命スヘシ

第九十三條　裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムヘシ

第九十四條　前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條　裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條　陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲

然之ヲ爲スヘク當事者ノ主張ヲ要スルモノニ非ス（昭五・大審「新報二三〇號二五〇頁」）

100 公判調書ニハ第六二條ノ手續ヲ履踐シタル旨ヲ明記スルヲ以テ足リ第一五條所定事項ヲ告知セリヤ否ノ記載ヲ要セス（昭六・大審「新報二七四號二六頁」）

103 刑事訴訟法三四七條第二項ノ手續ハ陪審裁判ニ於テ遵守不要トナス根據ナキヲ以テ右手續ノ違法ハ陪審法裁判ニ於テモ上告スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

第九十八條 引續キ七日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公訴棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ原由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ

第百條 裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ說示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節　上訴

第百一條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第百二條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第百三條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セサリシトキ

二 第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ中立ヲ爲ササリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 裁判長ノ說示法律ニ違反シタルトキ

六 裁判長證據トシテ說示シタルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

七 裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ說示ヲ爲シタルトキ

第百五條 上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ

ノ理由トナル（昭四・大審「評論一九卷三號二八二頁」）

104 本法及刑事訴訟法ヲ通覽スルモ檢事若クハ原審相被告辯護人ノ意見陳述ヲ云爲シ之ヲ上告理由ト爲スコトヲ許容シタル法規一モ存セサルヲ以テ斯ル事由ニ依リテハ上告ヲ爲シ得サルモノト謂ハサルヘカラス（昭四・大審「新報一八四號五七頁」）

除クノ外事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四章　陪審費用

第百六條 左ニ揭クルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一 陪審員ノ呼出ニ要スル費用

二 陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

第百七條 陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五章　罰則

第百八條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク呼出ニ應セサルトキ

二 宣誓ヲ拒ミタルトキ

三 第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 故ナク退廷シタルトキ

五 第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第百九條 陪審員評議ノ顚末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十條 裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入リ又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所內ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條 陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條 過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章　補則

第百十三條 市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第百十四條　第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（第十三條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第百十三條及第百十四條ノ規定ハ昭和二年勅令第百四十四號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス、其他ノ規定ハ昭和三年勅令第百六十五號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス）

本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

附　則（昭和四年法律第五十一號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

恩赦令

（大正元年九月二十六日勅令第二十三號）

改正、昭和二一勅令一〇

第一條　大赦、特赦、減刑及復權ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

第三條　大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ

二　未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條　特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第五條　特赦ハ刑ノ執行ヲ免除ス但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條　減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第七條　勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス但シ特

別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其ノ減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條　復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニ對シ勅令ヲ以テ要件ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ特定ノ者ニ對シ付之ヲ行フ但シ刑ノ執行ヲ終ラサル者又ハ執行ノ免除ヲ得サル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス（昭和二年勅令第十號ヲ以テ改正）

第十條　復權ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス

復權ハ特定ノ資格ニ付之ヲ行フコトヲ得

第十一條　刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦、特赦、減刑又ハ復權ニ因リ變更セラルルコトナシ

第十二條　特赦又ハ特定ノ者ニ對スル減刑若ハ復權ハ司法大臣之ヲ上奏ス（昭和二年勅令第十號ヲ以テ改正）

第十三條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ付スヘシ

第十四條　特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添ヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本

二　刑期計算書

三　犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調查書類

第十五條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ職權ヲ以テ又ハ本人ノ出願ニ依リ司法大臣ニ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得

復權ノ出願ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　復權ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本

二　刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ證スル書類

三　刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後ニ於ケル本人ノ行狀、現在及將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調查書類

本人ノ出願ニ依リ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ願書ヲ添附スヘシ

第十七條　特赦、減刑又ハ復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ送付シ之ヲ本人ニ下付セシムヘシ

第十八條　大赦、特赦、減刑又ハ復權アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ判決ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十九條　本令中司法大臣ノ職務ハ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣、朝鮮臺灣關東州南洋群島又ハ帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ朝鮮總督臺灣總督關東長官內閣總理大臣又ハ外務大臣之ヲ行ヒ檢事ノ職務ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官、領事官又ハ犯罪卽決官廳之ヲ行フ（昭和二年勅令第十號ヲ以テ改正）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年勅令第二百十五號、第二百十六號及第二百三十號ハ之ヲ廢止ス

昭和七年　刑訴問題追錄

▽刑事訴訟法上犯罪ノ意義（東北・上野魁）（共通）憲五以下

▽公開主義（九・上原）（共通）憲五九

▽X裁判所ハ共產黨被告事件ニ付公安維持ヲ名トシテ公判開始前豫メ公開禁止ノ決議ヲナシ最初ヨリ傍聽人ノ入廷ヲ拒否セリ、X裁判所ノ處置ヲ批評セヨ（京・瀨川）（共通）憲五九・刑訴四一〇7

▽訴訟物體ノ單複ヲ區別スル標準（日・矢追）（共通）刑五五

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

一〇　昭和七年三月一日東京市內ニ於テ放火及ヒ窃盜ヲ犯セル後直チニ橫濱市ニ逃走セル犯人アリ、橫濱區裁判所檢事ハ右犯人ニ對スル賭博罪ヲ同年同月二日橫濱區裁判所ニ提起シ、又東京地方裁判所檢事ハ同犯人ニ對スル放火罪及ヒ賭博罪ヲ同年同月三日東京地方裁判所ニ提起セリ、右ノ場合ニ於テ賭博罪ノ公訴ハ何レノ裁判所ニ於テ審判スヘキモノナルカ、且ツ其理由（專・杉浦）（關係）裁構一六・二七・五〇・交涉法五

一一　眞實發見ノ爲メ設ケタル規定ヲ擧ケテ說明セヨ（日・鹽野）（共通）一七五以下

第二章　裁判所職員ノ除外、忌避及回避

二四　某ノ窃盜被告事件ニツキ控訴審（地方裁判所）ノ審理判決ハ、裁判長判事B、判事C、判事Dノ三名ニヨッテ行ハレ、判決原本モ右三名ニヨッテ作成サレタリ、然ルニ判決ノ宣告ノ際第一審（區裁判所）ノ判決ヲナセル判事Aノ之ニ關與シタリ、故ニ被告人某ハ「判事Aハ刑事訴訟法第二四條八號ニヨリ職務ノ執行ヨリ除斥サルヘキモノナルニ拘ラス原審（控訴審）ノ審判ニ關與セルハ法律違反ノ判決ナリ」ト云フ理由ヲ擧ケテ上告セリ、大審院ハ如何ニ裁判スヘキカ（京・瀨川）（共通）四一〇2

第四章　辯護及輔佐

四四　辯護人ノ地位（辯・京・宮本）（共通）四五・四六・一一五・三〇三・三一三——三一六・三三六・二二七・三〇二・三五一・三四八・二五・三七九

第五章　裁判

▽裁判ノ意義（日・矢追）

四八　裁判所ノ爲ス裁判ト處分トノ相違（早・清水）（共通）四九——五二・八三——九一

▽判決・決定・命令ノ區別（專・杉浦）（共通）四九

第九章　被告人ノ召還、勾引及勾留
八三　被告人ノ地位(明・草野)(共通)八四以下・一三三以下・一四一——一四三・一五八・二三七・二一・二九六・三〇〇・三〇三・三一一・三一八・三二〇・三二一・三二四・三二五・三三〇——三三五・三三八・三三九・三四一・三四五・三四六——三四九・三五一・三五二・三五七・三六八・三七一・三七四・三七五・三七六
第十章　被告人訊問
一三五　當事者對等主義(九・上原)(共通)一三六・二九六
第十二章　檢　證
一七五　檢證ト鑑定トノ差異(東北・上野魁)(共通)一七六以下・二一九以下
第十三章　證人訊問
一八四　證人ノ意義(日・鹽野)
▽證人ト鑑定人トノ異同(行)(共通)二一九
第二編　第一審
第一章　搜　查
二五四　搜查實行手續ノ概觀(九・上原)(共通)二五五——二五七
二五八　告訴權ノ性質(日・清水)(共通)二五九——二六八
▽告訴、告發及ヒ自首ノ區別(東北・上野魁)(共通)二六九・二七六・二七二——二七四
第二章　公　訴
二七八　公訴ト告訴トノ關係(京・宮本)(共通)二五八以下
▽公訴提起ト告訴告發トノ關係(東北・上野魁)(共通)二五八・二六九
▽彈劾主義及ヒ便宜訴追制ノ說明(專・杉浦)(共通)二七九
二八〇　不告不理ノ原則(司)(共通)二九一・二九八・2項
第三章　豫　審
二九七　公訴不可分ノ原則(日・清水)
三一五　一事不再理ノ原則(日・清水)(共通)三一七
第四章　公　判
第一節　公判手續
三三六　事實ノ認定ハ證據ニ依ルトノ法則ニ就テ(東・小野)
三三七　自由心證主義(明・草野)
▽證據ノ意義及ヒ種類(鍛)(共通)三四〇・三四一
三四二　公判ニ於ケル證據調ノ範圍(日・清水)(共通)三四四・三四六
第三節　公判ノ裁判
三六四　公訴棄却ノ裁判(司)(共通)三六五(關係)三一五
三六五　(a)同一事件ニツキ事物ト管轄ヲ同ジクスル二個ノ裁判所ニ公訴提起アリタル場合ニ於テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所先ツ本案ニツキ有罪ノ判決ヲ爲シ其判決確定シタル時ハ最初公訴ヲ受ケタル裁判所ハ如何ナル判決ヲ爲スヘキカ(b)右ノ場合ニ於テ最初公訴ヲ受ケタル裁判所モ亦本案ニツキ有罪ノ判決ヲ爲シタリトセハ、手續上如何ニスヘキカ(東・小野)(共通)四一〇五・6(關係)一〇・三一八
第三編　上　訴
第一章　通　則
三八〇　一部上訴ノ說明(早・清水)
第二章　控　訴
四〇五　被告人ハ第一審ニ於テ爲シタル自白ヲ第二審ニ於テ有シタリ、第二審裁判所ハ右ノ自白ヲ證據ト爲スコトヲ得ルカ(行)

附錄

附錄目次

民法親族編中改正ノ要綱……一
民法相續編中改正ノ要綱……四
刑法改正ノ綱領……六
刑法改正豫備草案……八
第一編　總則……八
第一章　法例……八
第二章　犯罪……八
第三章　未遂犯……九
第四章　共犯……九
第五章　刑……九
第六章　刑ノ適用……一〇
第七章　累犯及競合犯ノ處分……一三
第八章　刑ノ猶豫及罪ノ免除……一三
第九章　假釋放……一四
第十章　刑ノ時效資格回復……一四
第十一章　保安處分……一四
第十二章　保護觀察及保護監督……一五
第十三章　期間……一五
第二編　罪……一六
第一章　皇室ニ對スル罪……一六
第二章　內亂ニ關スル罪……一六
第三章　外患ニ關スル罪……一六
第四章　國交ニ關スル罪……一六
第五章　濟職ノ罪……一七
第六章　公務ヲ妨害スル罪……一七
第七章　逃走及犯人藏匿ノ罪……一七
第八章　僞證及證憑湮滅ノ罪……一八
第九章　誣告ノ罪……一八
第十章　不法團結及煽動ノ罪……一八
第十一章　爆發物ニ關スル罪……一八
第十二章　騷擾ノ罪……一八
第十三章　放火及失火ノ罪……一八
第十四章　溢水及水利ニ關スル罪……一九
第十五章　往來ヲ妨害スル罪……一九
第十六章　飲料水ニ關スル罪……二〇
第十七章　阿片煙ニ關スル罪……二〇
第十八章　通貨僞造ノ罪……二〇
第十九章　有價證券僞造ノ罪……二一
第二十章　文書僞造ノ罪……二二
第二十一章　印章僞造ノ罪……二二
第二十二章　禮拜所及墳墓ニ關スル罪……二二
第二十三章　風俗ヲ害スル罪……二三
第二十四章　賭博及富籤ニ關スル罪……二三
第二十五章　殺人ノ罪……二三
第二十六章　傷害及暴行ノ罪……二三
第二十七章　過失傷害ノ罪……二三
第二十八章　決鬪ノ罪……二三
第二十九章　墮胎ノ罪……二三
第三十章　遺棄ノ罪……二四
第三十一章　逮捕及監禁ノ罪……二四
第三十二章　略取及誘拐ノ罪……二四
第三十三章　姦淫ノ罪……二四
第三十四章　脅迫ノ罪……二五
第三十五章　住居ヲ侵ス罪……二五
第三十六章　名譽ニ對スル罪……二五
第三十七章　信用及業務ニ對スル罪……二五
第三十八章　秘密ヲ侵ス罪……二六
第三十九章　竊盜及强盜ノ罪……二六
第四十章　詐欺及恐喝ノ罪……二六
第四十一章　背任ノ罪……二六
第四十二章　贓物ニ關スル罪……二七
第四十三章　毀棄及隱匿ノ罪……二七
〔試驗關係諸法令〕
高等試驗令……二八
高等試驗令施行細則……三〇
高等試驗施行要綱……三〇
高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件……三一
文部大臣指定ノ學校……三三

高等試驗委員及普通試驗委員官制……三四
第一章　高等試驗委員……三四
第二章　普通試驗委員……三四
司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件……三五
大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ニ關スル件……三五
大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ノ施行ニ關スル件……三五
高等試驗ノ受驗資格ニ關スル件……三六
〔試驗問題諸表〕
高等試驗各大學年度別問題索引……三七
高等試驗擔任科目一覽表……四四
大學各科出題者別問題索引……四七

民法親族編中改正ノ要綱
民法相續編中改正ノ要綱
刑法改正ノ綱領

本編ハ臨時法制審議會カ政府ノ諮問ニ對シテ議決答申セル「民法親族編・相續編・中改正ノ要綱」及ヒ「刑法改正ノ綱領」ノ全文ナリ。

民法親族編中改正ノ要綱

（大正十四年五月十九日臨時法制審議會決議）

第一　親族ノ範圍

親族ノ範圍ヲ左ノ如ク定ムルコト

一　直系血族
二　六親等內ノ傍系血族
三　配偶者
四　直系血族ノ配偶者
五　三親等內ノ姻族及ヒ其配偶者
六　子ノ配偶者ノ父母
七　養子ノ父母及ヒ子ノ養父母

第二　繼親子

繼親子ノ關係ハ父又ハ母ノ家ニ生マレタル子ト父又ハ母ノ後妻又ハ後夫トシテ其家ニ入リタル者トノ間ニ生スルモノトシ養子トノ關係亦之ニ準スルモノトスルコト

（附帶決議）

成ルヘク繼親子ノ名稱ヲ避クルコト

第三　庶子ノ入家

庶子ハ父ニ配偶者アル場合ニ於テハ其同意アルニ非サレハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルモノトスルコト

第四　分家

一　直系尊屬ニ非サル成年ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ立ツルコトヲ得ル家族ハ戶主ニ於テ之ヲ分家セシムルコトヲ得ルモノトスルコト
二　成年ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ立ツルコトヲ得ル家族ハ戶主ノ同意ナクシテ分家ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト
三　前二項ノ場合ニ於テハ家ニ在ル父母、父母共ニ在ラサルトキハ家ニ在ル祖父母ノ同意ヲ得ヘキモノトスルコト但父母、祖父母ハ正當ノ理由ナクシテ同意ヲ拒ムコトヲ得サルモノトスルコト
四　前三項ノ條件具備スルモ特別ノ事情アル場合ニハ家事審判所ハ分家ヲ爲サシメサルコトヲ得ルモノトスルコト
五　法定ノ推定家督相續人ハ分家ヲ爲スコトヲ得サルモノトスルコト

第五　廢絕家再興

一　廢絕家再興ニ付テハ民法第七百四十三條ノ要件ノ外廢家者又ハ絕家者ノ親族及ヒ緣故者ヨリ成ル親族會ノ同意及ヒ家事審判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要スルモノトシ家事審判所其認可ヲ與フルニハ利害關係人ヲシテ異議ヲ述フルコトヲ得シムルモノトスルコト
二　廢絕家再興者カ其家ヲ廢スル場合ハ民法第七百六十二條第二項ノ規定ニ準スルモノトスルコト

第六　戶主ノ監督義務

戶主ハ家族ヲ監督シ且必要ナル保護ヲ爲ス權利義務ヲ有スル旨ヲ明ニシ又責任能力ナキ家族ノ不法行爲ニ付キ他ニ責任ヲ負フ者ナキ場合ニ於テハ監督義務ヲ怠ラサリシコトノ證明ナキ限リ其責ニ任スヘキモノトスルコト

第七　戶主權ノ代行

戶主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ戶主ハ戶主權代行者ヲ置クコトヲ得ルモノトシ之ヲ置カサルトキハ親族會ハ戶主權代行者ヲ選任シ且重要ナル事由アルトキハ之ヲ改任スルコトヲ得ルモノトスルコト

第八　離籍及ヒ復籍

一　成年ノ家族ニ家名ヲ汚辱スヘキ重大ナル非行アルトキハ戶主ハ家事審判所ノ許可ヲ得テ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモノトスルコト
二　民法第七百四十九條第三項ヲ削除スルコト
三　家族カ戶主ノ同意ヲ得スシテ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲シタルトキハ戶主ハ家事審判所ノ許可ヲ得テ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモノトスルコト
四　實家ノ戶主ノ同意ヲ得スシテ離婚又ハ離緣ヲ爲シタル者ハ家事審判所ノ許可ヲ得テ之

ヲ離籍スルコトヲ得ルモノトスルコト

五　戸主ハ離籍セラレタル者ヲ復籍セシムルコトヲ得ルモノトスルコト

第九　離緣又ハ離婚等ニ因リテ家ヲ去ル者ノ子ノ家籍

一　離緣又ハ緣組ノ取消ノ場合ニ於テハ養子ノ子ハ家女トノ間ニ生レタルモノニ非サル限リ養子ニ隨ヒテ家ヲ去ルヲ原則トスルコト

二　入夫ノ離婚又ハ入夫婚姻ノ取消ノ場合ニ於テモ亦前項ニ準スルモノトスルコト

第十　廢戸主

一　戸主ニ戸主權ヲ行ハシムヘカラサル重大ナル事由アルトキハ家事審判所ハ戸主權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得ルモノトスルコト但事情ニ依リ之ニ相當ノ財産ヲ與フルコトヲ得ルモノトスルコト

二　前項ノ審判所ハ戸主權ノ代行及ヒ財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得ルモノトスルコト

三　第一項ノ審判手續開始後ニ戸主ノ爲シタル行爲ハ之ヲ否認スルコトヲ得ルモノトスルコト

第十一　婚姻ノ同意

一　子カ婚姻ヲ爲スニハ年齡ノ如何ヲ問ハス「第四ノ二」ニ準スルコト

二　子カ前項ニ違反スル婚姻ヲ爲シタル場合ニ付テハ相當ノ制裁ヲ定ムルコト

三　未成年者カ第一項ニ違反スル婚姻ヲ爲シタルトキハ父母、祖父母ニ於テ之ヲ取消シ得ヘキモノトスルコト

第十二　婚姻ノ成立

一　婚姻ハ慣習上認メラレタル儀式ヲ擧クルニ因リテ成立スルモノトシ其成立證明ノ方法ヲ法律ニ定ムルコト

二　前項ニ依リ婚姻ヲ爲シタルトキハ一定ノ期間內ニ屆出ヲ爲スヘキモノトスルコト

三　第一項ニ依ラサル場合ニ於テハ婚姻ハ屆出ニ因リテ成立スルモノトスルコト

第十三　重婚及ヒ近親結婚

重婚及ヒ近親結婚ハ之ヲ無效トスルコト

第十四　妻ノ能力及ヒ夫婦財産制

一　妻ノ無能力及ヒ夫婦財産制ニ關スル規定ヲ削除シ之ニ代ルヘキ相當ノ規定ヲ「婚姻ノ效力」ノ下ニ設クルコト

二　妻ノ能力ハ適當ニ之ヲ擴張スルコト

三　夫婦ノ一方カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トスルヲ原則トシ夫又ハ女戸主カ其配偶者ノ財産ニ對シテ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利及ヒ夫ノ妻ノ財産ニ對スル管理權ヲ廢止スルコト

第十五　協議離婚ノ同意及ヒ子ノ監護

一　協議上ノ離婚ノ同意及ヒ其ノ同意ノ拒絕ニ付テハ「第四ノ三」ニ準スルコト
右ノ同意ヲ得ス又ハ之ヲ得ルコト能ハサルトキハ家事審判所ノ審判ヲ受クヘキモノトスルコト

二　民法第八百十二條ノ規定ニ依ル監護者ヲ不適當ナリトスルトキハ家事審判所ニ於テ監護者ヲ定ムルコトヲ得ルモノトスルコト

第十六　離婚ノ原因及ヒ子ノ監護

一　離婚ノ原因ハ大體ニ於テ左ノ如ク定ムルコト

(一)　妻ニ不貞ノ行爲アリタルトキ

(二)　夫カ著シク不行跡ナルトキ

(三)　配偶者ヨリ甚シク不當ノ待遇ヲ受ケタルトキ

(四)　配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ甚シク不當ノ待遇ヲナシ又ハ配偶者ノ直系尊屬ヨリ甚シク不當ノ待遇ヲ受ケタルトキ

(五)　配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

(六)　其他婚姻關係ヲ繼續シ難キ重大ナル事情存スルトキ

二　前項第一號乃至第五號ノ場合ト雖モ總テノ關係ヲ綜合シテ婚姻關係ノ繼續ヲ相當ト認ムルトキハ離婚ヲ爲サシメサルコトヲ得ルモノトスルコト

三　子ノ監護ニ付テハ「第十四ノ二」ニ準スルコト

第十七　離婚ニ因ル扶養義務

離婚ノ場合ニ於テ配偶者ノ一方カ將來生計ニ窮スルモノト認ムヘキトキハ相手方ハ原則トシテ扶養ヲ爲スコトヲ要スルモノトシ扶養ノ方法及ヒ金額ニ關シ當事者ノ協議調ハサルトキハ家事審判所ノ決スル所ニ依ルモノトスルコト

第十八　嫡出子ノ否認

一　嫡出子ノ否認權ハ承認ノ一事ニ因リテ之ヲ失フコトナキモノトスルコト

二　否認權ハ否認ノ原因タル事實ヲ知リタル時又ハ出生ノ時ヨリ起算シ現行法ニ比シテ其行使ノ期間ヲ延長スルコト

第十九　私生子ノ名稱

私生子ノ名稱ハ之ヲ廢スルコト

第二十　子ノ認知ノ無效及ヒ取消

一　子ノ認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ反對ノ事實ヲ知リタル時又ハ認知ノ時ヨリ起算シ一定ノ期間內ニ其認知ヲ取消スコトヲ得ルモノトスルコト

二　子其他ノ利害關係人ノ認知ノ無效又ハ取消ノ主張ニ付テハ前項ニ準スルモノトスルコト

第二十一　養子ノ種別及ヒ相續權

一　家督相續人タルヘキ養子ハ之ヲ養嗣子トシ單純ナル養子ト區別スルコト

二　法定ノ推定家督相續人タル男子ナキ戸主ハ男子ヲ養嗣子ト爲スコトヲ得ルモノトスルコト
養嗣子ハ女子ト爲ス爲メニモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト(壻養嗣子)

三　法定ノ推定家督相續人タル女子ニ壻養子ヲ爲シタル場合ニ於テ單純ナル壻養子ト爲ス旨ノ屆出ヲ爲ササルトキハ之ヲ養嗣子ト看做スコト

四　法定ノ推定家督相續人タル男子及ヒ女子ナキ戸主ハ女子ヲ養嗣子ト爲スコトヲ得ルモノトスルコト

五　養嗣子タル女子ハ長女タルト同一ノ相續權ヲ有スルモノトスルコト

六　單純ナル壻養子ハ家督相續ニ關シテハ其配偶者タル女子ト同一ノ地位ヲ有スルモノトスルコト

七　單純ナル養子カ家女又ハ養女ト婚姻シタルトキハ之ヲ壻養子ニ準スルモノトスルコト

八　單純ナル養子ハ法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ限リ家督相續權ヲ有スルモノトスルコト

九　養嗣子ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テハ單純ナル養子又ハ壻養子ハ之ヲ養嗣子ト爲スコトヲ得ルモノトスルコト

十　養嗣子ハ其同意ヲ得テ之ヲ單純ナル養子又ハ壻養子ト爲スコトヲ得ルモノトスルコト但配偶者アルトキハ其同意ヲモ得ヘキモノトスルコト

第二十二　緣組ノ許可

未成年者ヲ養子ト爲スニハ家事審判所ノ許可ヲ受クヘキモノトスルコト

第二十三　緣組ノ同意

養子緣組ノ同意及ヒ其同意ノ拒絕ニ付テハ「第四ノ三」ニ準スルコト

第二十四　尊屬又ハ年長者養子

尊屬又ハ年長者ヲ養子トスル緣組ハ原則トシテ之ヲ無效トスルコト

第二十五　協議離緣ノ同意

協議上ノ離緣ノ同意及ヒ其同意ノ拒絕ニ付テハ「第四ノ三」ニ準シ其同意ヲ得ス又ハ之ヲ得ルコト能ハサルトキハ家事審判所ノ審判ヲ受クヘキモノトスルコト

第二十六　離緣ノ原因

一　離緣ノ原因ハ大體ニ於テ左ノ如ク定ムルコト

(一)　養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ

(二)　養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

(三)　他ノ一方ヨリ甚シク不當ノ待遇ヲ受ケタルトキ

(四)　他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シ甚シク不當ノ待遇ヲ爲シ又ハ他ノ一方ノ直系尊屬ヨリ甚シク不當ノ待遇ヲ受ケタルトキ

(五)　壻養子緣組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚アリタルトキ、婚姻カ無效ナルトキ又ハ其取消アリタルトキ

(六)　其他緣組ヲ繼續シ難キ重大ナル事情存スルトキ

二　前項第一號乃至第五號ノ場合ト雖モ總テノ關係ヲ綜合シテ緣組ノ繼續ヲ相當ト認ムルトキハ離緣ヲ爲サシメサルコトヲ得ルモノトスルコト

第二十七　親權行使ノ制限

母ノ親權行使ニ關シ親族會ノ同意ヲ要スル事項ヲ整理減縮スルコト

第二十八　親権ノ喪失

親権ノ濫用又ハ著シキ不行跡ノ外父又ハ母ニ親権ヲ行ハシムヘカラサル重大ナル事由アルトキハ家事審判所ハ親権ヲ喪失セシムルコトヲ得ルモノトスルコト

第二十九　法定後見人

民法第九百一條及ヒ第九百二條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ家ニ在ル直父母ハ戸主ニ先チテ後見人タルモノトスルコト

第三十　後見監督人及ヒ後見事務ノ監督

一　後見監督人ハ指定ノモノヲ除ク外親族会ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ選任スルコトヲ得ルモノトスルコト

二　後見ノ事務ハ親族会ノ監督ニ属スル外第二次ニ家事審判所ノ監督ニ属スルモノトシ現行法ノ繁雑ナル規定ニ適当ノ改正ヲ加フルコト

第三十一　親族会ノ構成

一　親族会員ノ員数及ヒ選任ハ関係者ニ於テ之ヲ協定シ家事審判所ノ認可ヲ受クヘキモノトスルコト

二　無能力者ノ為メニスル常設親族会ニ付テハ家事審判所ニ於テ会員ヲ選任又ハ改任スルコトヲ得ルモノトスルコト

三　親族会ノ構成カ不能又ハ困難ナル場合ニ於テハ家事審判所ノ審判ヲ以テ其決議ニ代フルコトヲ得ルモノトスルコト

第三十二　親族会ノ代表

親族会ニハ其代表者ヲ置クモノトシ且親族会ノ訴訟当事者能力ヲ認ムルコト

第三十三　親族会ノ決議

一　親族会ノ決議ニ付テハ適当ノ範囲ニ於テ書面表決ノ効力ヲ認ムルコト

二　親族会ノ決議ハ之ヲ家事審判所ニ報告スヘキモノトシ且審判所カ其実行ノ監視督促ヲ為スコトヲ得ル方法ヲ設クルコト

三　親族会カ決議ヲ為サス又ハ之ヲ為スコト能ハサルトキハ家事審判所ノ審判ヲ以テ其決議ニ代フルコトヲ得ルモノトスルコト

第三十四　扶養義務

扶養ニ付テハ扶養ヲ為スヘキ者其他ノ大綱ヲ規定スルニ止メ扶養ノ程度、方法等ニ関スル現行法ノ繁雑ナル規定ヲ整理シ家事審判所ヲシテ適宜之ヲ裁断セシムルモノトスルコト

民法相続編中改正ノ要綱

（昭和二年十二月一日臨時法制審議会決議）

第一

一　戸主ノ死亡ニ因ル家督相続

戸主ノ死亡ニ因ル家督相続ニ於テハ家督相続人ハ被相続人ノ直系尊属、配偶者及ヒ直系卑属ニ対シ相続財産中家ヲ維持スルニ必要ナル部分ヲ控除シタル剰余ノ一部ヲ分配スルコトヲ要スルモノトスルコト

二　前項ノ分配ハ相続財産ノ状態ト分配ヲ受クル者ノ員数、資力、職業、家ニ在ルト否等諸般ノ事情ヲ斟酌シ相当ノ生活維持ヲ標準トシテ之ヲ定ムルモノトスルコト但親族会ノ意見ヲ聴クコトヲ得ルモノトスルコト

三　第一項ノ分配カ決定セラレタルトキハ分配ヲ受ケタル者ハ遺贈ヲ受ケタルモノト看做シ分配決定前ハ相続財産ノ処分ヲ適当ニ制限スルコト

四　被相続人カ生前行為又ハ遺言ヲ以テ財産ノ分配ヲ為シタルトキ第二項ノ分配額以上ニ当ル分配ヲ受ケタル者ニ付テハ第三項ノ適用ナキモノトスルコト

五　第一項ニ掲ケタル者ハ自己ニ対スル分配カ著シク不当ナル場合ニ於テ家事審判所ノ審判ヲ求ムルコトヲ得ルモノトスルコト

第二　戸主権喪失ノ宣告ニ因ル家督相続

戸主権喪失ノ宣告ニ因ル家督相続ニ付テハ第一ニ準スルモノトシ被相続人カ財産ヲ留保シタル場合ニ於テハ留保財産及ヒ相続財産ノ双方又ハ一方ヨリ適宜ニ分配ヲ為スヘキモノトスルコト

第四　一　女戸主ノ入夫婚姻等ニ因ル家督相続

女戸主カ入夫ト婚姻ヲ為ス場合ニ於テハ反対ノ意思表示ナキ限リ家督相続ヲ開始セサルモノトスルコト

二　入夫ノ離婚又ハ入夫婚姻ノ取消ニ因ル家督相続ニ於テハ妻ヲ家督相続人トシ入夫ノ死亡又ハ離居ニ因ル家督相続ニ於テハ妻ハ庶子ニ先チテ家督相続人タルモノトスルコト

三　女戸主ノ死亡、離居、戸主権喪失又ハ国籍喪失ニ因ル家督相続ニ於テハ庶子ハ法定ノ推定家督相続人タラサルモノトシ入夫婚姻ノ取消ニ因ル家督相続カ妻ノ死後ニ生シタル場合亦之ニ準スルコト

第五　一　国籍喪失ニ因ル家督相続

国籍喪失ニ因ル家督相続ハ法定ノ推定家督相続人アルトキ又ハ之ナキ場合ニ於テ戸主カ豫メ指定シタル家督相続人アルトキニ限リ開始スルモノトスルコト

二　戸主カ国籍ヲ喪失シタル場合ニ於テ法定ノ推定家督相続人及ヒ指定ノ家督相続人ナキトキハ絶家シタルモノトスルコト

三　国籍喪失者ノ家督相続人ハ戸主権及ヒ家督相続ノ特権ニ属スル権利並ニ前戸主カ指定シタル相続財産ヲ承継スルコトヲ原則トシ其指定シタル財産ナキカ又ハ著シク少額ナル場合ニ於テハ家事審判所ノ審判ヲ以テ相当ノ財産ヲ承継セシムルコトヲ得ヘキモノトスルコト

第六　一　遺産相続人ノ範囲及ヒ相続順位

遺産相続ニ於テハ配偶者ハ常ニ相続人トシ其他ノ直系卑属ト同一順位ノ相続人トシ共相続分ハ家ニ在ル嫡出家ニ在ラサル直系卑属ノ相続分ハ家ニ在ル嫡出家ニ在ル直系卑属ノ二分ノ一トスルコト

二　遺産相続人中ニ兄弟姉妹ヲ加ヘ其相続順位ハ直系尊属ニ次クモノトスルコト

三　遺産相続人数人アル場合ニ於テハ相続債権者ハ相続財産ノ分割前ニ於テ其財産ニ対シ権利ヲ行フコトヲ得ルモノトスルコト

遺産相続人数人アル場合ニ於テハ指定ノ相続人ナク又ハ指定ノ相続人カ相続ヲ抛棄シタルトキハ原則トシテ被相続人ノ親族ニ限リ之ヲ相続人ニ選定スルコトヲ得ヘキモノトスルコト

第七　一　遺産相続人数人アル場合ニ於テハ相続債権者ハ相続財産ノ分割前ニ於テ其財産ニ対シ権利ヲ行フコトヲ得ルモノトスルコト

二　数人ノ遺産相続人アル場合ニ於テハ相続人ノ選定ヲ為スヘキモノトスルコト

第八　胎児ノ利益保護

相続ニ関シ胎児ノ利益ヲ保護スル為メ管理人ヲ置クコトヲ得ルモノトシ且胎児ノ出生ニ因リテ家督相続人ノ順位ニ変更ヲ生スルコトアルヘキ場合ニ付キ相当ノ規定ヲ設クルコト

第九　家督相続人ノ順位

嫡出女子ノ家督相続人ノ順位ニ付テハ嫡出子ハ女ト雖モ庶子ニ優先スルモノトスルコト

第十　親族入籍者等ノ相続順位

親族入籍者等ノ相続財産ハ法定相続人アルコト分明ナラサル場合ニ於テハ適当ノ範囲ニ於テ書面表決ノ効力ヲ認ムルコト

第十一　一　家督相続人ノ指定

家督相続人ノ指定ニ付テハ被相続人ニ配偶者アル場合ニ於テハ共同意ヲ要スルモノトスルコト

二　家督相続人ニ指定セラレタル者ハ共指定ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトシ拒絶ノ方法、期間等ニ関シ相当ノ規定ヲ設クルコト

第十二　一　家督相続人ノ選定

民法第九百八十二條中兄弟、姉妹ヲ同號トシ共間及ヒ兄弟姉妹ノ直系卑属ノ間ニ於テ第九百七十條ニ準スル順序ニ従ヒテ家督相続人ノ選定ヲ為スヘキモノトスルコト

二　単身戸主ノ死亡ニ因ル家督相続ニ於テ指定ノ相続人ナク又ハ指定ノ相続人カ相続ヲ抛棄シタルトキハ原則トシテ被相続人ノ親族ニ限リ之ヲ相続人ニ選定スルコトヲ得ヘキモノトスルコト

第十三　於ケル

一　相続人確定ノ手続及ヒ相続人欠缺ノ場合ニ於ケル相続財産ノ処理

法定ノ推定家督相続人若クハ指定ノ家督相続人ナク又ハ指定ノ家督相続人カ相続ヲ抛棄シタル場合ニ於テハ相続財産ノ管理人ヲ選任スヘキモノトシ共管理人ニ家督相続人ノ選定ヲ目的トスル親族会招集請求ノ権利ヲ認メ其他相続人ノ確定ヲ迅速ナラシムル為メ相当ノ規定ヲ設クルコト

二　相続人アルコト分明ナラサル相続財産ハ法

三　人クラサルモノトスルコト
相續人曠缺ノ場合ニ於ケル相續財産ノ管理人ハ家事審判所ノ許可ヲ得前戸主ノ扶助ニ依リ生計ヲ維持シタル者其他前戸主ト特別ノ緣故アリタル者又ハ社寺等ニ對シ國庫ニ歸屬スヘキ相續財産中ヨリ相當ノ贈與ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト

第十四　絶家ノ時期
法定ノ推定家督相續人若クハ指定ノ家督相續人ナク又ハ指定家督相續人カ相續ヲ拋棄シ且相續財産管理人ノ選任ナキ場合ニ於テ家督相續開始ノ時ヨリ一定ノ期間内ニ家督相續人確定セサルトキハ其期間滿了ノ時ニ於テ絶家シタルモノトスルコト

第十五　包括遺贈
一　包括受遺者ハ遺言ニ因リ遺産ノ全部又ハ割合ニ依ル部分ヲ受クル者ニ限ル趣旨ヲ明ニスル規定ヲ設クルコト
二　包括受遺者カ其遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一定ノ期間内ニ承認ヲ爲サヽルトキハ拋棄ヲ爲シタルモノト看做ス旨ノ規定ヲ設クルコト

第十六　遺言ノ方式及ヒ效力
一　自筆證書ニ依ル遺言ニ付テハ日附ノ自書及ヒ捺印並ニ民法第千六十八條第二項ノ要件ハ之ヲ缺クモ裁判所ノ認定又ハ家事審判所ノ審判ニ依リテ其效力ヲ認メ得ルモノトスルコト
二　特別方式ノ遺言ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ擴張シ且其效力ヲ認ムル條件ヲ緩和スル爲メ民法ノ規定ニ相當ノ改正ヲ加フルコト
三　遺言ノ趣旨甚シク不當ニシテ遺言者ノ本意ニ出テタルモノト認メ難キ場合ニ於テハ家事審判所ノ審判ヲ以テ救濟ヲ爲シ得ルモノトスルコト

第十七　遺留分
一　遺産相續人タル配偶者及ヒ直系卑屬アル場合ニ於テハ其遺留分ヲ遺産ノ三分ノ二トシ配偶者ノミアル場合ニ於テハ半額トスルコト
二　隱居者カ家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反シテ財産ヲ留保シタル場合ニ於テ家督相續人カ減殺ノ請求ヲ爲サヽルトキハ隱居者ノ死亡ノ際其遺産中ヨリ減殺ヲ請求スルコトヲ得ヘカリシ財産額ヲ取得スルコトヲ得ルモノトスルコト

刑法改正ノ綱領

（大正十五年十月十五日臨時法制審議會決議）

一　各罪ニ對スル刑ノ輕重ハ本邦ノ淳風美俗ヲ維持スルコトヲ目的トシ忠孝其ノ他ノ道義ニ關スル犯罪ニ付テハ特ニ其ノ規定ニ注意スルコト
二　刑ノ量定ニ關スル一般標準ヲ定メ特ニ前項ノ趣旨ニ適合スル規定ヲ設クルコト
三　公權ノ喪失及停止ヲ刑トスル規定ヲ設クルコト
四　譴責ヲ刑トスル規定ヲ設クルコト
五　有罪、無罪ノ判決ヲ言渡シタル場合ニ於テ判決ノ公示又ハ之ニ類スル事項ノ處分ヲ爲シ得ヘキ規定ヲ設クルコト
六　刑又ハ刑ノ附隨處分トシテ居住制限ノ規定ヲ設クルコト
七　刑ニ代ヘ又ハ刑ノ附隨處分トシテ懲罰償金ヲ徵スル如キ規定ヲ設クルコト
八　自由刑ノ執行猶豫ヲ爲シ得ヘキ要件、取消ノ要件ヲ寛大ニシ且宣告刑ノ範圍ヲ廣クスル規定ヲ設クルコト
九　刑ノ執行猶豫ノ範圍ヲ擴張シ罰金、科料、公權喪失及停止ニモ及ホスヘキ規定ヲ設クルコト
十　刑ノ執行猶豫ノ效果ヲ寛大ニスヘキ規定ヲ設クルコト

十一　有罪判決ノ宣告猶豫ヲ爲シ得ヘキ規定ヲ設クルコト
十二　刑ノ免除ヲ受ケ又ハ刑ノ執行ヲ終リ若ハ刑ノ執行ノ免除ヲ受ケタル者ニ對シ法律上、裁判上判決ノ效力ヲ消滅セシムヘキ規定ヲ設クルコト
十三　懲役ニ該ル罪ニ付情狀ニ因リ禁錮ヲ科シ禁錮ニ該ル罪ニ付情狀ニ因リ懲役ヲ科スルコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
十四　自由刑ニ該ル罪ニ付情狀ニ因リ罰金、居住制限ヲ科スルコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
十五　自由刑ニ該ル罪ニ付情狀ニ因リ罰金ヲ併科スルコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
十六　罰金ニ該ル罪ニ付情狀ニ因リ自由刑ヲ科シ又ハ自由刑ヲ併科スルコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
十七　常習犯ニ付テハ特ニ刑ヲ加重スヘキ規定ヲ設クルコト
十八　酌量減免ノ規定ヲ設クルコト
十九　不定期刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
二十　假出獄ノ要件ヲ寛大ニシ其ノ他假出獄ニ關シ受刑者ヲ保護スル規定ヲ設クルコト
二十一　保安處分トシテ勞働嫌忌者、酒精中毒者、精神障礙者等ニ關スル規定ヲ設クルコト
二十二　犯罪ノ豫防方法トシテ罪ヲ犯サヽルヘキ誓約ヲ爲シ保證ヲ提供セシムヘキ規定ヲ設クルコト
二十三　防衛行爲、避難行爲ニ付テハ其ノ要件タル行爲ノ必要性ヲ行爲ノ相當性トスル規定ヲ設クルコト
二十四　自救權ヲ認ムル規定ヲ設クルコト
二十五　法律ノ錯誤ニ因ル行爲ハ情狀ニ因リ刑ヲ減免スルコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
二十六　教唆罪ヲ獨立罪トスル規定ヲ設クルコト
二十七　死刑、無期刑ニ該ル罪ヲ減少スルコト
二十八　皇室ニ對スル罪ノ中天皇ニ對スル罪ニ關シテハ獨立ノ規定ヲ設クルコト
二十九　皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル罪ニ關スル規定ヲ刑法中ニ設クルコト
三十　猥褻、姦淫ニ關スル現行法ノ不備ヲ補ヒ且刑ノ權衡ヲ適當ニスルコト
三十一　法令違反ノ行爲ヲ目的トシテ團結ヲ爲シタル者ヲ罰スル規定ヲ設クルコト
三十二　法令違反ノ行爲ヲ賞揚シ、奬勵シ、煽動シタル者ヲ罰スル規定ヲ設クルコト
三十三　生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ關スル罪ヲ犯シタル者其ノ被害者ト親族又ハ師弟等ノ關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ヲ考慮シテ刑ヲ加重又ハ減免スル規定ヲ設クルコト
三十四　遺棄、扶養義務懈怠等家族制度ヲ破壞スルカ如キ行爲ニ對スル現行法ノ不備ヲ補フコト
三十五　名譽毀損罪ハ之ヲ重キモノト輕キモノトニ區別シ其ノ重キモノハ之ヲ非親告罪ト爲スコト但シ被害者ノ意思ニ反シテ訴追スルヲ得サル規定ヲ設クルコト
名譽毀損罪ノ刑ハ之ヲ重クシ生命、身體ニ對スル罪ノ刑ト權衡ヲ得シムルコト
三十六　名譽毀損罪ニ付被害者ハ事實ノ證明ヲ求ムルコトヲ得ヘキ規定ヲ設クルコト
三十七　暴行及毀棄ノ罪ハ之ヲ非親告罪トスルコト但シ被害者ノ意思ニ反シテ訴追スルヲ得サル規定ヲ設クルコト
三十八　前項ノ罪ニ付テハ其ノ刑ヲ重クスルコト
面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ處罰スル規定ヲ設ケ其ノ刑ヲ重クスルコト
三十九　財産ニ關スル罪ニ付テハ常習犯ヲ除クノ外損害ヲ賠償シタルトキハ其ノ刑ヲ免除シ得ヘキ規定ヲ設クルコト
四十　犯罪終了後ニ刑ノ變更アリタルトキハ判決時法ニ依ルヘキ規定ヲ設クルコト但シ行爲時法ニ於テ定メラレタル刑ノ最上限ヲ超エサルモノトスルコト

刑法改正豫備草案

本草案ハ司法省ノ立案ニ係リ刑法改正委員會ニ於テ審議セル全文ナリ

第一編　總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
帝國外ニ在ル帝國ノ艦船又ハ航空機内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付亦同シ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
一　皇室ニ對スル罪但シ第百三十一條ノ罪ヲ除ク
二　内亂ニ關スル罪
三　外患ニ關スル罪
四　阿片煙ニ關スル罪但シ第二百十四條及第二百十五條ノ罪竝此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク
五　通貨偽造ニ關スル罪中第二百十七條、第二百十八條及第二百二十三條ノ罪竝第二百十七條、第二百十八條ノ罪ノ未遂犯
六　有價證券偽造ノ罪
七　文書偽造ノ罪中第二百二十七條、第二百二十八條、第二百三十條及第二百三十一條ノ罪竝第二百三十條及第二百三十一條ノ罪ノ未遂犯
八　印章偽造ノ罪中第二百三十八條乃至第二百四十條ノ罪竝第二百三十八條第二項、第二百三十九條第二項及第二百四十條第二項ノ罪ノ未遂犯
九　風俗ヲ害スル罪中第二百五十一條及第二百五十二條ノ罪
十　略取及誘拐ノ罪

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ長期五年ノ懲治又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪及其ノ未遂犯ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル外國人ニ之ヲ適用ス但シ犯罪地ノ法令ニ依リ處罰スヘカラサル行爲ニ付テハ此ノ限ニアラス

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタルモノト雖モ同一行爲ニ付更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第六條　犯罪終了シタル後法律ノ變更アリタルトキハ判決時法ヲ適用ス但シ犯罪時法ニ依リ處罰セサル行爲ヲ處罰シ又ハ犯罪時法ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ科スルコトヲ得ス

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其ノ他ノ職員ヲ謂ヒ、公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ
公然ト稱スルハ不定又ハ多數ノ人ノ認識シ得ヘキ狀態ヲ謂フ
暴行ニハ人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ施用シ、又ハ人ヲ無意識若ハ抗拒不能ノ狀態ニ陷ラシムル爲催眠術其ノ他ノ手段ヲ施用スル行爲ヲモ包含ス

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但シ其ノ法令ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第二章　犯罪

第九條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外故意ノ行爲ニ限リ之ヲ罰ス
拘留以下ノ刑ニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外過失ニ因ル行爲モ亦之ヲ罰ス
法律ヲ知ラサルヲ以テ故意又ハ過失ナシトスルコトヲ得ス但シ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十條　罪ト爲ルヘキ事實犯人ノ知ル所ト異ル場合ニ於テ其ノ罪質相同シキトキハ左ノ例ニ依テ處斷ス
一　所犯其ノ知ル所ヨリ重キトキハ其知ル所ニ從フ
二　所犯其ノ知ル所ヨリ輕キトキハ其犯ス所ニ從フ
前項ノ場合ニ於テ其ノ罪質相異ナルトキハ其ノ犯ス所ニ從ヒ故意ノ罪ヲ以テ論ス但シ故意ヲ以テ論スヘキ罪犯人ノ知ル所ヨリ重キトキハ此ノ限ニアラス此ノ場合ニ於テハ其ノ知ル所ヲ以テ論ス

第十一條　故意ニ罪ヲ犯シ誤テ他ノ人又ハ物ニ付キ亦罪ト爲ルヘキ事實ヲ生シタル場合ニ於テ其ノ罪質相同シキトキハ等シク故意ノ罪ヲ以テ論ス

第十二條　結果ニ依リ刑ヲ加重セラレタル罪ハ犯人ニ於テ結果ノ發生ヲ豫見スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ非サレハ其ノ重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

第十三條　法律上ノ義務ニ背キテ罪ト爲ルヘキ事實ノ發生ヲ防止セサル者ハ其ノ事實ヲ作爲シタル者ト同シク之ヲ罰ス
事實ノ發生スヘキ虞アル狀態ヲ惹起シタル者ハ其ノ事實ノ發生ヲ防止スルノ責ニ任ス

第十四條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス
心神耗弱者ノ行爲ハ其ノ刑ヲ減輕ス

第十五條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第十六條　十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第十七條　法令若ハ正當業務ニ因ル行爲又ハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ背カサル慣習ニ因ル行爲ハ罪ト爲ラス

第十八條　生命、身體、自由、名譽、財産其ノ他ノ權利ニ對スル急迫不法ノ侵害ヲ排除シテ自己又ハ他人ヲ防衛スルノ目的ニ出タル行爲ハ罪ト爲ラス

第十九條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由、名譽、財産其ノ他ノ權利ニ對スル現在ノ重大ナル危難ヲ避クルノ目的ニ出テタル行爲ハ罪ト爲ラス
前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第二十條　不法ニ侵害セラレタル自己又ハ他人ノ權利ヲ救濟スルニ付急速ヲ要シ法律上ノ手續ニ依ル爲猶豫スルトキハ回復スヘカラサル損害ヲ被ルノ虞アル場合ニ於テ其ノ救濟ノ爲爲シタル行爲ハ罪ト爲ラス

第二十一條　前三條ノ規定ハ行爲カ其ノ際ニ於ケル情況ニ照シテ相當ナリト認メラルル場合ニ非レハ之ヲ適用セス程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三章　未遂犯

第二十二條　犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ未遂犯トシ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得
犯罪ノ實行ニ着手シタル者自己ノ意思ニ因リ之ヲ中止シ又ハ結果ノ發生ヲ防止シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス
結果ノ發生スルコト不能ナリシ場合又ハ行爲既ニ終了スルモ其結果發生セサリシ場合ニ於テ犯人其ノ結果ヲ防止スヘキ眞摯ナル努力ヲ爲シタルトキハ前項ノ例ニ依ル但シ犯人其事情ヲ知リタル後ハ此ノ限ニアラス

第二十三條　結果ノ發生スルコト不能ナルニ拘ラス自然法則ノ著シキ無知ニ因リ犯罪ヲ實行セムトスル者ハ未遂犯トシテ罰スルコトヲ得ス

第二十四條　未遂犯ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第四章　共犯

第二十五條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス他人ト通謀シテ犯罪ヲ實行スルニ至ラシメタル者亦同シ

第二十六條　故意ニ人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者ハ教唆犯トス
教唆犯ハ正犯ノ刑ヲ以テ處斷ス

第二十七條　人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者ハ被教唆者其ノ罪ヲ犯スニ至ラサルトキト雖之ヲ罰ス但シ未遂犯ヲ罰セサル罪ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リ罰スヘキ者ノ刑ハ各本條ノ刑ヲ減輕シタル所ニ照ラシテ更ニ減輕シタルモノニ依ル但シ情狀ニ因リ之ヲ免除スルコトヲ得

第二十八條　故意ニ正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯トス
從犯ハ正犯ノ刑ヲ以テ處斷ス但シ情狀ニ因リ之ヲ減輕スルコトヲ得

第二十九條　犯人ノ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其ノ身分ナキ者ト雖仍ホ共犯トス身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其ノ身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第三十條　前五條ノ規定ハ責任無能力者犯罪ノ故意ナキ者又ハ抗拒不能ノ狀態ニ在ル者其ノ他自己ノ行爲ニ付罪責ニ任セサル者ヲ加功セシメ又ハ加功セシメムトシタル場合ニ付亦之ヲ適用ス

第五章　刑

第三十一條　刑ノ種類左ノ如シ
一　死刑
二　懲治
三　禁錮
四　資格喪失
五　資格停止
六　居住制限
七　罰金
八　拘留
九　譴罰
十　科料
十一　沒收

第三十二條　刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但シ

無期禁錮ト有期懲治トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲治ノ長期ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其ノ短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

前二項ノ規定ニ依ル外刑ノ輕重ハ前項ノ趣旨ニ準シテ之ヲ定ム

前三項ニ依リ刑ノ輕重ヲ定ムルコト能ハサルトキハ犯情ニ依ル

第三十三條　死刑ハ絞首シテ之ヲ執行ス

第三十四條　懲治ハ無期及有期トシ有期懲治ハ三月以上十五年以下トス

懲治ハ懲治所ニ拘置シ作業ニ服ス

第三十五條　禁錮ハ無期及有期トシ有期禁錮ハ三月以上十五年以下トス

禁錮ハ禁錮所ニ拘置ス

第三十六條　有期ノ懲治又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ前二條ノ短期以下ニ降スコトヲ得

第三十七條　資格喪失ハ公務員タル資格及法律ニ定ムル業務上ノ資格ヲ喪失ス但シ情狀ニ因リ特定ノ資格ニ限リ喪失セシムルコトヲ得

第三十八條　資格停止ハ一年以上十年以下ノ期間公務員タル資格及法律ニ定ムル業務上ノ資格ヲ停止ス但シ情狀ニ因リ特定ノ資格ニ限リ停止スルコトヲ得

第三十九條　居住制限ハ一年以上三年以下ノ期間居住ノ地ヲ制限シテ之ヲ科ス此場合ニ於テハ保護觀察ニ付スルコトヲ得

居住制限ハ情狀ニ因リ一年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ代ヘテ之ヲ科スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ懲治又ハ禁錮ノ期間ヲ定メ居住制限ヲ以テ之ニ代フル旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ言渡シタル居住制限ニ違反シタルトキハ本刑ノ執行ヲ命スルコトヲ得但シ居住制限ノ期間經過シタル後ハ此ノ限ニアラス

第四十條　罰金ハ五十圓以上トス但シ之ヲ輕減スルトキハ五十圓以下ニ下スコトヲ得

裁判確定後五十日以內ニ罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ十日以上二年以下ノ期間滯納留置ニ付ス

滯納留置者ハ滯納留置所ニ收容シ作業ニ就カシム

罰金ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル滯納留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡スヘシ

第四十一條　拘留ハ三日以上三十日未滿トシテ拘留場ニ留置ス

第四十二條　譴罰ハ譴罰スル旨ノ宣告ニ依リ之ヲ科ス

第四十三條　科料ハ一圓以上五十圓未滿トス

裁判確定後二十日以內ニ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間滯納留置ニ付ス科料併科ノ場合ト雖留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十條第三項ノ規定ハ科料ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セムトシタル物
二　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
三　前號ノ物ノ對價トシテ得タル物

前項ノ沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル但シ犯罪ノ後犯人以外ノ者情ヲ知リテ其物ニ對スル權利ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニアラス

沒收物ノ所有權ハ裁判ノ確定ニ因リ國庫ニ歸屬ス沒收物有價證券ナルトキハ其ノ證券上ノ權利亦同シ

第四十五條　文書又ハ圖畫ノ一部カ僞造若ハ變造又ハ虛僞ノ記入ニ係ルトキハ其部分ヲ沒收スルコトヲ得

第四十六條　過失ニ因リ犯シタル罪又ハ拘留若ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アル場合ノ外沒收ヲ科スルコトヲ得ス

第四十七條　沒收ハ他ノ刑ニ附加スルニ非サレハ之ヲ科スルコトヲ得ス但シ刑ノ宣告猶豫又ハ罪ノ免除ヲ言渡ス場合ハ此ノ限ニアラス

第六章　刑ノ適用

第四十八條　刑ノ適用ニ付テハ主觀及客觀ノ事情ヲ併セテ考察シ特ニ左ノ事項ヲ參酌スヘキモノトス

一　犯人ノ性行、情操、經歷、遺傳及環境ノ良否
二　犯罪ノ常習ノ有無
三　犯罪ノ動機忠孝其他道義上又ハ公益上特ニ非難スヘキモノナリヤ又ハ宥恕スヘキモノナリヤ
四　犯罪ノ動機恐怖、狼狽、挑發、監督關係ニ基ク威迫、群集暗示其ノ他之ニ類スル事由ニ基クモノナリヤ否
五　親族、後見、其ノ他ノ監督關係又ハ師弟ノ關

係ヲ濫用又ハ蔑視シテ罪ヲ犯シ又ハ罪ヲ犯サシメタルモノナリヤ否
六　犯罪ノ手段慘酷巧妙又ハ大規模ナリヤ否
七　犯罪ニ因リ發生シタル危害ノ大小輕重
八　罪ヲ犯シタル後悔悟シテ損害ノ賠償ヲ爲シ其ノ他實害ヲ輕減スル爲努力ヲ爲シタリヤ否

第四十九條　罰金ノ適用ニ付テハ犯人ノ經濟狀態及犯罪行爲ニ因リテ得タル物ノ價額ヲ參酌スヘキモノトス

第五十條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ輕減スルコトヲ得

告訴又ハ請求ヲ待テ論スヘキ罪ニ付告訴權者又ハ請求權者ニ首服シ又ハ被害者ノ意思ニ反シテ論スルコトヲ得サル罪ニ付被害者ニ首服シタル者亦前項ニ同シ

第五十一條　同一又ハ類似ノ罪種ニ付二回以上禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ更ニ禁錮ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ禁錮ニ代ヘテ懲治ヲ科スルコトヲ得破廉恥ノ動機ニ因リ罪ヲ犯シタル者ニ對シ禁錮ノ言渡ヲ爲スヘキ場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ禁錮ニ該ル罪ニ付懲治ノ期間ハ禁錮ノ期間ニ同シ

第五十二條　罰金ニ該ル同一ノ罪種ニ因リ二回以上刑ニ處セラレタル者更ニ其罪ヲ犯シタルトキハ罰金ニ代ヘ又ハ之ニ併セテ一年以下ノ懲治又ハ禁錮ヲ科スルコトヲ得

第五十三條　營利ノ目的アルニ因リ構成スヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ營利ノ目的ヲ以テ常習トシテ其ノ他ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ懲治若ハ禁錮ノミニ該ル罪ニ付三千圓以下ノ罰金ヲ併科シ又他ノ刑ト罰金トヲ選擇シテ科スヘキ罪ニ付之ヲ併科スルコトヲ得

營利ノ目的ヲ以テ犯シタル罰金ノミニ該ル罪ニ付テハ其ノ多額ヲ倍額迄加重スルコトヲ得犯罪行爲ニ因リテ利得シタル物ノ價格之ニ超ユルトキハ其價格ニ達スル迄罰金ヲ加重スルコトヲ得

第五十四條　道義上又ハ公益上特ニ宥恕スヘキ動機ニ基キ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ懲治ノミニ該ル罪ニ付禁錮ヲ科スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ科スヘキ禁錮ノ期間ハ懲治ノ期間ニ同シ

第五十五條　前條ニ記載シタル動機ニ基キ又ハ過失ニ因リ罪ヲ犯シタル者ニ對シ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘキ場合ニ於テハ情狀ニ因リ科料ヲ科スルコトヲ得

第五十六條　法律ニ依リ刑ヲ減輕スヘキ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一　死刑ヲ減輕スルトキハ無期若ハ十年以上ノ懲治又ハ禁錮ヲ科ス
二　無期ノ懲治又ハ禁錮ヲ減輕スルトキハ七年以上ノ有期ノ懲治若ハ禁錮ヲ科シ資格喪失ヲ減輕スルトキハ資格停止ヲ科ス
三　有期ノ懲治若ハ禁錮、資格停止、居住制限、罰金及科料ニ付テハ長期又ハ多額ノ半數ヲ超ヘテ刑ヲ科スルコトヲ得ス必要アルトキハ短期又ハ寡額ヲ減シテ其ノ半數ニ至ル迄降スコトヲ得
四　數個ノ刑中其ノ一ヲ科スヘキトキハ死刑又ハ其ノ最モ重キ無期刑ヲ選擇スルコトヲ得ス其ノ最モ輕キ刑種ヲ選擇シタル場合ニ於テ必要アルトキハ第二號第三號ニ依リ減輕スルコトヲ得

刑ノ減輕ニ因リ一日又ハ一錢ニ充タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄ス

第五十七條　刑ノ短期若ハ寡額犯情ニ照シ重キニ失スルモノト認ムルトキハ酌量シテ刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ依リ刑ヲ減輕スル場合ニ於テハ其減輕ヲ爲スモ犯情ニ照シ科刑仍ホ重キニ失スルモノト認ムルトキニ限リ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

前條ノ規定ハ酌量減輕ニ之ヲ準用ス

第五十八條　酌量減輕ヲ爲シ六月以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處スヘキトキハ情狀ニ因リ二千圓以下ノ罰金ヲ科スルコトヲ得

懲治若ハ禁錮ト罰金トヲ併合スヘキ罪ニ付酌量減輕ヲ爲スヘキトキハ情狀ニ因リ其一ヲ科スルコトヲ得

第五十九條　各本條ノ規定ニ依リ犯罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スル場合ニ於テ酌量減輕ヲ爲スモ犯情ニ照シ科刑仍ホ重キニ失スルモノト認ムルトキハ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第六十條　同時ニ刑ヲ加重減輕スル必要アルトキハ左ノ順序ニ依ル

一　累犯加重
二　法律上減輕
三　競合犯加重
四　酌量減輕

第六十一條　未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ有期ノ懲治若ハ禁錮罰金拘留又ハ科料ニ算入スルコトヲ得

前項ノ算入ニ付テハ拘留日數一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

懲治、禁錮、拘留、滯納留置又ハ保安處分ノ執行

中勾留セラレタル者ニ付テハ第一項ノ規定ヲ適用セス

第六十二條　公益ノ保持又ハ被害者ノ重要ナル利益ノ保護ノ爲必要アルトキハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ負擔ニ於テ一種乃至三種ノ新聞紙ニ一回乃至三回判決ノ全部又ハ一部ヲ公示スヘキ旨ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

被害者ノ利益ノ爲ニスル判決公示ノ宣告ハ其請求アル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

被告事件罪トナラサル爲又ハ犯罪ノ證明若ハ嫌疑ナキ爲被告人ニ對シ無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ爲ストキハ裁判公示ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其者ヲシテ其費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七章　累犯及競合犯ノ處分

第六十三條　懲治ノ執行ヲ終リ又ハ死刑若ハ懲治ノ執行ノ免除ヲ得タル後五年内ニ犯シタル罪ニ付更ニ有期懲治ニ處スヘキトキハ之ヲ再犯トス

競合犯ニ付處斷セラレタル者其ノ競合犯中懲治ニ處スヘキ罪アリタルトキハ其ノ罪最重ノモノニ非スト雖再犯例ノ適用ニ付テハ懲治ニ處セラレタルモノト看做ス

再犯後ノ犯罪ト其ノ前犯トノ間ニ前二項ニ定メタル關係アルトキハ處刑ノ度數ニ從ヒ犯數ヲ加フ

第六十四條　累犯ノ刑ハ其ノ罪ニ付定メタル懲治ノ長期ヲ超エテ處斷スル必要アルトキニ限リ之ヲ加重ス

前項ノ場合ニ於テ再犯ノ刑ハ其ノ罪ニ付定メタル刑ノ長期ニ其ノ半數ヲ加ヘタルモノヲ長期トシ三犯以上ノ刑ハ其ノ罪ニ付定メタル刑ノ長期ノ二倍以下トス

第六十五條　裁判確定後累犯者タルコトヲ發見シタルトキハ累犯ノ刑ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前發ノ刑ヲ通算スヘシ

懲治ノ執行ヲ終リタル後又ハ其ノ執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第六十六條　同一又ハ類似ノ罪種ニ付再犯ノ前科ヲ有スル常習犯人ニ對シ有期懲治ヲ科スヘキ場合ニ於テ三犯以上ノ加重ヲ爲シ且法律上ノ減輕ヲ爲スモ仍ホ長期五年以上ナルトキハ判決主文ニ其ノ長期ヲ指示シ不定期刑ニ處スル旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

同一又ハ類似ノ罪種ニ付三犯以上ノ前科ヲ有スル者ニ對シ有期懲治ヲ科スヘキ場合モ亦前項ニ同シ

前條ノ規定ハ裁判確定後ニ於テ前項ニ依リ不定期刑ニ處スヘキ者ナルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條　確定裁判前ニ於ケル數個ノ罪ヲ競合犯トス一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノ亦同シ

第六十八條　競合犯ニ付同時ニ裁判ヲ爲ストキハ一ノ重キニ從テ處斷ス但シ其ノ他ノ法條ニ依リ科スルコトヲ得ヘキ刑ヨリ輕ク處斷スルコトヲ得ス

競合犯中二個以上ノ刑ニ該ルモノアルトキハ其ノ選擇ヲ爲シタル後ニ刑ノ對照ヲ爲スヘシ

競合犯中法律ニ依リ刑種ヲ變更スヘキモノアルトキハ其ノ變更ヲ爲シ且刑ノ加重減輕ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ加重減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲スヘシ

第六十九條　競合犯ニ付有期ノ懲治又ハ禁錮ニ處スヘキ場合ニ於テ特ニ重キ情狀アルトキハ適用スヘキ刑ノ長期ヲ超エテ處斷スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ長期ニ其ノ半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス

前項ニ依リ言渡ス刑ハ各罪ニ對スル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第七十條　競合犯中未タ裁判ヲ經サルモノヲ餘罪トス餘罪前發ノ罪ニ比シ輕ク若ハ等シキトキハ之ヲ論セス其ノ重キモノハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ニ通算ス

餘罪累犯ト倶ニ發シタルトキハ其ノ累犯ト比較シ一ノ重キニ從テ處斷シ前發ノ刑ヲ通算セス確定裁判後刑ノ執行ノ終了又ハ免除前ニ犯シタル罪餘罪ト倶ニ發シ又ハ餘罪及累犯ト倶ニ發シタルトキ亦同シ

第七十一條　競合犯ニ付二個以上ノ裁判アリタル場合ニ於テ死刑ヲ執行スヘキトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲治若ハ禁錮ヲ執行スヘキトキハ有期ノ懲治若ハ禁錮又ハ拘留ヲ執行セス

競合犯ニ付二個以上ノ有期ノ懲治又ハ禁錮ノ言渡アリタルトキハ其ノ最モ重キモノヲ執行ス但シ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ其ノ最モ重キ罪ニ付定メタル刑ノ長期ニ其ノ半數ヲ加ヘタルモノニ超エサル範圍ニ於テ輕キモノヲ併セテ執行スルコトヲ得

第七十二條　競合犯ニ付處斷セラレタル者或罪ニ付

大赦ヲ得タル場合ニ於テハ他ノ罪ニ付更ニ刑ヲ定ム

第七十三條　罰金又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但シ死刑ニ處スヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

二個以上ノ罰金、拘留又ハ科料ハ各之ヲ併科ス

第七十四條　競合犯中重キ罪ニ付沒收ナシト雖他ノ罪ニ付沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科スルコトヲ得

沒收ハ死刑ニ處スヘキトキト雖仍ホ之ヲ科スルコトヲ得

第八章　刑ノ猶豫及罪ノ免除

第七十五條　三年以下ノ懲治禁錮又ハ資格喪失、資格停止ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ本人罪ヲ犯ス前五年以内ニ資格停止以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ナルトキハ一年以上五年以下ノ期間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

五百圓以下ノ罰金ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ本人罪ヲ犯ス前三年以内ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ナルトキハ六月以上二年以下ノ期間内其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

本法ニ定ムル罪ヲ犯シ拘留又ハ科料ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ本人罪ヲ犯ス前一年以内ニ刑ニ處セラレタルコトナキ者ナルトキハ六月以上一年以下ノ期間内其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

刑ノ執行猶豫ハ特ニ個諒スヘキ情狀アリテ再ヒ罪ヲ犯スノ虞ナク且公益上害ナシト認ムル場合ニ非サレハ之ヲ言渡スコトヲ得ス

第七十六條　刑ヲ併科スヘキ場合ニ於テハ其ノ一ノミニ付亦刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十七條　懲治又ハ禁錮ニ付刑ノ執行猶豫ヲ言渡ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ猶豫期間内本人ヲ保護觀察ニ付シ又ハ之ニ對シ善行保證ノ爲相當ノ金額又ハ有價證券ノ提供ヲ命スルコトヲ得執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタル後ニ於テ必要アリト認ムルトキ亦同シ

前項ノ處分ハ事情ニ因リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第七十八條　資格停止以上ノ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ニ付其ノ猶豫期間内ニ於テ第一號又ハ第二號ノ事由アルトキハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘシ第三號又ハ第四號ノ事由アルトキハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スコトヲ得

一　猶豫期間内ニ犯シタル罪ニ付資格停止以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　善行保證提供ノ命令ヲ蔑視シテ其ノ提供ヲ爲ササルトキ又ハ保護觀察ノ條件ニ背キ其ノ情狀重キトキ

三　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付資格停止以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

四　猶豫ノ言渡前五年以内ニ資格停止以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第七十九條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ストキハ既ニ提供シタル善行保證ヲ沒取スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ沒取ノ處分ヲ爲ササル善行保證ハ之ヲ還付スヘシ

第八十條　罰金以下ノ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間内罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘシ

第八十一條　六月ノ懲治又ハ禁錮以下ノ刑ヲ言渡スヘキ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ要件具備シ情狀特ニ個諒スヘキモノト認ムルトキハ罪ト爲ルヘキ事實ヲ認定シテ刑ノ宣告ヲ猶豫シ又ハ罪ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ刑ノ宣告ヲ猶豫スル場合ニハ左ニ掲クル事項ノ全部又ハ一部ヲ命シ其ノ遵守ノ誓約ヲ爲サシムヘシ

一　住居ヲ定メ正業ニ從事スルコト

二　不良ノ徒ト交際セス又ハ裁判所ノ指定スル場所ニ出入セサルコト

三　酩酊ニ因リ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ酒類ヲ飲用セサルコト

四　其ノ他善行ヲ保持スルコト

第八十二條　刑ノ宣告ヲ猶豫セラレタル者ニ付左ノ事由アルトキハ宣告猶豫ノ言渡ヲ取消シ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　猶豫ノ言渡後犯シタル罪ニ付資格停止以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　善行保持ノ誓約ニ背キ其ノ情狀重キトキ

第八十三條　刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタルトキハ其ノ猶豫中人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ刑ニ處セラレタルコトナキ者ト看做ス

第八十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナク猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テ善行保證アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第八十五條　刑ノ宣告猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ二年ヲ經過シタルトキハ罪ト爲ルヘキ事實ノ認定ハ其ノ效力ヲ失フ

第九章　假釋放

第八十六條　懲治又ハ禁錮ノ執行ヲ受クル者行狀善良ニシテ左ノ條件ヲ具備シ將來再ヒ罪ヲ犯スノ虞ナキニ至リタルトキハ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ釋放スルコトヲ得

一　有期刑ニ付テハ其ノ刑期ノ三分ノ一、無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタルトキ

二　居住及生計上ノ支障ナキトキ又ハ住居ヲ定メ正業ニ從事スルノ機會確實ナルトキ

前項ノ處分ニ付テハ損害ノ賠償アリタリヤ否特ニ本人カ損害ノ賠償ヲ爲シタルヤ又ハ賠償ニ努ムルヤ否ヤヲ參酌スヘシ

第八十七條　不定期刑ノ執行ヲ受クル者其ノ長期ノ四分ノ一ヲ經過シタルトキハ刑務委員會ノ議ヲ經テ前條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十八條　假釋放ノ處分ニ付テハ本刑ニ算入セラレタル未決拘留日數ヲ刑ノ執行ヲ經タル期間ニ算入ス減刑ニ因リ死刑ヲ無期刑ニ減輕セラレタル者ニ對スル假釋放ノ處分ニ付テハ判決確定後ノ拘禁日數ヲ無期刑ニ付執行ヲ經タル期間ニ算入ス

第八十九條　假釋放ヲ許ス場合ニ於テハ保護監督ヲ命スルコトヲ得

不定期刑ニ處セラレタル者ニ對シ假釋放ヲ許ス場合ニ於テハ保護監督ヲ命スヘシ

前二項ノ保護監督必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ解除スヘシ

第九十條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假釋放ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一　假釋放中罪ヲ犯シ資格停止以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　保護監督ノ條件ニ背キタルトキ

假釋放ノ處分ヲ取消シタルトキハ釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第九十一條　假釋放ヲ許サレタル者其ノ處分ヲ取消サルルコトナク殘刑期ヲ經過シ又ハ釋放ノ後既ニ執行ヲ受ケタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行ヲ終リタルモノトス無期刑ニ付釋放ヲ許サレタル者釋放ノ後十五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

不定期刑ニ處セラレタル者ニ付テハ前項ノ場合ノ外保護監督ヲ解除セラレタルトキ亦刑ノ執行ヲ終リタルモノトス

第九十二條　拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ滯納留置ニ付セラレタル者亦前項ニ同シ

第十章　刑ノ時效資格回復

第九十三條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其ノ執行ノ免除ヲ得

第九十四條　時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其ノ執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲治又ハ禁錮ハ二十年

三　十年以上ノ懲治又ハ禁錮ハ十五年、三年以上ノ懲治又ハ禁錮十年、三年未滿ノ懲治又ハ禁錮ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留科料及沒收ハ一年

滯納留置ハ罰金又ハ科料ノ時效ニ、追徵ハ沒收ノ時效ニ從フ

第九十五條　刑ノ時效ハ法律ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ停止シ其ノ他執行ヲ爲スコトヲ得サル期間内ハ進行セス

第九十六條　死刑、懲治、禁錮及拘留ノ時效ハ其ノ執行ニ付犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス罰金、科料及沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第九十七條　資格喪失ノ言渡ヲ受ケタル者禁錮以上ノ刑ニ處セラルルコトナク十年ヲ經過シタルトキハ將來ニ向テ其ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ト看做ス

第十一章　保安處分

第九十八條　保安處分ハ左ノ四種トシ裁判所之ヲ命ス

一　豫防監護

二　酒癖矯正

三　勞働留置

四　豫防拘禁

第九十九條　禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル心神喪失者又ハ瘖啞者ニ對シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ豫防監護ニ付スル旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

既ニ懲治以上ノ刑ニ處セラレタル心神耗弱者又ハ瘖啞者ニ對シ前犯ト同一又ハ類似ノ罪種ニ付刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキ亦前項ニ同シ

前項ノ豫防監護ハ刑ノ執行終了後引續キ之ヲ執行スヘシ

第百條　豫防監護ニ付セラレタル者ハ之ヲ豫防監護所ニ收容シ適宜ノ治療其ノ他監護ノ爲必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第百一條　豫防監護ニ付セラレタル者收容ノ必要ナキニ至リタルトキハ行政官廳ノ處分ニ因リ退所セシムヘシ

前項ノ處分ヲ爲スニハ刑務委員會ノ議ヲ經ヘシ

第百二條　心神耗弱者又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル瘖啞者ニ對シ五年ヲ超エテ豫防監護ヲ執行スル必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ爾後五年ヲ超ユル場合亦同シ

第百三條　豫防監護ニ付セラレタル心神耗弱者又ハ瘖啞者ニ付テハ刑ノ執行中假釋放ノ處分ヲ爲スコトヲ妨ケス

假釋放ノ處分ヲ取消サルルコトナク刑期終了シタルトキハ豫防監護ノ言渡ハ其ノ效力ヲ失フ

第百四條　飲酒ノ習癖アル者ニ對シ酩酊ニ因リ犯シタル罪ニ付一年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ拘留ヲ言渡シ又ハ心神喪失ヲ理由トシテ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ習癖ヲ矯正スルニ非サレハ再ヒ罪ヲ犯スノ虞アリト認ムルトキハ其ノ裁判ト共ニ酒癖矯正ニ付スル旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

酒癖矯正ノ執行ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對スル酒癖矯正ハ刑ノ執行終了後引續キ之ヲ執行ス

第百五條　酒癖矯正ニ付セラレタル者ハ之ヲ酒癖矯正所ニ收容シ矯正ノ目的ヲ達スル爲必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第百六條　第百一條及第百三條ノ規定ハ酒癖矯正ニ之ヲ準用ス

第百七條　無節制又ハ勞働嫌忌ニ因リ常習トシテ罪ヲ犯シタル者ニ對シ一年以下ノ懲治又ハ拘留ヲ言渡ス場合ニ於テハ其ノ裁判ト共ニ勞働留置ニ付スル旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

勞働留置ノ執行ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第百八條　勞働留置ニ付セラレタル者ハ之ヲ勞働留置所ニ收容シ勤勉ニシテ紀律アル習慣ヲ馴致スル爲必要ナル作業ニ就カシム

勞働留置所ノ長ハ勞働留置者ヲシテ留置所外ニ滯在シ官公設又ハ私設ノ工場、農場其ノ他ノ作業場ニ於テ就業セシムルコトヲ得

第百九條　第百一條第百三條及第百四條第三項ノ規定ハ勞働留置ニ之ヲ準用ス

第百十條　懲治以上ノ刑ノ執行ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ者釋放後ニ於テ更ニ放火、殺人又ハ强盜ヲ爲スノ虞アルコト顯著ナルトキハ豫防拘禁ニ付スルコトヲ得

第百十一條　豫防拘禁ニ付セラレタル者ハ之ヲ豫防拘禁所ニ收容シ改悛セシムル爲必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第百十二條　豫防拘禁ノ執行二年ヲ超ユルノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ爾後二年ヲ超ユル場合亦同シ

第百十三條　第九十九條第三項及第百一條ノ規定ハ豫防拘禁ニ之ヲ準用ス

第百十四條　保安處分ノ言渡確定シタル後執行セスシテ三年ヲ經過シタルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

懲治、禁錮又ハ拘留ノ執行中ニ係ル期間ハ之ヲ前項ノ期間ニ算入セス

第十二章　保護觀察及保護監督

第百十五條　保護觀察ヲ命スルトキハ適當ナル條件ヲ付シテ本人ヲ保護者若ハ保護司ニ引渡シ又ハ寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ之ヲ委託スヘシ

第百十六條　保護觀察ニ付セラレタル者ノ引渡又ハ委託ヲ受ケタル者ハ本人ノ更ニ罪ヲ犯ス危險ヲ防止シ且必要アル場合ニ於テハ其ノ生計ヲ容易ナラシムル爲適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第百十七條　前二條ノ外保護觀察ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第百十八條　前三條ノ規定ハ之ヲ保護監督ニ準用ス

第十三章　期間

第百十九條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從テ之ヲ計算ス

第百二十條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ刑又ハ保安處分ノ期間ニ算入セス但シ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百二十一條　刑又ハ保安處分ノ執行ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效時間ノ初日亦同シ

第百二十二條　放免ハ刑又ハ保安處分ノ期間終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第百二十三條　天皇ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトシタル者ハ死刑ニ處ス

第百二十四條　天皇ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第百二十五條　神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第百二十六條　攝政、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫又ハ皇太孫妃ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトシタル者ハ死刑ニ處ス

第百二十七條　攝政、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫又ハ皇太孫妃ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第百二十八條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘムトシタル者ハ無期懲治ニ處ス

第百二十九條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ六年以下ノ懲治ニ處ス

第百三十條　事實ヲ虛構シテ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル目的ヲ以テ其ノ行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第百三十一條　皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦前項ニ同シ

本條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二章　內亂ニ關スル罪

第百三十二條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其ノ他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ有期禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其ノ他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス但シ前項第三號ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十三條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三十四條　兵器、金穀ヲ供給シ又ハ其ノ他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三十五條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其ノ刑ヲ免除ス

第三章　外患ニ關スル罪

第百三十六條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十七條　要塞、陣營、軍艦、航空機其ノ他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第百三十八條　敵國ヲ利スル爲要塞、陣營、艦船、航空機、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其ノ他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第百三十九條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其ノ他直接ニ戰鬪ノ用ニ供スヘキ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ三年以上ノ有期懲治ニ處ス

第百四十條　敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲治ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦前項ニ同シ

第百四十一條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

第百四十二條　前六條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第百四十三條　第百三十六條乃至第百四十一條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第百四十四條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章　國交ニ關スル罪

第百四十五條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス但シ外國政府ノ請求ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第百四十六條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ

對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス但シ被害者ノ請求ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第百四十七條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ國ノ公用ニ供スル國旗其ノ他ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ外國政府ノ請求ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第百四十八條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ刑ヲ免除ス

第百四十九條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　瀆職ノ罪

第百五十條　公務員其ノ職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルトキハ二年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ公務員タル資格ノ停止ニ處ス

第百五十一條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其ノ職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ公務員タル資格ノ喪失若ハ停止ニ處ス

第百五十二條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其ノ他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵辱若ハ虐待ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ公務員タル資格ノ停止ニ處ス

法令ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵辱若ハ虐待ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第百五十三條　公務員又ハ仲裁人其ノ職務ニ關シ賄賂トシテ財物又ハ其ノ他ノ利益ヲ收受シ若ハ要求シ又ハ收受ノ約束ヲ爲シタルトキハ收賄ノ罪ト爲シ五年以下ノ懲治又ハ公務員タル資格ノ喪失ニ處ス

收賄ヲ爲スニ因リ不正ノ處置ヲ爲シ又ハ不正ノ處置ヲ爲ス爲收賄ヲ爲シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲治又ハ公務員タル資格ノ喪失ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第百五十四條　公務員又ハ仲裁人ニ對シ賄賂ヲ供與シ又ハ其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ贈賄ノ罪ト爲シ五年以下ノ懲治又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六章　公務ヲ妨害スル罪

第百五十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ五年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ職務上ノ行爲ヲ爲サシメ若ハ爲ササラシムル爲又ハ其ノ職ヲ辭セシムル爲暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦前項ニ同シ

第百五十六條　裁判所ノ開廷中裁判ノ進行ヲ妨ケ若ハ法廷ノ威信ヲ損スル目的ヲ以テ侮辱又ハ喧騷ノ行狀ヲ爲ス者ハ一年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十七條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章　逃走及犯人藏匿ノ罪

第百五十八條　刑ノ執行又ハ刑事手續ノ爲拘禁セラレタル者逃走シタルトキハ一年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ被拘禁者天災事變ニ際シ法令ニ依リ解放セラレタル場合ニ於テ出頭命令ニ違反シタルトキハ逃走ヲ以テ論ス

第百五十九條　前條ノ被拘禁者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若ハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第百六十條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第百六十一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第百六十二條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第百六十三條　前五條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第百六十四條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ逃走ノ罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十五條　犯人又ハ逃走者ノ親族前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス
親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第八章　僞證及證憑湮滅ノ罪

第百六十六條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲治ニ處ス虛僞ノ陳述ヲ爲シタル後宣誓シタルトキ亦同シ

第百六十七條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百六十八條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人、通事又ハ翻譯人虛僞ノ鑑定、通譯又ハ翻譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第百六十九條　他人ノ事件ニ付宣誓シテ證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人タルコトヲ得ル者宣誓ヲ爲サヽル者ヲ敎唆シテ虛僞ノ陳述、鑑定、通譯又ハ翻譯ヲ爲サシメタルトキハ二年以下ノ懲治ニ處ス
第百六十七條ノ規定ハ前項ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ準用ス

第百七十條　他人ノ刑事又ハ懲戒ノ事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若ハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス證人ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者亦同シ

第百七十一條　當事者ノ親族本人ノ利益ノ爲ニ前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス
親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第九章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムルノ目的アル虛僞ノ事實ヲ當該公務所又ハ公務員ニ申告シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十章　不法團結及煽動ノ罪

第百七十四條　犯罪ヲ實行スルコトヲ目的トスル結社ヲ組織シ又ハ之ニ加入シタル者ハ五年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ外法律ノ效果ヲ無視シ之ニ違反スル行爲ヲ目的トスル結社ヲ組織シ又ハ之ニ加入シタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第百七十五條　犯罪ヲ實行スヘキコトヲ公然奬勵又ハ煽動シタル者ハ五年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ外法律ニ違反スル行爲ヲ公然奬勵又ハ煽動シタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章　爆發物ニ關スル罪

第百七十六條　治安ヲ妨ケ又ハ人ノ生命、身體若ハ財産ヲ害スルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲治若ハ禁錮ニ處ス
前項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第百七十七條　前條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

第百七十八條　前條ノ罪ヲ犯シタル者爆發物ノ使用前ニ於テ自首シ危害ヲ生セシムルニ至ラサルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第十二章　騷擾ノ罪

第百七十九條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲治若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ七年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三章　放火及失火ノ罪

第百八十一條　現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若ハ鑛坑ヲ燒燬シ火災ヲ惹起シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲治ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ殺意ノ有無ヲ問ハス死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第百八十二條　現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現

在セサル建造物、艦船若ハ鑛坑ヲ燒燬シ火災ヲ惹起シタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス但シ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第百八十三條　前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十四條　第百八十二條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八十一條又ハ第百八十二條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ十年以下ノ懲治ニ處ス
前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第百八十五條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第百八十六條　過失ニ因リ第百八十一條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百八十二條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ火災ヲ生セシメタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
過失ニ因リ自己ノ所有ニ係ル第百八十二條ニ記載シタル物又ハ第百八十三條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦前項ニ同シ

第百八十七條　火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ第百八十一條乃至第百八十三條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ依ル
前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ依ル

第百八十八條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ第百八十六條又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條　第百八十一條及第百八十二條第一項ノ未遂犯竝第百八十一條及第百八十二條第一項ノ例ニ依ル第百八十七條第一項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第百九十條　第百八十一條及第百八十二條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ懲治ニ處ス
第百八十一條及第百八十二條第一項ノ例ニ依ル第百八十七條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第百九十一條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若ハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十二條　第百八十二條第一項及第百八十三條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若ハ保險ニ付シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ物ト看做ス

第十四章　溢水及水利ニ關スル罪

第百九十三條　堤防ヲ決潰シ、水路ヲ破壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ溢水セシメ現ニ人ノ住居ニ使用シ若ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車又ハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲治ニ處ス

第百九十四條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ殺意ノ有無ヲ問ハス死刑又ハ無期懲治ニ處ス
溢水セシメテ他人ノ利用スル田圃又ハ牧場ヲ浸害シタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

第百九十五條　溢水セシメテ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若ハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

第百九十六條　前三條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第百九十七條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第百九十八條　過失ニ因リ溢水セシメテ第百九十三條及第百九十四條第二項ニ記載シタル物ヲ浸害シ又ハ第百九十五條ニ記載シタル物ヲ浸害シ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十九條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其ノ他他人ノ水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ田圃ヲ荒廢セシメタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第十五章　往來ヲ妨害スル罪

第二百條　陸路、水路、埠頭又ハ橋梁ヲ損壞若ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百一條　汽車、電車、艦船又ハ航空機ノ交通ニ使用スル施設ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ交通ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

人ノ現在スル汽車、電車、艦船又ハ航空機ヲ顚覆、覆沒若ハ墜落セシメ又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲治ニ處ス

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ殺意ノ有無ヲ問ハス死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第二百二條　前條第一項ノ罪ヲ犯シ因テ汽車、電車、艦船又ハ航空機ノ顚覆、覆沒、墜落又ハ破壞ヲ致シタル者亦前條第二項第三項ノ例ニ同シ

第二百三條　第二百條及第二百一條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二百四條　過失ニ因リ第二百一條ノ行爲ヲ爲シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六章　飲料水ニ關スル罪

第二百五條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其ノ水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百七條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其ノ他健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第二百八條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其ノ水源ニ毒物其ノ他健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

前項ノ行爲ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ殺意ノ有無ヲ問ハス死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲治ニ處ス

第二百九條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十條　前二條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第十七章　阿片煙ニ關スル罪

第二百十一條　阿片煙又ハ阿片煙土ヲ輸入、輸出、製造若ハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十二條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、輸出、製造若ハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十三條　稅關官吏阿片煙、阿片煙土又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其ノ輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十四條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十五條　阿片煙、阿片煙土又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十六條　本章ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第十八章　通貨僞造ノ罪

第二百十七條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ三年以上ノ有期懲治ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若ハ輸入シタル者亦前項ニ同シ

第二百十八條　行使ノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ流通スル帝國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者亦前項ニ同シ

僞造若ハ變造ニ係ル前二項ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ若ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ又ハ輸入若ハ輸出シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第二百十九條　行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第二百二十條　前三條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二百二十一條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其ノ僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其ノ名價五倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ十圓未滿ニ降スコトヲ得ス

第二百二十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百二十三條　通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ニ類似ノ外觀ヲ有スル物ヲ製造、輸入又ハ販賣シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十四條　通貨ヲ僞造若ハ變造シ又ハ僞造、變造ノ通貨ヲ輸入若ハ收得シタル者其ノ行使又ハ交付前ニ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十九章　有價證券僞造ノ罪

第二百二十五條　行使ノ目的ヲ以テ帝國又ハ外國ニ於テ發行スル公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其ノ他ノ有價證券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第二百二十六條　僞造、變造ノ有價證券又ハ虛僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ若ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ又ハ輸入若ハ輸出シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二十章　文書僞造ノ罪

第二百二十七條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ盜用シ又ハ之ヲ僞造シテ詔書其ノ他ノ文書ヲ僞造シタル者ハ三年以上ノ有期懲治ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其ノ他ノ文書ヲ變造シタル者亦前項ニ同シ

第二百二十八條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若ハ署名ヲ盜用シ又ハ之ヲ僞造シテ公務ニ關スル文書又ハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス公務所又ハ公務員ノ捺印若ハ署名シタル文書又ハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

印章又ハ署名ヲ使用セスシテ前項ノ文書又ハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十九條　公務員其ノ職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書若ハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若ハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前條ノ例ニ依ル但シ情狀ニ因リ公務員タル資格ノ喪失又ハ停止ニ處スルコトヲ得

第二百三十條　公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ其ノ交付ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十一條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其ノ文書若ハ圖畫ヲ僞造若ハ變造シ又ハ虛僞ノ文書若ハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

第二百三十二條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若ハ署名ヲ盜用シ又ハ之ヲ僞造シテ權利義務若ハ事實證明ニ關スル文書又ハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス他人ノ捺印若ハ署名シタル文書又ハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

印章又ハ署名ヲ使用セスシテ前項ノ文書又ハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リテ其ノ資格ヲ濫用シ行使ノ目的ヲ以テ其ノ事務ニ關スル虛僞ノ文書若ハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若ハ圖畫ヲ變造シタルトキハ五年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　他人ノ事務ノ處理者タル資格ヲ詐リ權利、義務ニ關スル文書又ハ圖畫ヲ作リタル者亦前條ノ例ニ同シ

第二百三十五條　醫師、齒科醫師又ハ產婆公務所ニ提出スヘキ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮若ハ業務上ノ資格停止又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十六條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其ノ文書又ハ圖畫ヲ僞造若ハ變造シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

第二百三十七條　第二百三十條、第二百三十一條及前條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二十一章　印章僞造ノ罪

第二百三十八條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ僞造シタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦前項ニ同シ

第二百三十九條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若ハ署名ヲ僞造シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若ハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若ハ署名ヲ使用シタル者亦前項ニ同シ

第二百四十條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ認證記號ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

公務所ノ認證記號ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル

公務所ノ認證記號ヲ使用シタル者亦前項ニ同シ

第二百四十一條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章又ハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

他人ノ印章若ハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若ハ署名ヲ使用シタル者亦前項ニ同シ

第二百四十二條　第二百三十八條第二項、第二百三十九條第二項、第二百四十條第二項及前條第二項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二十二章　禮拜所及墳墓ニ關スル罪

第二百四十三條　神祠、佛堂、墓所其ノ他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

死體又ハ遺骨ニ對シ公然侮辱ヲ加ヘタル者亦前項ニ同シ

第二百四十四條　說敎、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ以テ前項ノ妨害ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

第二百四十五條　墳墓ヲ發掘シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第二百四十六條　死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百四十七條　第二百四十五條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二十三章　風俗ヲ害スル罪

第二百四十八條　配偶者アル者姦通シタルトキハ二年以下ノ懲治ニ處ス其ノ相姦シタル者亦同シ

配偶者ノ惡意ノ遺棄ニ因リ家庭ノ共同生活ヲ爲スコト能ハサル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ罪ハ配偶者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但シ配偶者姦通ヲ縱容シ又ハ宥恕シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第二百四十九條　配偶者アル者亂ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲治ニ處ス其ノ相婚シタル者亦同シ

第二百五十條　營利ノ目的ヲ以テ未成年ノ婦女ニ對シ姦合又ハ容止ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者亦前項ニ同シ

第二百五十一條　猥褻ノ文書、圖畫其ノ他ノ物ヲ頒布、販賣、貸與又ハ公然陳列シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ物ヲ公然陳列シタル者亦前項ニ同シ

第二百五十二條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章　賭博及富籤ニ關スル罪

第二百五十三條　偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ罪ヲ犯シタル者常習者ナルトキハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第二百五十四條　賭博ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百五十五條　富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章　殺人ノ罪

第二百五十六條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲治ニ處ス

第二百五十七條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第二百五十八條　母分娩ノ際其ノ子ヲ殺シタルトキハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

第二百五十九條　人ノ嘱託ヲ受ケ若ハ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

人ヲ敎唆又ハ幇助シテ自殺セシメ又ハ自殺スヘキ行爲ヲ爲サシメタル者亦前項ニ同シ

第二百六十條　未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二百六十一條　第二百五十七條乃至前條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ準備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治ニ處ス

第二百六十二條　第二百五十七條又ハ第二百五十八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ準備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治ニ處ス

第二百六十三條　生命ニ對スル急迫ノ危險ニ遭遇シタル者アルニ當リ自己之ヲ救助スルニ非サレハ其ノ者死ニ至ルヘキコトヲ知リ且容易ニ之ヲ救助シ得ルニ拘ラス放任シテ死ニ至ラシメタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第二十六章　傷害及暴行ノ罪

第二百六十四條　人ノ身體又ハ健康ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ傷害侍ニ輕微ナルトキハ輕傷ノ罪ト爲シ二年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百六十五條　人ノ身體ニ致命ノ危險アル傷害ヲ加ヘタル者ハ重傷ノ罪ト爲シ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス傷害ニ因リ人ヲ不具又ハ不治ノ疾病ニ致シタル者亦同シ

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ有期懲治ニ處ス

第二百六十六條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年以上ノ有期懲治ニ處ス

第二百六十七條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲治ニ處ス

人ノ嘱託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ第二百五十七條乃至前條第一項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二百六十八條　人ノ身體ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ三百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

人ノ嘱託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ第二百六十四條乃至前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ

第二百六十九條　人ノ身體ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ノ健康ヲ害シタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二百七十條　輕傷ノ罪及前條ノ罪ハ被害者ノ明示ノ意思ニ反シテ之ヲ論スルコトヲ得ス

第二百七十一條　團體又ハ多數ノ威力ヲ示シ又ハ其ノ威力ヲ假裝シ又ハ危險ナル器具ヲ示シテ暴行ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ又ハ二人以上共同シテ暴行ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第二百七十二條　第二百六十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二百七十三條　人ノ身體ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ三百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

因リ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十四條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタルトキハ其ノ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其ノ傷害ヲ生セシメタル者ニ非スト雖共犯ノ例ニ依ル

第二百七十五條　特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外生命身體ニ對シ危害ヲ生スヘキ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ其ノ罪ト傷害ノ罪トヲ比較シ犯情ニ因リ重キニ從テ處斷ス

第二十七章　過失傷害ノ罪

第二百七十六條　過失ニ因リ人ノ身體又ハ健康ヲ傷害シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス輕傷ニ止ルトキハ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百七十七條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十八條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八章　決鬪ノ罪

第二百七十九條　決鬪ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

第二百八十條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其ノ挑ニ應シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

第二百八十一條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ禁錮ニ處ス

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百八十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲治ニ處ス

第二百八十三條　婦女ノ嘱託ヲ受ケ又ハ其ノ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ又ハ墮胎セシムヘキ行爲ヲ爲シ因

ヲ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百八十四條　醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其ノ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ五年以下ノ懲治又ハ業務上ノ資格停止ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ又ハ墮胎セシムヘキ行爲ヲ爲シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百八十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其ノ承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三十章　遺棄ノ罪

第二百八十六條　老幼、疾病其ノ他ノ事情ニ因リ扶助ヲ要スル者ヲ保護スヘキ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其ノ生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲治ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第二百八十七條　法律上扶養ノ義務ヲ負フ者其ノ義務ヲ履行セス扶養ヲ受クヘキ者ヲシテ生活上窮迫ノ狀態ニ陷ラシメタルトキハ二年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

自己ノ保護又ハ監督スヘキ者ヲ憎惡シテ虐待シタル者亦前項ニ同シ

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百八十八條　人ヲ遺棄シテ生命ニ危險アル狀態ニ陷ラシメタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ有期懲治ニ處ス

第三十一章　逮捕及監禁ノ罪

第二百八十九條　人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十條　人ヲ監禁シテ暴行又ハ凌辱若ハ虐待ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十一條　第二百九十條ノ罪ヲ犯シ因テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若ハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十二條　猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス常習トシテ犯シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲治ニ處ス

第二百九十三條　被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シ隱匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ移送シタル者ハ二年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十四條　前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十五條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス未成年者ヲ勸誘シテ其ノ環境ヨリ離脫セシメタル者亦同シ

第二百九十六條　第二百九十一條第一項又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者ヲ收受若ハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十一條第二項、第二百九十二條又ハ第二百九十三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若ハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十七條　猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス

營利ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者亦前項ニ同シ常習トシテ犯シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲治ニ處ス

第二百九十八條　第二百九十一條乃至第二百九十三條ノ罪及第二百九十五條乃至前條ノ罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二百九十九條　第二百九十一條第一項ノ罪、第二百九十五條ノ罪、第二百九十六條第一項ノ罪及第二百九十七條第一項ノ罪並此等ノ罪ノ未遂犯ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但シ被拐取者又ハ被賣者ハ犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第三十三章　姦淫ノ罪

第三百條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ人ヲ姦淫シタル者ハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス十三歲ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第三百一條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歲以上ノ男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲治ニ處ス十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第三百二條　人ノ心神喪失又ハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫又ハ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第三百三條　前三條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百四條　第三條乃至前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲治ニ處ス

第三百五條　親族若ハ家族ノ關係又ハ業務若ハ雇傭ノ關係上自己ノ監督ニ服スル未成年ノ婦女ニ對シ威力ヲ用ヒテ之ヲ姦淫シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ二年以上ノ有期懲治ニ處ス

第三百六條　婦女ヲ欺罔シ之ヲ姦淫シタル者ハ三年以下ノ懲治ニ處ス

第三百七條　第三百條乃至第三百三條、第三百五條第一項及前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三百四條及第三百五條第二項ノ傷害輕傷ノ程度ナルトキハ被害者ノ明示シタル意思ニ反シテ罪ヲ論スルコトヲ得ス

第三十四章　脅迫ノ罪

第三百八條　生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五章　住居ヲ侵ス罪

第三百十條　人ノ住居又ハ看守スル邸宅建造物若ハ艦船又ハ人ノ占用スル房室若ハ業務所ニ侵入シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス要求ヲ受ケテ退去セサル者亦同シ

第三百十一條　第三百十條ノ方法ニ依リ又ハ常習トシテ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十二條　人ノ住居又ハ看守スル邸宅建造物若ハ艦船又ハ人ノ占用スル房室若ハ業務所ニ侵入シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス要求ヲ受ケテ退去セサル者亦同シ

第三百十三條　暴行若ハ脅迫ヲ用ヒ又ハ二人以上共同シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス常習トシテ前條ノ罪ヲ犯シタル者亦同シ

第三百十四條　前二條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三十五章　住居ヲ侵ス罪

第三百十條　人ノ住居又ハ看守スル邸宅建造物若ハ艦船又ハ人ノ占用スル房室若ハ業務所ニ侵入シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス要求ヲ受ケテ退去セサル者亦同シ

第三百十一條　第三百十條ノ方法ニ依リ又ハ常習トシテ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十二條　人ノ住居又ハ看守スル邸宅建造物若ハ艦船又ハ人ノ占用スル房室若ハ業務所ニ侵入シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス要求ヲ受ケテ退去セサル者亦同シ

第三百十三條　暴行若ハ脅迫ヲ用ヒ又ハ二人以上共同シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス常習トシテ前條ノ罪ヲ犯シタル者亦同シ

第三百十四條　前二條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三十六章　名譽ニ對スル罪

第三百十五條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ三年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

被害者ノ請求アル場合ニ於テハ事實ノ眞否ヲ判斷シ認ムルトキハ刑ニ併セテ千圓以下ノ懲罰償金ヲ科スルコトヲ得

前項ノ懲罰償金ハ之ヲ被害者ニ交付スルコトヲ得但シ其ノ意思ニ反スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百十六條　公然死者ノ名譽ヲ毀損シタル者誣罔ニ出テタルトキハ一年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十七條　公然人ヲ侮辱シタル者ハ一年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ二年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條　出版物ニ依リ第三百十五條又ハ第三百十六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條　第三百十五條第一項、第三百十六條及第三百十七條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三百十五條第二項ノ罪ハ被害者ノ明示シタル意思ニ反シテ之ヲ論スルコトヲ得ス

第三十七章　信用及業務ニ對スル罪

第三百二十條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒテ人ノ信用ヲ毀損シタル者ハ五年以下ノ懲治又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十一條　前條ノ方法ニ依リ又ハ威力ヲ用ヒテ人ノ業務ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲治又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八章　祕密ヲ侵ス罪

第三百二十二條　封緘シタル信書其ノ他ノ文書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十三條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者其ノ業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲治三年以下ノ資格停止又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其ノ業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキ亦前項ニ同シ

第三百二十四條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十九章　竊盜及强盜ノ罪

第三百二十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ七年以下ノ懲治ニ處ス

第三百二十六條　夜間人ノ住居ニ侵入シ竊盜ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

犯罪ノ用ニ供スル爲兇器其ノ他危險ナル器具ヲ携帶シテ竊盜ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第三百二十七條　一時ノ使用ニ供スル爲他人ノ財物ヲ取去シ其ノ占有ヲ失ハシメタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ明示シタル意思ニ反シテ之ヲ論スルコトヲ得ス

第三百二十八條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シ其ノ他財產上不法ノ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得シメタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ六年以下ノ有期懲治ニ處ス

第三百二十九條　强盜ノ目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治ニ處ス

第三百三十條　竊盜財物ヲ得テ其ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若ハ罪跡ヲ湮滅スル爲暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス

第三百三十一條　强盜人ヲ傷害シタルトキハ無期又ハ十年以下ノ懲治ニ處ス死ニ致シタルトキハ殺意ノ有無ヲ問ハス死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第三百三十二條　强盜婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ十年以上ノ懲治ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲治ニ處ス

第三百三十三條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ一時ノ使用ニ供スル爲他人ノ財物ヲ奪取シ其ノ占有ヲ失ハシメタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第三百三十四條　自己ノ財物ト雖正權原ニ因リ他人ノ占有シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第三百三十五條　第三百二十五條乃至第三百二十八條及第三百三十條乃至第三百三十三條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百三十六條　直系血族、配偶者及同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第三百二十五條及第三百二十七條ノ罪竝此等ノ罪ノ未遂犯ヲ犯シタル者ハ其ノ刑ヲ免除シ其ノ他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第三百三十七條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第四十章　詐欺及恐喝ノ罪

第三百三十八條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シ其ノ他財產上不法ノ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得シメタル者ハ詐欺ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲治ニ處ス

第三百三十九條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其ノ財物ノ交付ヲ受ケ其ノ他財產上不法ノ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得シメタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

第三百四十條　人ヲ恐喝シテ財物ノ交付ヲ受ケ其ノ他財產上不法ノ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得シメタル者ハ恐喝ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲治ニ處ス

第三百四十一條　前三條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百四十二條　財物其ノ他財產上ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十三條　本章ノ罪ニハ第三百三十四條、第三百三十六條及第三百三十七條ノ規定ヲ準用ス

第四十一章　背任ノ罪

第三百四十四條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物又ハ他人ノ信任ニ因リ自己ノ占有スル物ヲ横領シタル者亦前項ニ同シ

第三百四十五條　業務上自己ノ占有又ハ保管スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

第三百四十六條　遺失物、漂流物其ノ他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲治又ハ三百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第三百四十七條　他人ノ爲其ノ財產ヲ處理スル權限アル者其ノ權限ヲ濫用シ本人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ五年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十八條　本章ノ罪ニハ第三百三十六條ノ規定ヲ準用ス

第四十二章　贓物ニ關スル罪

第三百四十九條　竊盜其ノ他財產ニ對スル不法ノ行爲ニ因リ他人ノ領得シタル贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

贓物ヲ運搬、寄藏、故買又ハ牙保シタル者ハ十年以下ノ懲治又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其ノ刑ヲ免除ス

前條ノ罪ヲ犯シタル者財產犯罪ノ被害者ト前項ノ身分關係ヲ有スルトキハ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前二項ノ例ヲ用ヒス

第四十三章　毀棄及隱匿ノ罪

第三百五十一條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ十年以下ノ懲治ニ處ス

第三百五十二條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲治ニ處ス

第三百五十三條　他人ノ建造物、艦船又ハ航空機ヲ損壞シタル者ハ七年以下ノ懲治ニ處ス

損壞ノ程度建造物、艦船又ハ航空機ノ效用ヲ著シク害スルニ至ラサルトキハ三年以下ノ懲治又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十四條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞シ又ハ之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第三百五十五條　自己ノ物ト雖差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノナルトキハ前二條ノ罪ニ付テハ之ヲ他人ノ物ト看做ス

第三百五十六條　自己又ハ他人ノ利益ヲ圖リ境界ノ標識ヲ損壞移動又ハ除去シ其ノ他之ヲ認識スルコトヲ得サルニ至ラシメタル者ハ三年以下ノ懲治又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十七條　公務所ノ用ニ供スル文書其ノ他ノ物ヲ隱匿シ其ノ使用ヲ妨ケタル者ハ二年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十八條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲治若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第三百五十九條　第三百五十二條、第三百五十四條及前條ノ罪ハ被害者ノ明示シタル意思ニ反シテ之ヲ論スルコトヲ得ス

試驗關係諸法令

高等試驗令（大正七年一月十八日 勅令第七號）

改正、昭和四―勅令一五

高等試驗令

第一條　奏任文官ノ任用資格試驗外交官領事官ノ任用資格試驗並裁判所構成法第五十八條ノ試驗ハ高等試驗ト稱シ本令ニ依リ之ヲ行フ但シ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

第二條　高等試驗ハ毎年一回東京ニ於テ之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

本試驗各科ノ試驗ハ各別ノ期日ニ之ヲ行フ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者（昭和四年勅令第十五條ヲ以テ本號ヲ改正）

第四條　高等試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス豫備試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　豫備試驗ハ受驗者本試驗ヲ受クルニ相當ナル學問ヲ有スル者ト認ムヘキヤ否ヤヲ考試スルヲ以テ目的トス（同上本條ヲ改正）

第六條　豫備試驗ハ論文及外國語ニ就キ之ヲ行フ

外國語試驗ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ撰擇セシメ之ヲ行フ但シ受驗者ノ願ニ依リ他ノ外國語ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第七條　豫備試驗ヲ受ケムトスル者ハ中學校ヲ卒業シタル者、文部大臣ニ於テ普通教育ニ關シ之ト同等以上ノ學歷ヲ有スト定メタル者及高等試驗委員ニ於テ普通教育ニ關シ中學校ト同等以上ト認ムル外國ノ學校ヲ卒業シタル者ヲ除クノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ國語、漢文、歷史、地理、數學、物理及化學ノ七科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ於テ行フ試驗ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス（同上）

第八條　高等學校大學豫科又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シタル者ハ豫備試驗ヲ免ス（同上）

第九條　豫備試驗ニ合格シタル者ハ爾後豫備試驗ヲ免ス

第十條　本試驗ハ受驗者學理上ノ原則及現行法令ニ通曉シ且之ヲ實務ニ應用スルノ能力アルヤ否ヤヲ考試スルヲ以テ目的トス（同上）

本試驗ヲ分チテ行政科、外交科及司法科ノ三科トス

第十一條　受驗者ハ二科以上ノ試驗ヲ併セ受クルコトヲ得

本試驗ハ筆記及口述トス筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十二條　民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法其ノ他高等試驗委員ニ於テ必要ト認ムル科目ノ筆記試驗及口述試驗ハ受驗者ニ法文ヲ示シテ之ヲ行フ（同上）

第十三條　行政科試驗ノ筆記試驗ハ左ノ必須科目及撰擇科目ニ付之ヲ行フ

必須科目

一　憲法
二　行政法
三　民法
四　經濟學

撰擇科目

一　哲學概論
二　倫理學
三　論理學
四　心理學
五　社會學
六　政治學
七　國史
八　政治史
九　經濟史
十　國文及漢文
十一　商法
十二　刑法
十三　國際公法
十四　民事訴訟法
十五　刑事訴訟法
十六　財政學
十七　農業政策
十八　商業政策
十九　工業政策
二十　社會政策

撰擇科目ハ受驗者ヲシテ豫メ三科目ヲ撰擇セシム」

行政科試驗ノ口述試驗ハ行政法及受驗者ノ受驗シタル筆記試驗ノ科目中其ノ志望ニ係ル其ノ他ノ二科目ニ付之ヲ行フ（同上）

第十四條　外交科試驗ノ筆記試驗ハ左ノ必須科目及撰擇科目ニ付之ヲ行フ

必須科目

一　憲法
二　國際公法
三　經濟學
四　外國語

外國語ハ英語、佛語、獨語、支那語及露語ノ中ニ就キ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一種ヲ撰擇セシム

受驗者ノ願ニ依リ其ノ撰擇シタル外國語ノ外他ノ外國語ヲ併セ試驗スルコトアルヘシ（同上）

撰擇科目

一　哲學概論
二　倫理學
三　論理學
四　心理學
五　社會學
六　政治學
七　國史
八　政治史
九　經濟史
十　外交史
十一　國文及漢文
十二　民法
十三　商法
十四　刑法
十五　行政法
十六　國際私法
十七　財政學
十八　商業政策
十九　商業學

撰擇科目ハ受驗者ヲシテ豫メ三科目ヲ撰擇セシム」

外交科試驗ノ口述試驗ハ外國語（筆記試驗ニ於テ受驗シタルモノ）國際公法及受驗者ノ受驗シタル筆記試驗ノ科目中其ノ志望ニ係ル其ノ他ノ二科目ニ付之ヲ行フ

第十五條　司法科試驗ノ筆記試驗ハ左ノ必須科目及撰擇科目ニ付之ヲ行フ（同上）

必須科目

一　憲法
二　民法
三　商法
四　刑法
五　民事訴訟法又ハ刑事訴訟法（受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ撰擇セシム）

撰擇科目

一　哲學概論
二　倫理學
三　論理學
四　心理學
五　社會學
六　國史
七　國文及漢文
八　行政法
九　破産法
十　國際公法
十一　民事訴訟法又ハ刑事訴訟法（必須科目ニ於テ受驗者ノ撰擇セサリシモノ）
十二　國際私法
十三　經濟學
十四　社會政策
十五　刑事政策

撰擇科目ハ受驗者ヲシテ豫メ二科目ヲ撰擇セシム」

司法科試驗ノ口述試驗ハ受驗者ノ受驗シタル筆記試驗ノ科目中其ノ志望ニ係ル三科目ニ付之ヲ行フ但シ其ノ中一科目ハ民法又ハ刑法ナルコトヲ要ス

第十六條　前三條ニ揭クル撰擇科目中心理學、社會學、政治史、經濟史其ノ他必要ト認ムル科目ニ付テハ閣令ヲ以テ其ノ範圍ヲ定ムルコトヲ得（同上本條ヲ追加）

第十七條　一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者ニ付テハ受驗者ノ願ニ依リ翌年ニ限リ其ノ科ノ筆記試驗ヲ免ス（同上）

第十八條　一ノ科ノ本試驗ニ合格シタル者ニシテ他ノ科ノ本試驗ヲ受ケントスル者ニ付テハ受驗者ノ願ニ依リ其ノ既ニ受驗シタル科目ノ試驗ヲ免ス但シ行政科本試驗ヲ受ケントスル者ニ在リテハ行政法、外交科本試驗ヲ受ケントスル者ニ在リテハ國際公法、司法科本試驗ヲ受ケントスル者ニ在リテハ民法又ハ刑法（受驗者ヲシテ其ノ一ヲ志望セシム）ノ試驗ハ之ヲ免セス（同上）

第十九條　高等試驗ノ合格者ヲ定ムル方法ハ高等試驗委員ノ議定スル所ニ依ル（同上）

第二十條　高等試驗ノ合格者ニハ合格證書ヲ付與ス（同上）

第二十一條　不正ノ方法ニ依リ高等試驗ヲ受ケントシタル者又ハ高等試驗ニ關スル規程ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ其ノ合格ヲ無效トス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ三年以內ニ於テ期間ヲ定メ高等試驗ヲ受ケシメサルコトヲ得（同上）

第二十二條　高等試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ本試驗ノ一科ニ付十五圓ヲ納ムヘシ（同上）

第二十三條　高等試驗ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム（同上）

附　則（昭和四年勅令第十五號附則）

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シ第十七條ノ規定ヲ適用シテ其ノ科ノ口述試驗ヲ行フ場合ニ於テ其ノ筆記試驗ニ於テ受驗シタル科目中商業史アルトキハ之ヲ本令ニ依ル筆記試驗ノ科目ト看做ス

文官高等試驗ニ合格シタル者ハ之ヲ本令ニ依リ行政科試驗ニ合格シタルモノト看做ス

高等試驗令施行細則

（大正七年二月二十八日閣令第一號）

改正、大正一二—閣令三、大正一三—閣令一、昭和二—閣令一、昭和四—閣令一

高等試驗令施行細則

第一條　高等試驗ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書ニ履歷書及高等試驗令第七條又ハ第八條ノ規定ニ該當スル者ナルコトヲ證スル書類竝ニ出願前一年內ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ（大正十三年閣令第一號ヲ以テ本項中改正）

高等試驗司法科ヲ受ケムトスル者ニシテ大正十二年勅令第百九十七號ニ依リ豫備試驗ノ免除ヲ申請セムトスルモノハ受驗願書ニ履歷書豫備試驗免除申請書及明治二十四年司法省令第三號判事檢事登用試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年內ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ（同上）

受驗ノ出願ハ豫備試驗ヲ受クル者ニ在リテハ毎年四月一日ヨリ同月二十五日迄ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ毎年五月一日ヨリ同月二十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ（昭和二年閣令第一號ヲ以テ本項ヲ改正）

第二條　受驗願書ニハ本試驗ノ分科ヲ記載シ且本試驗ニ於テ受驗セントスル科目ヲ筆記試驗及口述試驗別ニ記載スヘシ（昭和四年閣令第一號ヲ以テ本條ヲ改正）

第三條　豫備試驗ヲ受クル者ニ在リテハ受驗願書ニ前條ニ規定スル事項ノ外豫備試驗ニ於テ受驗セントスル外國語ノ種類ヲ記載スヘシ（同上）

第四條　一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者高等試驗令第十七條ノ規定ニ依リ其ノ科ノ筆記試驗ノ免除ヲ受ケントスルトキハ受驗願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

一ノ科ノ本試驗ニ合格シタル者ニシテ他ノ科ノ本試驗ヲ受ケントスル者高等試驗令第十八條ノ規定ニ依リ其ノ既ニ受驗シタル科目ノ試驗ノ免除ヲ受ケントスルトキハ受驗願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ（同上）

第五條　受驗手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ受驗願書ニ貼付スヘシ

受驗手數料ハ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第六條　受驗願書及添付書類ハ之ヲ還付セス但シ證明書ハ請求ニ因リ之ヲ還付ス

第七條　受驗者試驗當日開始ノ時間迄ニ出席セス又ハ試驗半途ニテ休止シタルトキハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　受驗者ハ試驗委員長ノ告示其ノ他試驗委員ノ指示ヲ遵守スヘシ

第九條　高等試驗ノ合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十條　高等試驗ニ關シ本令ノ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ高等試驗委員長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年閣令第一號附則）

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年ニ限リ豫備試驗ヲ受クル者ノ試驗ノ出願ハ同年四月一日ヨリ同年五月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

高等試驗施行要綱（昭和四年三月二十八日內閣告示第一號）

高等試驗施行要綱

第一條　高等試驗豫備試驗ノ論文試驗ヲ行フニハ受驗者ニ其ノ高等普通教育ノ素養アルヤ否ヤヲ考試スルニ適スル論題數個ヲ與ヘ其ノ一ニ對シテ答案ヲ作成セシメ思想ノ內容及表示方法ニ付考查ヲ爲スモノトス

第二條　高等試驗豫備試驗ノ外國語試驗ハ外國文和譯及和文外國語譯ニ付之ヲ行ヒ通常ノ外國文ヲ了

解シ日本國文ニ依リテ簡易ナル思想ヲ表ハスノ能力ニ付考試ヲ爲スモノトス

第三條　高等試驗本試驗各科目ノ試驗ニ關シテハ試驗ノ目的ハ受驗者カ必要ナル學識及其ノ應用能力ヲ有スルヤ否ヤヲ考試スルニ在ルニ鑑ミ試驗問題ノ選定及試驗成績ノ考查ニ當リ特殊ノ學說特殊ノ學派ノ見解ニ偏スルコトナク適正ヲ得ルニ努メ記憶力ニ基ク知識ノ考試ニ偏スルコトナク學理ノ體會及其ノ應用能力ヲ考試スルニ重ヲ用フルモノトス

第四條　憲法、行政法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、其ノ他ノ諸法ノ試驗ニ當リテハ單ニ規定ノ說明論述ニ止マラス機宜ニ應シ各規定ニ基ク理由及史實竝ニ其ノ實際ニ及ホス效果等ニ付考試ヲ爲シ國內法ニ在リテハ特ニ其ノ我國俗等トノ關係ニ付考試ヲ爲スモノトス

高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件

（大正七年二月二十八日文部省令第三號）

改正　大正九—省令一七、大正一一—省令三四、大正一三—省令四、省令二三、大正一四—省令三七、大一五、省令六—昭和四—省令二八　昭和七—省令一三

高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件左ノ通リ定ム

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等試驗令第七條ニ依リ普通教育ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學歷ヲ有スル者トス

一　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ國語、漢文、歷史、地理、數學、物理及化學ノ七科目ニ付試驗檢定ニ合格シ若クハ試驗ヲ免除セラレタル者又ハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官若クハ關東廳長官ノ定ムル專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依リ國語、漢文、歷史、地理、數學、物理及化學ノ七科目ニ付試驗檢定ニ合格シ若クハ試驗ヲ免除セラレタル者（昭和四年文部省令第二十八號ヲ以テ本號改正）

二　專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者（大正十三年文部省令第二十三號ヲ以テ本號中削除）

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ特定ノ專門學校入學ニ關シ中學校卒業ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト指定セラレタル者ニシテ普通教育ニ關スル試驗ヲ受ケ若クハ成績優秀ナルノ故ヲ以テ無試驗檢定ニ依リ中學校卒業以上ノ學力ヲ以テ入學程度トスル大學豫科又ハ專門學校ニ入學シタル者

四　高等學校高等科第二學年以上又ハ修業年限三年ノ大學豫科第二學年以上ニ入學シタル者

五　前各號ノ外中學校卒業以上ノ學力ヲ以テ入學程度トシ且文部大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ニ入學シタル者

第二條　左ノ者ハ高等試驗令第八條ニ依リ高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者ト同等以上ト認ム（昭和四年文部省令第二十八號、昭和七年同第十三號ヲ以テ本條改正）

一　大學學部ニ學生トシテ入學シ現ニ在學スル者又ハ卒業シ若ハ學士試驗ニ合格シタル者

二　文部大臣ニ於テ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ヲ卒業シタル者

第三條　高等試驗令第七條ノ試驗ハ文部大臣ノ指定スル官立及公立ノ中學校ニ於テ毎年一回之ヲ行フ

前項ノ中學校及試驗ノ期日ハ文部大臣豫メ官報ヲ以テ之ヲ告示ス（大正十三年文部省令第二十三號ヲ以テ本條改正）

第四條　試驗ヲ受ケントスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ受驗地ノ地方廳ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ（同上）

一　履歷書（第二號書式）

二　戶籍抄本

三　寫眞（手札形トシテ出願前三月以內ニ脫帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日、本籍氏名ヲ記載スヘシ）

四　第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫、專門學校入學者檢定規程第七條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ同規程第八條ノ資格ヲ證明スル書面

第五條　試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ（同上）

第六條　試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書（第三號書式）ヲ交付ス（同上）

試驗ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受驗學科目中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書ヲ交付ス

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルル者ニ付亦同シ

第七條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名、本籍ヲ變更

シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得（同上）

前項ニ依リ合格證書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ

第八條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止ス試驗後發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ（同上）

第九條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ之ヲ願書ニ貼付スヘシ（同上）

其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ還付セス

附則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正十三年文部省令第二十三號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正十五年文部省令第六號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和四年文部省令第二十八號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和四年五月二十三日公布）

現ニ文部大臣ニ於テ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ハ本令ニ依リ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ト看做ス

第一號書式（用紙半紙）

受驗願書

本籍
現住所　氏　名
年　月　日生

收入印紙

免除學科目

私儀高等試驗令第七條ニ依ル試驗相受度候ニ付書類ヲ具シ此段相願候也

年　月　日

右　氏　名印

文部大臣宛

（記載注意）

一　免除學科目アリタル場合ハ其ノ學科目ヲ記載スヘシ

二　出願者氏名ノ漢字ハ振假名ヲ付スヘシ

第二號書式（用紙半紙）

履歷書

本籍
氏　名印
年　月　日生

學業

一年　月　何學校何科第何學年ニ入學、年月卒業（目下在學中）

一年　月　何年度施行高等試驗令第七條ノ試驗ニ於テ何學科目證明書受領

業務

一年　月　何官廳拜命若ハ何業ニ從事、年月何事由ニ依リ退官若ハ廢業

賞罰

一年　月　何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項

一年　月　何事由ニ依リ何ト改氏名等

（記載注意）

一　業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ

一　賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ

一　身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

大正　年第　號

合格證書

本籍
氏　名
年　月　日生

右ハ高等試驗令第七條ニ依ル試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

文部省印

第四號書式

證明書

本籍
氏　名
年　月　日生

右ハ高等試驗令第七條ニ依ル試驗ニ於テ左記學科目ニ就キ合格點ヲ得タルコトヲ證ス

年　月　日

文部省印

試驗施行年月日	合格點ヲ得タル學科目

文部大臣指定ノ學校

大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ左記ノ學校ヲ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定ス

一　高等師範學校

二　官立及公立ノ專門學校

三　修業年限三年以上ノ官立實業學校教員養成所

四　學習院高等科及元學習院高等學科

五　專門學校令ニ依ル慶應義塾大學部

六　專門學校令ニ依ル日本大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

七　專門學校令ニ依ル中央大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

八　專門學校令ニ依ル明治大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

九　專門學校令ニ依ル早稻田大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

一〇　專門學校令ニ依ル法政大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

一一　專門學校令ニ依ル同志社大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

一二　專門學校令ニ依ル關西大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

一三　專門學校令ニ依ル專修大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

一四　上智大學但シ本科卒業者ニ限ル

一五　佛教大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

（以上大正十三年二月二日文部省告示第二十四號）

一　中央大學專門部但シ大正十四年三月以後ノ法學科本科卒業者及大正十五年三月以後ノ經濟學科、商學科本科卒業者ニ限ル

二　拓殖大學

三　慶應義塾專門部

四　早稻田大學附屬專門部及高等師範部但シ大正十二年三月以後ノ專門部政治經濟科法律科本科卒業者及明治三十八年七月以後ノ高等師範部第一種卒業者ニ限ル

五　立正大學但シ明治四十五年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

六　明治大學專門部但シ大正十四年三月以後ノ商科本科卒業者及大正十五年三月以後ノ法科、政治經濟科、經濟科本科卒業者ニ限ル

七　青山學院高等學部

八　專門學校令ニ依ル國學院大學大學部及高等師範科但シ明治四十二年七月以後ノ大學部第一種卒業者及明治四十二年三月以後ノ高等師範部第一種卒業者ニ限ル

九　東亞同文書院但シ大正十四年三月以後ノ商務科卒業者ニ限ル

一〇　東京農業大學但シ豫科ノ課程ヲ履修シ大正六年三月以後本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

一一　關西大學專門部但シ大正十四年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

一二　日本大學專門部及高等師範部甲種正科卒業者ニ限ル

一三　專修大學專門部但シ大正十四年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

一四　立命館大學專門學部但シ大正十五年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

一五　神宮皇學館但シ本科卒業者ニ限ル

一六　海軍機關學校、海軍經理學校及海軍兵學校但シ大正八年以後ニ入學シタル卒業者ニ限ル

一七　農商務省所管水產講習所但シ明治三十三年以後ニ入學シタル本科卒業者ニ限ル

一八　遞信省所管商船學校但シ明治三十二年六月以後ノ卒業者ニ限ル

一九　朝鮮總督府專門學校但シ本科卒業者ニ限ル

二〇　臺灣總督府專門學校但シ本科卒業者ニ限ル

二一　眞宗大谷大學專門部及大谷大學專門部但シ大正三年七月以後ノ眞宗大谷大學專門部拿修科卒業者及大谷大學專門部本科卒業者ニ限ル

二二　龍谷大學專門部但シ大正十五年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

二三　法政大學專門部但シ大正十四年三月以後ノ商科本科卒業者及大正十五年三月以後ノ法律科政治科本科卒業者ニ限ル

（以上大正十三年五月二十二日文部省告示第二百九十號）

二四　元農商務省所管蠶業講習所但シ明治三十八年以後ニ入學シタル本科（修業年限三年ヲ滿タサル者ヲ除ク）卒業者ニ限ル

二五　專門學校令ニ依ル立教大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

二六　專門學校令ニ依ル立命館大學但シ豫科二年ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

二七　同志社專門學校但シ大正十四年三月以後ノ

本科卒業者ニ限ル

(以上大正十三年六月二十三日文部省告示第三百十二號)

二八　關西學院文學部高等商業部竝元同高等學部但シ本科卒業者ニ限ル

二九　附屬早稻田專門學校但シ本科卒業者ニ限ル

三〇　曹洞宗大學竝駒澤大學專門部但シ本科卒業者ニ限ル

三一　明治學院高等商業部及元明治學院高等部商業部但シ正科卒業者ニ限ル

三二　立正大學專門部但シ第一種卒業者ニ限ル

三三　東京農科大學專門部但シ本科卒業者ニ限ル

三四　日本大學專門部但シ正科卒業者ニ限ル

三五　旅順工科大學附屬工業專門部竝元旅順工科學堂但シ豫科研究科及選科ヲ除ク

(以上大正十四年八月十九日文部省告示第三百十九號)

三六　松山高等商業學校但シ聽講科及夜學部ヲ除ク

三七　私立眞言宗高野山大學及元私立眞言宗聯合高野大學但シ大正二年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

三八　宗教大學但シ明治四十年四月乃至大正三年四月又ハ大正十年四月以後宗教部ニ入學シ豫科ノ課程ヲ履修シ本科正科ヲ卒業シタル者、大正四年四月乃至大正九年四月宗教部ニ入學シ本科正科ヲ卒業シタル者、大正四年四月乃至大正十四年四月教育部ニ入學シ豫科ノ課程ヲ履修シテ本科ヲ卒業シタル者及大正十一年四月以後教育部ニ入學シ本科ヲ卒業シタル者ニ限ル

三九　臨濟宗大學但シ大正四年三月以後ノ卒業者(選科生及聽講生ヲ除ク)ニ限ル

四〇　大倉高等商業學校但シ夜學科ヲ除ク

四一　佛教專門學校但シ本科卒業者ニ限ル

四二　豐山大學但シ本科卒業者ニ限ル

四三　天台宗大學但シ大正七年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

四四　拓殖大學專門部但シ正科卒業者ニ限ル

(以上大正十五年四月八日文部省告示第二百三十四號)

四五　西山專門學校但シ本科卒業者ニ限ル

四六　新義眞言宗智山派私立大學智山勸學院但シ大正十五年三月以後ノ本科卒業者ニ限ル

四七　眞言宗京都大學、元私立眞言宗聯合京都大學、元私立眞言宗聯合大學竝元私立眞言宗京都大學但シ大正二年三月乃至大正十一年三月ノ本科卒業者及大正十二年三月以後ノ正科卒業者ニ限ル

四八　大正大學專門部但シ別科ヲ除ク

四九　日本醫科大學專門部及元日本醫學專門學校但シ本科卒業者ニ限ル

五〇　東北學院專門部但シ大正十四年三月以後ノ文科、師範科、高等科本科卒業者ニ限ル

(以上大正十五年十二月二日文部省告示第三百七十九號)

五一　天理外國語學校但シ本科卒業者ニ限ル

(以上昭和三年五月四日文部省告示第三百一號)

高等試驗委員及普通試驗委員官制(大正七年一月十七日勅令第九號)

改正　昭和四—勅令一八

第一章　高等試驗委員

第一條　高等試驗委員ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ高等試驗ニ關スル事務高等文官任用ノ詮衡ニ關スル事務及普通試驗令ニ依ル事務ヲ管掌ス

第二條　高等試驗委員ハ委員長部長常任委員及臨時委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　高等試驗委員ハ之ヲ三部ニ分ツ

第一部ハ高等試驗行政科試驗及他ノ部ニ屬セサル試驗其ノ他ノ事務ヲ掌ル

第二部ハ高等試驗外交科試驗竝外交官及領事官任用ノ詮衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第三部ハ高等試驗司法科試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　委員長ハ法制局長官ヲ以テ之ニ充ツ

第一部ノ部長ハ委員長之ヲ兼ネ第二部ノ部長ハ外務次官第三部ノ部長ハ司法次官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　委員長ハ職員ヲ監督シ高等試驗委員ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス部長ハ其ノ部ニ關スル事務ヲ掌理ス

第六條　常任委員ハ八人トス各官廳高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

常任委員ハ各部ニ分屬シ高等試驗委員ニ關スル事務ヲ分掌ス

第七條　臨時委員ハ各官廳高等官及學識アル者ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

高等官ニ非スシテ臨時委員ヲ命セラレタル者ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トシテ其ノ服務ニ關シテハ官吏服務規律ヲ準用ス

臨時委員ハ各部ニ分屬シ試驗ノ事ヲ掌ル

第七條ノ二　高等試驗ニ顧問ヲ置ク

顧問ハ各官廳高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

顧問ハ委員長ノ諸問ニ應シ教官技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル高等文官任用ノ詮衡ニ付意見ヲ述フ(昭和四年勅令第十八號ヲ以テ本條追加)

第八條　高等試驗委員ノ事務ニ關シ常任書記及臨時書記ヲ置ク

常任書記ハ十人トス各官廳判任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時書記ハ各官廳吏員ノ中ヨリ試驗施行ノ際必要ニ應シ內閣ニ於テ之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二章　普通試驗委員

第九條　普通試驗委員ハ之ヲ各官廳ニ置ク長官ノ監督ニ屬シ普通試驗及判任文官任用ノ詮衡ニ關スル事務ヲ管掌ス

第十條　普通試驗委員ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　委員長及委員ハ中央官廳ニ於テハ其ノ廳ノ高等官ノ中ヨリ地方官廳ニ於テハ其ノ廳ノ官吏及官立公立ノ學校教員ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

第十二條　委員長ハ職員ヲ監督シ普通試驗委員ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第十三條　普通試驗委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置ク各官廳判任官ノ中ヨリ長官之ヲ命ス書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則(昭和四年勅令第十八號附則)

本令ハ昭和四年三月二十八日ヨリ之ヲ施行ス

高等試驗令第十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ豫備試驗ヲ免セラレタル者ニ之ヲ適用セス

文官試驗委員官制竝外交官及領事官試驗委員官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ文官普通試驗委員又ハ文官普通試驗書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各普通試驗委員長普通試驗委員又ハ普通試驗書記ヲ命セラレタルモノトス

司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件(大正十二年四月三十日法律第五十二號)

改正、昭和二—法律五四、昭和七—法律二一

明治二十六年司法省令第九號辯護士試驗規則ニ依ル試驗ニ受驗ヲ出願シタル者ニシテ昭和十二年十二月三十一日迄ニ勅令ヲ以テ定ムル試驗ニ合格シタル者ハ辯護士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス辯護士タルコトヲ得(昭和二年法律第五十四號、昭和四年法律第二十一號ヲ以テ本項中改正)

本法施行前ニ帝國大學法學部法律科ヲ卒業シタル者ハ裁判所構成法第五十八條第一項及辯護士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス試驗ヲ要セスシテ司法官試補ヲ命セラレ及辯護士タルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則(昭和二年法律第五十四號附則)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和二年五月二日公布)

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ニ關スル件(大正十二年四月四日勅令第百九十六號)

改正、昭和四—勅令一七

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ニ付テハ高等試驗令第二條第一項、第三條、第九條、第十一條、第十五條乃至第十七條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス(昭和四年勅令第十七號ヲ以テ本條改正)

前項ノ試驗ニ關スル事務ハ高等試驗委員第三部ニ於テ管掌ス

附　則

本令ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則(昭和四年勅令第十七號附則)

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ施行ス

高等試驗令第十七條ノ規定ヲ準用スル改正規定ハ昭和三年ニ行ヒタル大正十二年法律第五十二號ニ依ル筆記試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ適用ス

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ノ施行ニ關スル件(大正十二年五月四日閣令第四號)

改正、大正一三—閣令二、昭和二—閣令八、昭和四—閣令二

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書及履歷書及明治二十六年司法省令第九號辯護士試驗規則ニ依ル受驗ヲ出願シタル

者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年内ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ（大正十三年閣令第二號ヲ以テ本項改正）

受驗ノ出願ハ毎年五月一日ヨリ同月二十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ（昭和二年閣令第八號、同四年閣令第二號ヲ以テ本項改正）

高等試驗令施行細則第二條、第四條第一項、第五條乃至第十條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス（昭和四年閣令第二號ヲ以テ本項ヲ改正）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年閣令第二號附則）

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等試驗ノ受驗資格ニ關スル件

（大正十二年四月三十日勅令第百九十七號）

改正、昭和二―勅令一〇二、昭和四―勅令一六
昭和七―勅令二二六

明治二十四年司法省令第三號判檢事登用試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ニシテ高等試驗司法科ノ試驗ヲ受ケントスル者ハ受驗者ノ申請ニ因リ昭和十二年十二月三十一日迄豫備試驗ヲ免スルコトヲ得（昭和二年勅令第百二號、昭和七年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項中改正）

高等試驗令第十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ豫備試驗ヲ免セラレタル者ニ之ヲ適用セス（昭和四年勅令第十六號ヲ以テ本項中改正）

附　則（昭和二年勅令第百二號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和二年五月二日公布）

附　則（昭和四年勅令第十六號附則）

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等試驗各大學　年度別問題索引

備考

本表ハ昭和二年以降五年間ノ高等試驗及各大學試驗問題ヲ容易ニ檢出シ得ルタメ作製セルモノニシテ、例ヘハ昭和二年度、行政科ノ欄ニ、憲一トアルハ其問題カ本書ノ憲法第一條ノ下ニ掲錄セラレ居ルヲ示スモノトス。但シ、國私ノ下ニアル數字ハ法例ノ條數ナリ。

其他、卷頭トアルハ其法律ノ卷頭ニ收メタルヲ示シ、又I、II等ノ數字ハ各法ノ編、1、2等ノ數字ハ同シク章、i、ii等ノ數字ハ同シク節ヲ表ハシ、其問題ヲ夫々篇、章乃至節ノ頭初ニ收メタルヲ示ス。空欄ハ未詳ニテ目下取調中ノモノナリ、讀者諸彥ノ御敎示ヲ得レハ幸甚

高等試驗問題ノ數字ニ「　」ヲ附シタルハ口述試驗ヲ表ハス

	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度
行政科	憲一・三四 民三九九・五六一 商二〇三・四三七 民訴一・六二 刑「三八」・三八・「一〇二」・二四六 刑訴「10」・五六〇・五六七	憲八・「九」・「一三」・三三・七四 民「一二七」「一六二」「一九二」「二〇二」「三四二」「四一〇」「四八〇」五六〇・「五八七」・七八八 商一七七・四六四 民訴三五六・I 2 刑九・六〇・一九九・「二四六」 刑訴二六四・三一五	憲「卷頭」・「1」・「二」・「四」・「五」・「六」・「一三」 民「一四」・「七八」・「九六」・5・「七一五」・九七〇 商五四・一五六・「一六三」・四四一 民訴卷頭・「一八二」・II 1 iii 刑二五・「三六」・「四三」・五六・「II 22」 刑訴九〇・二七八・三九四	憲一・三・「2」・「二七」・五五 民一九・九九・「一〇四」・「二六五」・四四六・「五三四」 商四九・六三・I 4 i・「一二三」・三八四 民訴六〇・六四 刑I 2・三八・「二五一」 刑訴三九・三一八	憲二七・五五 民一九四・三五三・四一六 商一九七・四四一・五九二 民訴二五〇・二五九 刑四三・二三六 刑訴三四六・三六四
外交科	憲三〇・七四 民一九七・五六六 商六八・四五五 刑「三八」・四四・二五一 國私八・三〇	憲三〇・五六 民四一五・四二四 刑三八・六二 國私卷頭・一四	憲五・「一七」・三五 民二九五・四四五 國私卷頭・一四	憲1・一〇・五七・五七・「七三」 民二〇三・四一四 商一一九・一二三・三五〇・三八五 刑九・五四・六二 國私卷頭・一五	憲一三・六四 民一四五・四三二・四四六 商一二二・六二 刑三八・二五二 國私卷頭・一五

	司法科	辯護士
昭和二年度	憲「二」・三三・五九 民三二・「一六六」・三四九・四一八 商六七・一九五 民訴巻頭・「I 1」 刑三八・一八三・「二六二」 刑訴「一三〇」・一七五・「一八〇」・二三六・「二九五」 國私三三・二七	憲一・五七 民三二・四七八 商三〇・三九九ノ三 民訴「七九」・三二二・「三三二」・「三三〇」・三六〇 刑三八・一四八 刑訴三六三・三八〇 國私巻頭
昭和三年度	憲一・一〇 民九六・一〇四・「II 1」・「一九二」・「二〇〇」・「二三八」・「三四九」・「三五〇」・「四六六」・四九四・「I 2 i」・「五八九」 商「四」・「四二」・「四五」・九九ノ二・二三三・二〇三・「二九七」・三三四・「三六六」・三九九ノ二・「四六四」 民訴二五五・「三三三」・二一七 刑I 2・「三八」・「一四四」・「一九七」・「二三五」・二四七・二六二・「三六六」 刑訴二九九・「二八〇」・三六三・「三九四」・「三九九」 國私三三・二七	憲六・六四 民二六三・五三三 商二四九・二〇三・三二四 民訴八一・二三六 刑四五・一五七 刑訴「一三〇」・二七九・三二五 國私一〇・三〇
昭和四年度	憲1・九・3・「三五」「五五」・「五五」・「六四」 民「一四五」・三六九・「四二二」・四六六・「五二一」・「五〇〇」・「六三四」 商「一六」・「三八」・六八・「一二三」・「一四四」・「一六四」・「一九五」・「二二二」・「二八五」・「四三五」・四五三 民訴「一二五」・「一九九」・二二六・「二三五」・三六六・「三六二」・「四一〇」 刑「一二五」・二六・「二五」・「一九七」・一九七・「一九九」 刑訴「1」・「二」・三五三・「三五三」・二三五・「三九九」 破六・三七 國私巻頭・一	憲六・五七 民九九・四一二 商一四二ノ三・三三四・四三六 民訴二〇三・二二五・「二五七」・「三〇一」 刑一・二五六 刑訴三三六・三三七 破一五・二三六 國私巻頭・一一
昭和五年度	憲巻頭・「五」・「五七」・六四・「六四」 民「一七二」・「四六二」・「六八九」 商六六・「八四」・「一五二」・一七四・三三四 民訴四五・六〇・「七九」・「一三六」・「一四四」・「二〇三」・「二二三」・「二三七」 刑「三八」・六六・「五四」・「五五」・「一六九」・「二〇二」・「二〇四」・二五六 刑訴「一七六」・「二七八」・二六一・三〇一 破四〇・一五七 國私二六・二七	憲巻頭・一三 民三四四・五五七 商二二七・四四〇 民訴二六・八一・「一四〇」 刑四三・二三三 刑訴「二七」・三五五・三九九 破七二・一二六 國私二六・二七
昭和六年度	憲一三・六四 民一四六・四四二 商一三〇・IV 2 民訴六四・二二六 刑三五・六六・二四〇 刑訴二六七・三三七 破六・一五・七二 國私八・一〇	憲九・二四 民二六六・四六六 商一四三・二〇三・二三〇 民訴二六・二〇 刑六〇・一四八・一五二 刑訴1・二七七 破六・九六 國私八・一〇

東京帝國大學	京都帝國大學
憲巻頭・九・三七・五五・五六・六四 民I・四・九五・九六・一〇一・一三一・一三七・一四五・一七七・一八一・一八八・一九二・II 9 i・三四二・四二五・四六八・五三六・五四五・五六〇・七〇三・七〇九・七七四・八二〇・V・九〇七・一 商1・一二三・一九七・四六・四四四・四六四・五二〇・五三八・五六六・六五〇・四三七・四四〇 民訴六二・一九四・二三一・四九七 刑四三・四三・一九九・二三〇 刑訴四一 破一・七六	憲二七・五七・六四 民一七八・II 2 i・一九二・一九七・II 7・四〇五・四一四・四五八・五二九・五三三・五三四・七〇九・IV 3・七七五・IV 3 iv・九六四・九八六 商二〇・二一・一五〇・一五二・二三一・三四四・三五八・五四四・六四一 刑三八・一八三・二三〇 刑訴巻頭・二三〇
憲四・四・八・九・一〇・三七・五五・六四・七〇 民I・一二・一四・二四・三二・三四・三九・八八・九二・一〇二・一二九・一七七・一九二・二〇〇・二〇五・二四九・II 7・三〇四・三〇六・三四九・II 10 i・三六九・II 10 ii・四一〇・四一四・四二八・五五七・五六〇・七八七・八二九・八三二・八三八・八五一・九九四・九九六・一〇三三・一一三〇 商一・三〇・三五七・四三六・四四五・六四二 民訴巻頭・二三一 刑I 2・I 7・三八・四三・二四七 破七六	憲二・八・三七・五三・七〇 民一・二一・六八・八八・九四・一一二・一一三・一二三・一二三七・一四七・一五八・II 1・一九五・II 7・二九五・四〇五・四一九・四八二 商五八・一四四 刑巻頭・二五・二七・三八・一〇六・二三六・二四六 刑訴二四・二七九
憲巻頭・一・八・九・2・二六・三〇・五五・六四・七三 民1・一一〇・一四・三七・五四・九三・九三・九六・一二三・一三〇・一三五・一六六・一七七・一九七・二六六・II 5・二二〇・II 7・II 8 i・三六九・四一八・四五六・四七一・四九四・五四一・六〇八・六一九・七〇九・七一三・七六一・七七七・八〇四・八〇七・V・一〇五一 商I・一三〇・一四七・一四九・一五三・二三三・三五三・三五八・四二八・四三九・四六四・五一四・五六五 民訴二三五・一三六・二〇八・二三七・四九七 刑I 2・四五・一五九・二三五 破六・七六・八六	憲五・八・一三 民I・三四・九六・九七・一三六・一七六・一九五・一九九・II 3 i・二〇七・四二三・四四四・四五八・四七四・五三六・五六七・六〇一・七〇九・七二八・八二七・九七〇 商九・一三・四三・一七九・一九七・二〇一・三三四・四三六・四四〇・四六〇・五三七・五四六・五九七・五九〇・五九一・五九四 民訴三六 刑巻頭・一八一・一八四・一九九 刑訴巻頭・二三〇 破七二・一二六 國私一九
憲一・四・二四・二六・三四・六四 民一四・九五・九八・九九・一二〇・一九二・一九三・二四〇・II 7・三三八・三五三・四三二・五六九・五三〇・六三〇・七〇三・七〇九・七〇九・八五一・九七〇・九八六・一〇六一 商三〇・二〇八・二一〇・二三八・二六六・三三八・三五〇・三九九ノ二・四〇三・四三五・四四〇・六二〇・六三一 民訴二二七・一四一・二二四・五二一 刑I 2・二六八・二三〇・二四七・二五一 刑訴二六七・二二一 破一七・二八二	憲巻頭・四・2・二〇・三三・五六 民一・四・一九・二一・二二五・三二一・三四・三七九・四四・八七・六八・九七・九九・一二〇・一二七・一三五・一七七・一九四・四〇一・四三〇・四三一・四三二・四五八・五二一・五三一・五三七・五三六・五四三・V 1 i・九八五 商四・三〇・三一・一四二・一九九・三三四・四四一・四五三・V 5・五三八・五六五・五七八 民訴二五・六二 刑巻頭・三六・一〇六・二三六 刑訴巻頭・二一・四二二 破五七 國私巻頭・一六
憲巻頭・一・一七・2・2・三七・六四・六四 民四・一四・一九・二四・五四・八七・九二・九四・一〇二・一二三・一二六・一三七・一七八・一八三・一九二・二二六・三三七・一二三・III 1 i・IIII 7・三〇一・三五三・三六九・五六・五五〇・六〇五・七〇九・III 1 ii・四五八・四九四・五〇〇・八三九・九七〇・九八二・IV・七三二・七五五 商1・一四四・二〇三・三三四・三八五・三八六・四一・四五五・五七七 民訴巻頭・四五・一四四・二〇三・三三三・五五 刑二四六 刑訴三四三・三五三・五八七	憲四・五・五五 民一三〇・一三七・一四四・一八八・二〇〇・四〇三・四八〇・II 2 i・五三四・五五六・六三六・八二七・八六〇 商八・三〇・一五一・三三四・四三四・四五三・五四五・五五七・六二六 民訴二五・七一・一四四・二〇三・二三五・二三六 刑巻頭・三五・三六・三八・四三・二一 刑訴二一九・二三八 破三四・七七・八七 國私巻頭・一三

	明治大學	早稻田大學
昭和二年度	憲二三・三三 民一・一九・二五・八六・九九・一七七・二四三・二四六・二六六・三六四・三七五・四〇〇・四〇五・四一三・四四・四八二・五〇九・五三七・五五一・八七九・九八八・一一三〇 商三六・四四ノ三・六八・七八・八三・一一三・一二〇・三一三・三一七・三八四・四四五・四五五・四七〇・四七四・五五六・六七四・三三五・六四七 民訴四五・二〇八・五四五 刑三七・一四八・二三五 刑訴三七六・三八六 破七〇・八九 國私卷頭・九	民二四九・三四三・三四四・四〇〇・四一八・一〇三五
昭和三年度	憲卷頭・九五 民一・二二・八五・八六・八八・九二・九七・九八・一七七・二三九・二六三・二六八・二九五・三三九・三五二・三五六・三六三・三六九・四〇一・四二〇・四一五・四二〇・四二八・五三四・五五七・七四二・九八九 商一・三〇・三一・三六・六九・一〇五・一一八・一三五六・一四九・二〇八・二六六・二七五・二八四・三八六・三九九・四三四・V 2 民訴五〇・五〇・一三八・一九一・一九九・二〇八・二三五・二九七・三二一・五二四・五三三・七三七 刑三五・三八・四二・五五・六一・六六・一〇五・一六九・二〇四・二四七・二五二 刑訴二七九・二九五・三〇九・三九八・四七九 破卷頭・八七・八九・一三一 國私七・一三・一五・二七	憲三五・七四 民I・九九・一二九・二〇二・三四二・三六三・三九九・四〇五・七〇三・七二八・七三六・八四三・九七〇・九九二・一〇〇一 商一五二・四四七・五三五・六三〇・六四一 民訴一四〇・二三二・三六七 刑一五九・二四七 刑訴三四〇・三七九・四〇三
昭和四年度	憲卷頭・三四 民I・九・二二・三二・八五・八八・I 4 i・九二・一三七・一三二・一七九・一九二・一九七・二〇〇・二二〇・II 7・四〇一・四〇五・四二五・四二六・四二四・四五一・四八二・四八六・五二六・五四五・五七九・七四三・八二〇・八四一・九七九 商四・二〇・三〇・七八・一五二・一三〇・二〇六・二一〇・二六三・二七三・三八四・三九一・四一八・四五五・四六九・四七〇・五三五・VI 4・五四四・五五六・六七五 民訴一・一三五・五二六・五四六 刑三八・五六・一〇八・一二五・一八五・二三〇・二三五 刑訴二五四・二五五・二六四・三〇九・三六三 破一五・八九 國私三・一三	民一七八・一九七・七六八・七五〇 商四・三〇・一四九・III 1・三八四・四四一・四四・五四四・五四六 民訴五九・一四〇・一九九・三七七 刑六一・二〇四
昭和五年度	憲五・八・三五・六四 民I・二・一四・五五・八六・九〇・一〇九・一二〇・一八三・二〇〇・二六一・二七二・三六四・三六七・三九三・四〇〇・四二三・四二八・四四四・四四一・四九四・五〇五・五二二・五二六・五三三・六三七・五四五・五九六・五七九・七二六・七六四・九九二・一〇一七・一〇三三 商二・四・二三・二九・四四ノ三・六二・一六八・一〇五・一三〇・一三〇・一五三・二五九・二六二・二六六・三八四・四一九・四二八ノ三・四三一・四四四・四四三・四四五・四九五・四七四・V・五三八・五四三一・六五七・六七〇 民訴四九・一三五・二三五・二三六・二五〇・二六七・三三六・五六六・七三七 刑一・三七・三八・三九・四三・四四・五四・五五・六一・一九七・二三〇・二四七 刑訴一三・二六七・二六八・二七八・二八〇・三三六・三六三・四一〇 破卷頭・四七・九二 國私卷頭・七・一〇・二〇・二二	憲三七・九七 民三九・一一三・一八二・II 9 i・三六九・四二三・四五六・III 2 i・六〇二・六〇三・六三二・IV・七三七・九七〇・一〇三九 商四三・五九・一四四・二六六・二七八・四三五・四三七・四四〇・IV 2・五四四・五六六 民訴一五・一三五 刑一七二・二四六 刑訴四六
昭和六年度	憲二七・六四 民三七・II 1・二四九・四四一・五一四・五二六・六〇五・七二五 商四・四四ノ二・七八・一四二ノ三・二六六・III 10・三八五・五三三・四三五・V・五六五 民訴五〇・五三・一四〇・三三八・三五六・七三〇 刑五五・六一・一六四・二五一 破一五・九二 國私卷頭・一一・一四・一八	商I 1・二六・一〇八・一一五・一三三・一三〇・二六三・四三九・四四七・五四四・五九二・五七八 民訴二六・五九・二五〇・三七 刑六・五五・一三三・二三六

	日本大學	中央大學（續ク）
昭和二年度	憲1・四・三三・五五 民三・九八・三〇六・三五四・五三四・五五七・五七九・九六六・一〇〇九・一〇二二 商一四九・四四〇・五四四・五五三・五五八・六四一 民訴卷頭・一一五・三二一・三六〇・五五九・六〇〇 刑二〇九・二三五 刑訴1・一三三・二五五 破六五	
昭和三年度	憲卷頭・二・2・三四・五五 民二・八八・一三七・一七八・二六六・五五七・七四二・七六五・七六八・V・九六四・九七九 商三八五・四二一・四四〇・四四五・五九〇 刑三八・四五 刑訴五六七 國私卷頭	憲卷頭・八・九・五五・六四 民I・一・七・八六・九八・一七八・二〇六・二九五・三五二・三六九・三七七・三七八・四二三・四五六・五一四・五五五・五八六・六〇一・六三一・七〇九・七二五・七四九・七五七・八三六・八六八・一〇三三・一〇二四 商一六・三二・一一五・一六二・二六三・三二三・三八
昭和四年度	憲2 民二・一二七・II 1・一八一 商一六・二六六・三八四	民II 7・二九五・三四二・三六二・三六九・III 1 1 i・四〇五・四二三・四二五・四四六・四五五八・四七四・四九四・五四五・五七六 商二〇・三〇・一五三・一五五・二三〇・四八二
昭和五年度	憲卷頭・四・四・七・二七・三三・三三・三四・三五・五五・九七 民八七・九七・一〇二・一〇四・一〇六・一一〇・一一九・一三七・一四五・一八二・一八八・二〇〇・二三三六・三五四・三七五・三三七・III 1 i・四一三・五二九・五五五・五五七・五五八・六〇一・六一四・七〇九・七三三・七六四・八二〇・九五四・九七〇・一〇〇四 商一六・四一・四四ノ三・四九・五四・一〇八・一二二・一六二・二六五・三八四・四二四・四二八・四三八ノ四・四三一・四四〇・四四三・四五五・四五七・四五九・四六〇・四六四・四七四・五四四・六四一・六五〇 民訴三〇・八一・二五〇・三二一・三六三・三八八・四一〇・五四九・五五九・五六六・六〇〇 刑三五・三八・四三・四五・一〇八・一三〇・二〇四・二三六・二五二・二五六 刑訴三六・一三九・一九〇・二三〇・二六四・二九一 破七・八六・九八・一三六・一二九・二四九 國私一〇・一三・一四・二七	民II 7・三四八・五三三・五五六・九六四・九六六・九八一・一〇二三 商一二・二六・一七五・二三〇・二六三・三八七・三九
昭和六年度	憲四・一七・2・3・五五・七三 民三一・一〇二・一一九・一二七・II 1・一七七・一七八・一八〇・一八三・一九七・二五六・三六四・四二六・四四六・四七三・五三四・五七〇・五九三・六〇一・七〇九・七四五・七五〇・八〇八・八二三・八二〇・八二七・八三一・八三一・九五四・V 1 iii・一〇四一・一〇四七 商五九・七四・一五六・二九一・三八四・三八五・四三三六・四五〇・四五三・四六三・四六三・五七七・六二一〇・六四一 民訴一・四九・八五・二〇三・二三六・二三八・二三二・三四三・三六〇・三六四・五三一・五四五・六〇〇 刑I 2・三六・六〇・一〇八・一三三・一三五・二四六 刑訴二・一三・一七〇・三一五・四八五 破一三・三三・八七・九二・一〇一 國私三三・三五・三六	憲五五・六二・六四 民九五・一三〇・一七六・一七七・一八〇・一八九・二三九・三七八・四一四・五二七・五三四・七六六・八二七・V・九七四 商三〇・四四ノ三・一三一・二六三・三八七・三九九

	中央大學（承前）	法政大學	專修大學
昭和二年度			
昭和三年度	五・三八六・三九九ノ二・五〇二 民訴二二・四九・六四・七一・二三四・二三四・三七一・四三五・四九八・五一二・五一八・五三一・五四五・五五九・五六四・六〇〇・六七〇・七〇六 刑三七・六〇・一五九・二二五・II 36・二四〇・二五一・二五六 刑訴二五八・二六九・三〇五・三三一・三九八・四〇九 破七七・九八・一二六・二四〇 國私七・三〇	憲一三	
昭和四年度	刑一五七・二二五 刑訴三〇九	憲三三	
昭和五年度	九ノ二・四一二・五〇〇・五一〇・五三〇・五三七・五三八・五四四・五九一・六五四 民訴三五・三七・一四〇・二二三・二三〇・二九九・三六〇・五一八・五四五・五六六・五七四・五九四・七三七 刑一五九 刑訴四四・二六八・三九五 破一九・八一・九二・一〇八 國私卷頭・一〇・二五・二六	憲一一・五五 民六〇一	民一七七・三六九
昭和六年度	ノ二・四一二・四三九・四四〇・四六四・四八三・五九〇・六二〇・六九〇・五二〇 民訴三五・三七・八一・二二三・二三八・二三六・二五〇 刑三八・六〇・九七・一〇七・一八五・二一一 刑訴一一五 破一一五	憲五五	商五九

	東北帝國大學	九州帝國大學	關西大學
昭和二年度	憲二八・六二 民I 1 i・三二・四四・九五・一七七・II 7 二九五・三八四・三六九・三九九・四一五 商四八八・五四四・六七四		民一七六・二八〇・四〇二・四一二・七七五・九七五・ 商六五・一九五・三三一・三三二・四五五・五五四・五五七 民訴六四・二三一・二三二・二五九・二六七 刑二〇四・二三五 破九二 國私七・一〇
昭和三年度			民訴六〇
昭和四年度			民I・九五・一七六・三七九・四〇一・四一二・五一四・五八七・六〇一 商八・二〇・二三・七一・一二二・二九一・三三四 民訴二二・三二 刑三八・四三・六一・二〇四・二〇九
昭和五年度			
昭和六年度	憲九・2・五七・七〇 民I・三二・九二・一七八・一八一・一九三・二四九 III 1 i・III 1 j・四〇一・四一八・四二二・四八二・III 2 i・五三三・七四四 商三〇・一三六・一五〇・三三四・三四一・三九九ノ二・四〇三・四四〇・四五七・五五八・五六六 民訴一二七・一三八・一四一・一九九・二三五・二三四・三五六 刑卷頭・I 2・二五・三八・一〇九・一四八・二四〇・二四七 刑訴二五八・二五九・二六八・四一〇	民一七八・一九五・三四五・三四八・四三二・四九四・五七〇・七〇九・八三九・一〇八七 商IV 1・四六四・五四四・六七四 刑五四・II 24 刑訴一三九・三六三・三八六	

高等試驗擔任科目一覽表

	憲法			民法		
	行政	外交	司辯	行政	外交	司辯
昭和二年度	上杉慎吉 清水澄	美濃部達吉 黑崎定三	森口繁治 宮澤俊義 吾孫子勝	穗積重遠 中島玉吉	松岡義正 黑崎定三	三瀦信三 中島玉吉 大森洪太
昭和三年度	上杉慎吉 清水澄	美濃部達吉 黑崎定三 金森德次郎	森口繁治 宮澤俊義 吾孫子勝	穗積重遠 中島玉吉	加藤正治 黑崎定三	三瀦信三 中島玉吉 須賀喜三郎
昭和四年度	清水澄 野村淳治 筧克彥	美濃部達吉 黑崎定三 金森德次郎	森口繁治 宮澤俊義 吾孫子勝 佐藤丑次郎	穗積重遠 中島玉吉 遊佐慶夫	加藤正治 黑崎定三	三瀦信三 中島玉吉 須賀喜三郎 大森洪太
昭和五年度	清水澄 野村淳治 筧克彥	美濃部達吉 黑崎定三 金森德次郎	筧克彥 森口繁治 吾孫子勝 佐藤丑次郎	穗積重遠 中島玉吉 遊佐慶夫	加藤正治 黑崎定三	三瀦信三 末川博三 須賀喜三郎 大森洪太
昭和六年度	清水澄 野村淳治 森口繁治	美濃部達吉 黑崎定三 金森德次郎	美濃部達吉 佐々木惣一 佐藤丑次郎 島田鐵吉	穗積重遠 中島玉吉 遊佐慶夫	加藤正治 黑崎定三	三瀦信三 末川博三 須賀喜三郎 大森洪太

	商法			民訴		刑法		
	行政	外交	司辯	行政	司辯	行政	外交	司辯
昭和二年度	田中耕太郎 竹田省	松岡義正 黑崎定三	田中耕太郎 竹田省 三橋久美	加藤正治 松岡義正	松岡義正 細野長良 山田正三	牧野英一 宮本英脩	牧野英一 森崎守人	小野清一郎 瀧川幸辰 木村尙達
昭和三年度	田中耕太郎 竹田省	加藤正治 黑崎定三	田中耕太郎 竹田省 三橋久美	加藤正治 池田寅二郎	菊井維大 細野長良 山田正三	牧野英一 宮本英脩	牧野英一 三谷隆信	小野清一郎 瀧川幸辰 木村尙達
昭和四年度	田中耕太郎 竹田省	加藤正治 黑崎定三	田中耕太郎 竹田省 三橋久美 小町谷操三	加藤正治 池田寅二郎	池田寅二郎 井上直三郎 細野長良	牧野英一 宮本英脩 岡田朝太郎	牧野英一 三谷隆信	小野清一郎 瀧川幸辰 木村尙達 草野豹一郎
昭和五年度	田中耕太郎 竹田省	加藤正治 黑崎定三	田中耕太郎 竹田省 三橋久美 小町谷操三	加藤正治 池田寅二郎	池田寅二郎 山田正三 細野長良	牧野英一 宮本英脩 岡田朝太郎	牧野英一 栗原正	小野清一郎 瀧川幸辰 木村尙達 草野豹一郎
昭和六年度	田中耕太郎 竹田省	加藤正治 黑崎定三	田中耕太郎 竹田省 小町谷操三 三橋久美	加藤正治 池田寅二郎	山田正三 池田寅二郎 細野長良	牧野英一 宮本英脩 岡田朝太郎	牧野英一 守島伍郎	小野清一郎 瀧川幸辰 木村尙達 草野豹一郎

	刑訴		破産	国際私法	
	行政	司法	司法	外交	司法
昭和二年度	小野清一郎 板倉松太郎	西川一男 宮本英脩 矢追秀作	河津久雄 山田三良 勝部定次郎	澤田廉三 中山許一 山田良三	河津久雄 山田三良 勝部定次郎
昭和三年度	小野清一郎 板倉松太郎	西川一男 宮本英脩 矢追秀作	大森洪太 山田三良 勝部定次郎	澤田廉三 中山許一 山田良三	大森洪太 山田三良 勝部定次郎
昭和四年度	瀧川幸辰 小野清一郎 板倉松太郎	水島一郎 宮城長五郎 宮本英脩 矢追秀作	細野長良 池田寅二郎 上田直三郎	松崎観三 永井亨	久雄 河津豊隆 勝部定次郎
昭和五年度	瀧川幸辰 小野清一郎 板倉松太郎	水島一郎 宮城長五郎 宮本英脩 矢追秀作	細野長良 池田寅二郎 山田正三	嶺崎観三 山田三良	三良 山田久雄 勝部定次郎
昭和六年度	瀧川幸辰 小野清一郎 水島藏	平井彦三郎 宮城長五郎 宮本英脩 林頴三郎	長良 池田寅二郎 山田正三 細野	天城 山田三良 篤治	一 牧野英 勝部定次郎 山田三良

備考　出題者ノ氏名ハ五十音順ニ配列セリ但シ昭和二年以降五年間ノモノニ係ル。氏名ノ下ニ記セルハ歴テ試験問題ヲ担任セル各法條文ナリ、其他前々表「高等試験各大學年度別問題索引」參照ノコト

ア

我妻　榮氏　民三四・九二・九六・I6i・I6i・I6i・一七七・一七七・一九三・二〇五・二四六・九・二七六・II7・三〇四・二九四・II10i・III1i・四五六・四七一・四九四・六〇五・七〇九・IV・七六一・八五一・V・九七〇・九八六

勝部定次郎氏　商私巻頭・巻頭・一三・一六・一九

阿部文次郎氏　民訴五一八・五六六・五七四　破一五・一九・四七七〇・七七・八一・八九・九八・一二六・一三二・二四〇・二八二

栗津　清亮氏　商六四二

イ

飯塚　敏夫氏　刑一五七・一五七・一五九・二三五・二四六

伊澤　孝平氏　商四〇四・四四一・五五八・五六五

石田文次郎氏　民I・I・I2i・I2i・四四・I4ii・九五・九五・一七七・一七八・一七八・一八一・一九三・二〇一・II9i・三四五・三四九

石原雅次郎氏　憲巻頭・2

磯谷幸次郎氏　民四一三・四一四・四九四・五二一・五二六・五三三・五七九

板倉松太郎氏　刑訴二六七・二七八・二七九・二九五・三六三・四一〇・四七九

市村　光惠氏　憲二四・二七三・七五・七六四

猪股　洪清氏　商一二〇・二〇〇・二〇六・二一〇　刑一〇九・二三〇

岩本勇次郎氏　民四〇一・四〇九・四二八・四五六　民訴一四九・一二五・一二五・一三八・一四〇・二三四・二五六　破巻頭・一五・四七・七二・九二・一五七　刑訴二五四・三〇九

ウ

上杉慎吉氏　憲巻頭・四・八・五五・五六・七三

上原健男氏　刑訴一三九・三六・三八六

上野魁著氏　刑訴三五六・三六・四一〇

鳥賀陽然良氏　商四三・一四三・一九・一〇一・八一・五三六・五四四・五四・五四六・五四九・五六・五七八

エ

江川英文氏　国私一〇・一四・二九

オ

太田勇太郎氏　憲巻頭・四・五五

大谷美隆氏　民一四・三七・五五・八六・八七・一四・i・九〇・一四・一一・四・一四・ii・九七・九八・九九・一〇・一一・一四・一五・一〇一・一〇四・一〇五・一一四・一一五・一二一・一二五・一四〇・一四一・一四二・一四四・一五一

大須信泉氏　商五九・一四四・一三六・一三七・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四

大丸巌氏　民五三九・五五七・五七九

大森洪太氏　民五三七・五五三・五五六
商四四四ノ二・四五九・五七四・一〇八・一一一・一一四・一二一・一三八・一四四・一四六・一四八・一四九・一五一
民訴巻頭・一一七・一四一・一四四・一四六・一四八・一五〇・一五二・一五四・一五六・一五八

岡田市治氏　民一一〇

岡田朝太郎氏　刑一・六・三五・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九・一二〇・一二一・一二二・一二三・一二四・一二五・一二六・一二七・一二八・一二九・一三〇・一三一・一三二・一三三・一三四・一三五・一三六・一三七・一三八・一三九・一四〇・一四一・一四二・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四・一五五・一五六・一五七・一五八・一五九・一六〇・一六一・一六二・一六三・一六四・一六五・一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七・一七八・一七九・一八〇・一八一・一八二・一八三・一八四・一八五・一八六・一八七・一八八・一八九・一九〇・一九一・一九二・一九三・一九四・一九五・一九六・一九七・一九八・一九九・二〇〇・二〇一・二〇二・二〇三・二〇四・二〇五・二〇六・二〇七・二〇八・二〇九・二一〇・二一一・二一二・二一三・二一四・二一五・二一六・二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一・二二二・二二三・二二四・二二五・二二六・二二七・二二八・二二九・二三〇・二三一・二三二・二三三・二三四・二三五・二三六・二三七・二三八・二三九・二四〇・二四一・二四二・二四三・二四四・二四五・二四六・二四七・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・二五三・二五四・二五五・二五六・二五七・二五八・二五九・二六〇・二六一・二六二・二六三・二六四・二六五・二六六・二六七・二六八・二六九・二七〇・二七一・二七二・二七三・二七四・二七五・二七六・二七七・二七八・二七九・二八〇・二八一・二八二・二八三・二八四・二八五・二八六・二八七・二八八・二八九・二九〇・二九一・二九二・二九三・二九四・二九五・二九六・二九七・二九八・二九九・三〇〇・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八・三〇九・三一〇・三一一・三一二・三一三・三一四・三一五・三一六・三一七・三一八・三一九・三二〇・三二一・三二二・三二三・三二四・三二五・三二六・三二七・三二八・三二九・三三〇・三三一・三三二・三三三・三三四・三三五・三三六・三三七・三三八・三三九・三四〇・三四一・三四二・三四三・三四四・三四五・三四六・三四七・三四八・三四九・三五〇・三五一・三五二・三五三・三五四・三五五・三五六・三五七・三五八・三五九・三六〇・三六一・三六二・三六三・三六四・三六五・三六六・三六七・三六八・三六九・三七〇・三七一・三七二・三七三・三七四・三七五・三七六・三七七・三七八・三七九・三八〇・三八一・三八二・三八三・三八四・三八五・三八六・三八七・三八八・三八九・三九〇・三九一・三九二・三九三・三九四・三九五・三九六・三九七・三九八・三九九・四〇〇・四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五・四〇六・四〇七・四〇八・四〇九・四一〇・四一一・四一二・四一三・四一四・四一五・四一六・四一七・四一八・四一九・四二〇・四二一・四二二・四二三・四二四・四二五・四二六・四二七・四二八・四二九・四三〇・四三一・四三二・四三三・四三四・四三五・四三六・四三七・四三八・四三九・四四〇・四四一・四四二・四四三・四四四・四四五・四四六・四四七・四四八・四四九・四五〇・四五一・四五二・四五三・四五四・四五五・四五六・四五七・四五八・四五九・四六〇・四六一・四六二・四六三・四六四・四六五・四六六・四六七・四六八・四六九・四七〇・四七一・四七二・四七三・四七四・四七五・四七六・四七七・四七八・四七九・四八〇・四八一・四八二・四八三・四八四・四八五・四八六・四八七・四八八・四八九・四九〇・四九一・四九二・四九三・四九四・四九五・四九六・四九七・四九八・四九九・五〇〇・五〇一・五〇二・五〇三・五〇四・五〇五・五〇六・五〇七・五〇八・五〇九・五一〇・五一一・五一二・五一三・五一四・五一五・五一六・五一七・五一八・五一九・五二〇・五二一・五二二・五二三・五二四・五二五・五二六・五二七・五二八・五二九・五三〇・五三一・五三二・五三三・五三四・五三五・五三六・五三七・五三八・五三九・五四〇・五四一・五四二・五四三・五四四・五四五・五四六・五四七・五四八・五四九・五五〇・五五一・五五二・五五三・五五四・五五五・五五六・五五七・五五八・五五九・五六〇・五六一・五六二・五六三・五六四・五六五・五六六・五六七・五六八・五六九・五七〇・五七一・五七二・五七三・五七四・五七五・五七六・五七七・五七八・五七九・五八〇・五八一・五八二・五八三・五八四・五八五・五八六・五八七・五八八・五八九・五九〇・五九一・五九二・五九三・五九四・五九五・五九六・五九七・五九八・五九九・六〇〇・六〇一・六〇二・六〇三・六〇四・六〇五・六〇六・六〇七・六〇八・六〇九・六一〇・六一一・六一二・六一三・六一四・六一五・六一六・六一七・六一八・六一九・六二〇・六二一・六二二・六二三・六二四・六二五・六二六・六二七・六二八・六二九・六三〇・六三一・六三二・六三三・六三四・六三五・六三六・六三七・六三八・六三九・六四〇・六四一・六四二・六四三・六四四・六四五・六四六・六四七・六四八・六四九・六五〇・六五一・六五二・六五三・六五四・六五五・六五六・六五七・六五八・六五九・六六〇・六六一・六六二・六六三・六六四・六六五・六六六・六六七・六六八・六六九・六七〇・六七一・六七二・六七三・六七四・六七五・六七六・六七七・六七八・六七九・六八〇・六八一・六八二・六八三・六八四・六八五・六八六・六八七・六八八・六八九・六九〇・六九一・六九二・六九三・六九四・六九五・六九六・六九七・六九八・六九九・七〇〇・七〇一・七〇二・七〇三・七〇四・七〇五・七〇六・七〇七・七〇八・七〇九・七一〇・七一一・七一二・七一三・七一四・七一五・七一六・七一七・七一八・七一九・七二〇・七二一・七二二・七二三・七二四・七二五・七二六・七二七・七二八・七二九・七三〇・七三一・七三二・七三三・七三四・七三五・七三六・七三七・七三八・七三九・七四〇・七四一・七四二・七四三・七四四・七四五・七四六・七四七・七四八・七四九・七五〇・七五一・七五二・七五三・七五四・七五五・七五六・七五七・七五八・七五九・七六〇・七六一・七六二・七六三・七六四・七六五・七六六・七六七・七六八・七六九・七七〇・七七一・七七二・七七三・七七四・七七五・七七六・七七七・七七八・七七九・七八〇・七八一・七八二・七八三・七八四・七八五・七八六・七八七・七八八・七八九・七九〇・七九一・七九二・七九三・七九四・七九五・七九六・七九七・七九八・七九九・八〇〇・八〇一・八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇六・八〇七・八〇八・八〇九・八一〇・八一一・八一二・八一三・八一四・八一五・八一六・八一七・八一八・八一九・八二〇・八二一・八二二・八二三・八二四・八二五・八二六・八二七・八二八・八二九・八三〇・八三一・八三二・八三三・八三四・八三五・八三六・八三七・八三八・八三九・八四〇・八四一・八四二・八四三・八四四・八四五・八四六・八四七・八四八・八四九・八五〇・八五一・八五二・八五三・八五四・八五五・八五六・八五七・八五八・八五九・八六〇・八六一・八六二・八六三・八六四・八六五・八六六・八六七・八六八・八六九・八七〇・八七一・八七二・八七三・八七四・八七五・八七六・八七七・八七八・八七九・八八〇・八八一・八八二・八八三・八八四・八八五・八八六・八八七・八八八・八八九・八九〇・八九一・八九二・八九三・八九四・八九五・八九六・八九七・八九八・八九九・九〇〇・九〇一・九〇二・九〇三・九〇四・九〇五・九〇六・九〇七・九〇八・九〇九・九一〇・九一一・九一二・九一三・九一四・九一五・九一六・九一七・九一八・九一九・九二〇・九二一・九二二・九二三・九二四・九二五・九二六・九二七・九二八・九二九・九三〇・九三一・九三二・九三三・九三四・九三五・九三六・九三七・九三八・九三九・九四〇・九四一・九四二・九四三・九四四・九四五・九四六・九四七・九四八・九四九・九五〇・九五一・九五二・九五三・九五四・九五五・九五六・九五七・九五八・九五九・九六〇・九六一・九六二・九六三・九六四・九六五・九六六・九六七・九六八・九六九・九七〇・九七一・九七二・九七三・九七四・九七五・九七六・九七七・九七八・九七九・九八〇・九八一・九八二・九八三・九八四・九八五・九八六・九八七・九八八・九八九・九九〇・九九一・九九二・九九三・九九四・九九五・九九六・九九七・九九八・九九九・一〇〇〇・一〇〇一・一〇〇二・一〇〇三・一〇〇四・一〇〇五・一〇〇六・一〇〇七・一〇〇八・一〇〇九・一〇一〇・一〇一一・一〇一二・一〇一三・一〇一四・一〇一五・一〇一六・一〇一七・一〇一八・一〇一九・一〇二〇・一〇二一・一〇二二・一〇二三・一〇二四・一〇二五・一〇二六・一〇二七・一〇二八・一〇二九・一〇三〇・一〇三一・一〇三二・一〇三三・一〇三四・一〇三五・一〇三六・一〇三七・一〇三八・一〇三九・一〇四〇・一〇四一・一〇四二・一〇四三・一〇四四・一〇四五・一〇四六・一〇四七・一〇四八・一〇四九・一〇五〇・一〇五一・一〇五二・一〇五三・一〇五四・一〇五五・一〇五六・一〇五七・一〇五八・一〇五九・一〇六〇・一〇六一・一〇六二・一〇六三・一〇六四・一〇六五・一〇六六・一〇六七・一〇六八・一〇六九・一〇七〇・一〇七一・一〇七二・一〇七三・一〇七四・一〇七五・一〇七六・一〇七七・一〇七八・一〇七九・一〇八〇・一〇八一・一〇八二・一〇八三・一〇八四・一〇八五・一〇八六・一〇八七・一〇八八・一〇八九・一〇九〇・一〇九一・一〇九二・一〇九三・一〇九四・一〇九五・一〇九六・一〇九七・一〇九八・一〇九九・一一〇〇・一一〇一・一一〇二・一一〇三・一一〇四・一一〇五・一一〇六・一一〇七・一一〇八・一一〇九・一一一〇・一一一一・一一一二・一一一三・一一一四・一一一五・一一一六・一一一七・一一一八・一一一九・一一二〇・一一二一・一一二二・一一二三・一一二四・一一二五・一一二六・一一二七・一一二八・一一二九・一一三〇・一一三一・一一三二・一一三三・一一三四・一一三五・一一三六・一一三七・一一三八・一一三九・一一四〇・一一四一・一一四二・一一四三・一一四四・一一四五・一一四六・一一四七・一一四八・一一四九・一一五〇・一一五一・一一五二・一一五三・一一五四・一一五五・一一五六・一一五七・一一五八・一一五九・一一六〇・一一六一・一一六二・一一六三・一一六四・一一六五・一一六六・一一六七・一一六八・一一六九・一一七〇・一一七一・一一七二・一一七三・一一七四・一一七五・一一七六・一一七七・一一七八・一一七九・一一八〇・一一八一・一一八二・一一八三・一一八四・一一八五・一一八六・一一八七・一一八八・一一八九・一一九〇・一一九一・一一九二・一一九三・一一九四・一一九五・一一九六・一一九七・一一九八・一一九九・一二〇〇・一二〇一・一二〇二・一二〇三・一二〇四・一二〇五・一二〇六・一二〇七・一二〇八・一二〇九・一二一〇・一二一一・一二一二・一二一三・一二一四・一二一五・一二一六・一二一七・一二一八・一二一九・一二二〇・一二二一・一二二二・一二二三・一二二四・一二二五・一二二六・一二二七・一二二八・一二二九・一二三〇・一二三一・一二三二・一二三三・一二三四・一二三五・一二三六・一二三七・一二三八・一二三九・一二四〇・一二四一・一二四二・一二四三・一二四四・一二四五・一二四六・一二四七・一二四八・一二四九・一二五〇・一二五一・一二五二・一二五三・一二五四・一二五五・一二五六・一二五七・一二五八・一二五九・一二六〇・一二六一・一二六二・一二六三・一二六四・一二六五・一二六六・一二六七・一二六八・一二六九・一二七〇・一二七一・一二七二・一二七三・一二七四・一二七五・一二七六・一二七七・一二七八・一二七九・一二八〇・一二八一・一二八二・一二八三・一二八四・一二八五・一二八六・一二八七・一二八八・一二八九・一二九〇・一二九一・一二九二・一二九三・一二九四・一二九五・一二九六・一二九七・一二九八・一二九九・一三〇〇・一三〇一・一三〇二・一三〇三・一三〇四・一三〇五・一三〇六・一三〇七・一三〇八・一三〇九・一三一〇・一三一一・一三一二・一三一三・一三一四・一三一五・一三一六・一三一七・一三一八・一三一九・一三二〇・一三二一・一三二二・一三二三・一三二四・一三二五・一三二六・一三二七・一三二八・一三二九・一三三〇・一三三一・一三三二・一三三三・一三三四・一三三五・一三三六・一三三七・一三三八・一三三九・一三四〇・一三四一・一三四二・一三四三・一三四四・一三四五・一三四六・一三四七・一三四八・一三四九・一三五〇・一三五一・一三五二・一三五三・一三五四・一三五五・一三五六・一三五七・一三五八・一三五九・一三六〇・一三六一・一三六二・一三六三・一三六四・一三六五・一三六六・一三六七・一三六八・一三六九・一三七〇・一三七一・一三七二・一三七三・一三七四・一三七五・一三七六・一三七七・一三七八・一三七九・一三八〇・一三八一・一三八二・一三八三・一三八四・一三八五・一三八六・一三八七・一三八八・一三八九・一三九〇・一三九一・一三九二・一三九三・一三九四・一三九五・一三九六・一三九七・一三九八・一三九九・一四〇〇・一四〇一・一四〇二・一四〇三・一四〇四・一四〇五・一四〇六・一四〇七・一四〇八・一四〇九・一四一〇・一四一一・一四一二・一四一三・一四一四・一四一五・一四一六・一四一七・一四一八・一四一九・一四二〇・一四二一・一四二二・一四二三・一四二四・一四二五・一四二六・一四二七・一四二八・一四二九・一四三〇・一四三一・一四三二・一四三三・一四三四・一四三五・一四三六・一四三七・一四三八・一四三九・一四四〇・一四四一・一四四二・一四四三・一四四四・一四四五・一四四六・一四四七・一四四八・一四四九・一四五〇・一四五一・一四五二・一四五三・一四五四・一四五五・一四五六・一四五七・一四五八・一四五九・一四六〇・一四六一・一四六二・一四六三・一四六四・一四六五・一四六六・一四六七・一四六八・一四六九・一四七〇・一四七一・一四七二・一四七三・一四七四・一四七五・一四七六・一四七七・一四七八・一四七九・一四八〇・一四八一・一四八二・一四八三・一四八四・一四八五・一四八六・一四八七・一四八八・一四八九・一四九〇・一四九一・一四九二・一四九三・一四九四・一四九五・一四九六・一四九七・一四九八・一四九九・一五〇〇・一五〇一・一五〇二・一五〇三・一五〇四・一五〇五・一五〇六・一五〇七・一五〇八・一五〇九・一五一〇・一五一一・一五一二・一五一三・一五一四・一五一五・一五一六・一五一七・一五一八・一五一九・一五二〇・一五二一・一五二二・一五二三・一五二四・一五二五・一五二六・一五二七・一五二八・一五二九・一五三〇・一五三一・一五三二・一五三三・一五三四・一五三五・一五三六・一五三七・一五三八・一五三九・一五四〇・一五四一・一五四二・一五四三・一五四四・一五四五・一五四六・一五四七・一五四八・一五四九・一五五〇・一五五一・一五五二・一五五三・一五五四・一五五五・一五五六・一五五七・一五五八・一五五九・一五六〇・一五六一・一五六二・一五六三・一五六四・一五六五・一五六六・一五六七・一五六八・一五六九・一五七〇・一五七一・一五七二・一五七三・一五七四・一五七五・一五七六・一五七七・一五七八・一五七九・一五八〇・一五八一・一五八二・一五八三・一五八四・一五八五・一五八六・一五八七・一五八八・一五八九・一五九〇・一五九一・一五九二・一五九三・一五九四・一五九五・一五九六・一五九七・一五九八・一五九九・一六〇〇・一六〇一・一六〇二・一六〇三・一六〇四・一六〇五・一六〇六・一六〇七・一六〇八・一六〇九・一六一〇・一六一一・一六一二・一六一三・一六一四・一六一五・一六一六・一六一七・一六一八・一六一九・一六二〇・一六二一・一六二二・一六二三・一六二四・一六二五・一六二六・一六二七・一六二八・一六二九・一六三〇・一六三一・一六三二・一六三三・一六三四・一六三五・一六三六・一六三七・一六三八・一六三九・一六四〇・一六四一・一六四二・一六四三・一六四四・一六四五・一六四六・一六四七・一六四八・一六四九・一六五〇・一六五一・一六五二・一六五三・一六五四・一六五五・一六五六・一六五七・一六五八・一六五九・一六六〇・一六六一・一六六二・一六六三・一六六四・一六六五・一六六六・一六六七・一六六八・一六六九・一六七〇・一六七一・一六七二・一六七三・一六七四・一六七五・一六七六・一六七七・一六七八・一六七九・一六八〇・一六八一・一六八二・一六八三・一六八四・一六八五・一六八六・一六八七・一六八八・一六八九・一六九〇・一六九一・一六九二・一六九三・一六九四・一六九五・一六九六・一六九七・一六九八・一六九九・一七〇〇・一七〇一・一七〇二・一七〇三・一七〇四・一七〇五・一七〇六・一七〇七・一七〇八・一七〇九・一七一〇・一七一一・一七一二・一七一三・一七一四・一七一五・一七一六・一七一七・一七一八・一七一九・一七二〇・一七二一・一七二二・一七二三・一七二四・一七二五・一七二六・一七二七・一七二八・一七二九・一七三〇・一七三一・一七三二・一七三三・一七三四・一七三五・一七三六・一七三七・一七三八・一七三九・一七四〇・一七四一・一七四二・一七四三・一七四四・一七四五・一七四六・一七四七・一七四八・一七四九・一七五〇・一七五一・一七五二・一七五三・一七五四・一七五五・一七五六・一七五七・一七五八・一七五九・一七六〇・一七六一・一七六二・一七六三・一七六四・一七六五・一七六六・一七六七・一七六八・一七六九・一七七〇・一七七一・一七七二・一七七三・一七七四・一七七五・一七七六・一七七七・一七七八・一七七九・一七八〇・一七八一・一七八二・一七八三・一七八四・一七八五・一七八六・一七八七・一七八八・一七八九・一七九〇・一七九一・一七九二・一七九三・一七九四・一七九五・一七九六・一七九七・一七九八・一七九九・一八〇〇・一八〇一・一八〇二・一八〇三・一八〇四・一八〇五・一八〇六・一八〇七・一八〇八・一八〇九・一八一〇・一八一一・一八一二・一八一三・一八一四・一八一五・一八一六・一八一七・一八一八・一八一九・一八二〇・一八二一・一八二二・一八二三・一八二四・一八二五・一八二六・一八二七・一八二八・一八二九・一八三〇・一八三一・一八三二・一八三三・一八三四・一八三五・一八三六・一八三七・一八三八・一八三九・一八四〇・一八四一・一八四二・一八四三・一八四四・一八四五・一八四六・一八四七・一八四八・一八四九・一八五〇・一八五一・一八五二・一八五三・一八五四・一八五五・一八五六・一八五七・一八五八・一八五九・一八六〇・一八六一・一八六二・一八六三・一八六四・一八六五・一八六六・一八六七・一八六八・一八六九・一八七〇・一八七一・一八七二・一八七三・一八七四・一八七五・一八七六・一八七七・一八七八・一八七九・一八八〇・一八八一・一八八二・一八八三・一八八四・一八八五・一八八六・一八八七・一八八八・一八八九・一八九〇・一八九一・一八九二・一八九三・一八九四・一八九五・一八九六・一八九七・一八九八・一八九九・一九〇〇・一九〇一・一九〇二・一九〇三・一九〇四・一九〇五・一九〇六・一九〇七・一九〇八・一九〇九・一九一〇・一九一一・一九一二・一九一三・一九一四・一九一五・一九一六・一九一七・一九一八・一九一九・一九二〇・一九二一・一九二二・一九二三・一九二四・一九二五・一九二六・一九二七・一九二八・一九二九・一九三〇・一九三一・一九三二・一九三三・一九三四・一九三五・一九三六・一九三七・一九三八・一九三九・一九四〇・一九四一・一九四二・一九四三・一九四四・一九四五・一九四六・一九四七・一九四八・一九四九・一九五〇・一九五一・一九五二・一九五三・一九五四・一九五五・一九五六・一九五七・一九五八・一九五九・一九六〇・一九六一・一九六二・一九六三・一九六四・一九六五・一九六六・一九六七・一九六八・一九六九・一九七〇・一九七一・一九七二・一九七三・一九七四・一九七五・一九七六・一九七七・一九七八・一九七九・一九八〇・一九八一・一九八二・一九八三・一九八四・一九八五・一九八六・一九八七・一九八八・一九八九・一九九〇・一九九一・一九九二・一九九三・一九九四・一九九五・一九九六・一九九七・一九九八・一九九九・二〇〇〇・二〇〇一・二〇〇二・二〇〇三・二〇〇四・二〇〇五・二〇〇六・二〇〇七・二〇〇八・二〇〇九・二〇一〇・二〇一一・二〇一二・二〇一三・二〇一四・二〇一五・二〇一六・二〇一七・二〇一八・二〇一九・二〇二〇・二〇二一・二〇二二・二〇二三・二〇二四・二〇二五・二〇二六・二〇二七・二〇二八・二〇二九・二〇三〇・二〇三一・二〇三二・二〇三三・二〇三四・二〇三五・二〇三六・二〇三七・二〇三八・二〇三九・二〇四〇・二〇四一・二〇四二・二〇四三・二〇四四・二〇四五・二〇四六・二〇四七・二〇四八・二〇四九・二〇五〇・二〇五一・二〇五二・二〇五三・二〇五四・二〇五五・二〇五六・二〇五七・二〇五八・二〇五九・二〇六〇・二〇六一・二〇六二・二〇六三・二〇六四・二〇六五・二〇六六・二〇六七・二〇六八・二〇六九・二〇七〇・二〇七一・二〇七二・二〇七三・二〇七四・二〇七五・二〇七六・二〇七七・二〇七八・二〇七九・二〇八〇・二〇八一・二〇八二・二〇八三・二〇八四・二〇八五・二〇八六・二〇八七・二〇八八・二〇八九・二〇九〇・二〇九一・二〇九二・二〇九三・二〇九四・二〇九五・二〇九六・二〇九七・二〇九八・二〇九九・二一〇〇・二一〇一・二一〇二・二一〇三・二一〇四・二一〇五・二一〇六・二一〇七・二一〇八・二一〇九・二一一〇・二一一一・二一一二・二一一三・二一一四・二一一五・二一一六・二一一七・二一一八・二一一九・二一二〇・二一二一・二一二二・二一二三・二一二四・二一二五・二一二六・二一二七・二一二八・二一二九・二一三〇・二一三一・二一三二・二一三三・二一三四・二一三五・二一三六・二一三七・二一三八・二一三九・二一四〇・二一四一・二一四二・二一四三・二一四四・二一四五・二一四六・二一四七・二一四八・二一四九・二一五〇・二一五一・二一五二・二一五三・二一五四・二一五五・二一五六・二一五七・二一五八・二一五九・二一六〇・二一六一・二一六二・二一六三・二一六四・二一六五・二一六六・二一六七・二一六八・二一六九・二一七〇・二一七一・二一七二・二一七三・二一七四・二一七五・二一七六・二一七七・二一七八・二一七九・二一八〇・二一八一・二一八二・二一八三・二一八四・二一八五・二一八六・二一八七・二一八八・二一八九・二一九〇・二一九一・二一九二・二一九三・二一九四・二一九五・二一九六・二一九七・二一九八・二一九九・二二〇〇・二二〇一・二二〇二・二二〇三・二二〇四・二二〇五・二二〇六・二二〇七・二二〇八・二二〇九・二二一〇・二二一一・二二一二・二二一三・二二一四・二二一五・二二一六・二二一七・二二一八・二二一九・二二二〇・二二二一・二二二二・二二二三・二二二四・二二二五・二二二六・二二二七・二二二八・二二二九・二二三〇・二二三一・二二三二・二二三三・二二三四・二二三五・二二三六・二二三七・二二三八・二二三九・二二四〇・二二四一・二二四二・二二四三・二二四四・二二四五・二二四六・二二四七・二二四八・二二四九・二二五〇・二二五一・二二五二・二二五三・二二五四・二二五五・二二五六・二二五七・二二五八・二二五九・二二六〇・二二六一・二二六二・二二六三・二二六四・二二六五・二二六六・二二六七・二二六八・二二六九・二二七〇・二二七一・二二七二・二二七三・二二七四・二二七五・二二七六・二二七七・二二七八・二二七九・二二八〇・二二八一・二二八二・二二八三・二二八四・二二八五・二二八六・二二八七・二二八八・二二八九・二二九〇・二二九一・二二九二・二二九三・二二九四・二二九五・二二九六・二二九七・二二九八・二二九九・二三〇〇・二三〇一・二三〇二・二三〇三・二三〇四・二三〇五・二三〇六・二三〇七・二三〇八・二三〇九・二三一〇・二三一一・二三一二・二三一三・二三一四・二三一五・二三一六・二三一七・二三一八・二三一九・二三二〇・二三二一・二三二二・二三二三・二三二四・二三二五・二三二六・二三二七・二三二八・二三二九・二三三〇・二三三一・二三三二・二三三三・二三三四・二三三五・二三三六・二三三七・二三三八・二三三九・二三四〇・二三四一・二三四二・二三四三・二三四四・二三四五・二三四六・二三四七・二三四八・二三四九・二三五〇・二三五一・二三五二・二三五三・二三五四・二三五五・二三五六・二三五七・二三五八・二三五九・二三六〇・二三六一・二三六二・二三六三・二三六四・二三六五・二三六六・二三六七・二三六八・二三六九・二三七〇・二三七一・二三七二・二三七三・二三七四・二三七五・二三七六・二三七七・二三七八・二三七九・二三八〇・二三八一・二三八二・二三八三・二三八四・二三八五・二三八六・二三八七・二三八八・二三八九・二三九〇・二三九一・二三九二・二三九三・二三九四・二三九五・二三九六・二三九七・二三九八・二三九九・二四〇〇・二四〇一・二四〇二・二四〇三・二四〇四・二四〇五・二四〇六・二四〇七・二四〇八・二四〇九・二四一〇・二四一一・二四一二・二四一三・二四一四・二四一五・二四一六・二四一七・二四一八・二四一九・二四二〇・二四二一・二四二二・二四二三・二四二四・二四二五・二四二六・二四二七・二四二八・二四二九・二四三〇・二四三一・二四三二・二四三三・二四三四・二四三五・二四三六・二四三七・二四三八・二四三九・二四四〇・二四四一・二四四二・二四四三・二四四四・二四四五・二四四六・二四四七・二四四八・二四四九・二四五〇・二四五一・二四五二・二四五三・二四五四・二四五五・二四五六・二四五七・二四五八・二四五九・二四六〇・二四六一・二四六二・二四六三・二四六四・二四六五・二四六六・二四六七・二四六八・二四六九・二四七〇・二四七一・二四七二・二四七三・二四七四・二四七五・二四七六・二四七七・二四七八・二四七九・二四八〇・二四八一・二四八二・二四八三・二四八四・二四八五・二四八六・二四八七・二四八八・二四八九・二四九〇・二四九一・二四九二・二四九三・二四九四・二四九五・二四九六・二四九七・二四九八・二四九九・二五〇〇・二五〇一・二五〇二・二五〇三・二五〇四・二五〇五・二五〇六・二五〇七・二五〇八・二五〇九・二五一〇・二五一一・二五一二・二五一三・二五一四・二五一五・二五一六・二五一七・二五一八・二五一九・二五二〇・二五二一・二五二二・二五二三・二五二四・二五二五・二五二六・二五二七・二五二八・二五二九・二五三〇・二五三一・二五三二・二五三三・二五三四・二五三五・二五三六・二五三七・二五三八・二五三九・二五四〇・二五四一・二五四二・二五四三・二五四四・二五四五・二五四六・二五四七・二五四八・二五四九・二五五〇・二五五一・二五五二・二五五三・二五五四・二五五五・二五五六・二五五七・二五五八・二五五九・二五六〇・二五六一・二五六二・二五六三・二五六四・二五六五・二五六六・二五六七・二五六八・二五六九・二五七〇・二五七一・二五七二・二五七三・二五七四・二五七五・二五七六・二五七七・二五七八・二五七九・二五八〇・二五八一・二五八二・二五八三・二五八四・二五八五・二五八六・二五八七・二五八八・二五八九・二五九〇・二五九一・二五九二・二五九三・二五九四・二五九五・二五九六・二五九七・二五九八・二五九九・二六〇〇・二六〇一・二六〇二・二六〇三・二六〇四・二六〇五・二六〇六・二六〇七・二六〇八・二六〇九・二六一〇・二六一一・二六一二・二六一三・二六一四・二六一五・二六一六・二六一七・二六一八・二六一九・二六二〇・二六二一・二六二二・二六二三・二六二四・二六二五・二六二六・二六二七・二六二八・二六二九・二六三〇・二六三一・二六三二・二六三三・二六三四・二六三五・二六三六・二六三七・二六三八・二六三九・二六四〇・二六四一・二六四二・二六四三・二六四四・二六四五・二六四六・二六四七・二六四八・二六四九・二六五〇・二六五一・二六五二・二六五三・二六五四・二六五五・二六五六・二六五七・二六五八・二六五九・二六六〇・二六六一・二六六二・二六六三・二六六四・二六六五・二六六六・二六六七・二六六八・二六六九・二六七〇・二六七一・二六七二・二六七三・二六七四・二六七五・二六七六・二六七七・二六七八・二六七九・二六八〇・二六八一・二六八二・二六八三・二六八四・二六八五・二六八六・二六八七・二六八八・二六八九・二六九〇・二六九一・二六九二・二六九三・二六九四・二六九五・二六九六・二六九七・二六九八・二六九九・二七〇〇・二七〇一・二七〇二・二七〇三・二七〇四・二七〇五・二七〇六・二七〇七・二七〇八・二七〇九・二七一〇・二七一一・二七一二・二七一三・二七一四・二七一五・二七一六・二七一七・二七一八・二七一九・二七二〇・二七二一・二七二二・二七二三・二七二四・二七二五・二七二六・二七二七・二七二八・二七二九・二七三〇・二七三一・二七三二・二七三三・二七三四・二七三五・二七三六・二七三七・二七三八・二七三九・二七四〇・二七四一・二七四二・二七四三・二七四四・二七四五・二七四六・二七四七・二七四八・二七四九・二七五〇・二七五一・二七五二・二七五三・二七五四・二七五五・二七五六・二七五七・二七五八・二七五九・二七六〇・二七六一・二七六二・二七六三・二七六四・二七六五・二七六六・二七六七・二七六八・二七六九・二七七〇・二七七一・二七七二・二七七三・二七七四・二七七五・二七七六・二七七七・二七七八・二七七九・二七八〇・二七八一・二七八二・二七八三・二七八四・二七八五・二七八六・二七八七・二七八八・二七八九・二七九〇・二七九一・二七九二・二七九三・二七九四・二七九五・二七九六・二七九七・二七九八・二七九九・二八〇〇・二八〇一・二八〇二・二八〇三・二八〇四・二八〇五・二八〇六・二八〇七・二八〇八・二八〇九・二八一〇・二八一一・二八一二・二八一三・二八一四・二八一五・二八一六・二八一七・二八一八・二八一九・二八二〇・二八二一・二八二二・二八二三・二八二四・二八二五・二八二六・二八二七・二八二八・二八二九・二八三〇・二八三一・二八三二・二八三三・二八三四・二八三五・二八三六・二八三七・二八三八・二八三九・二八四〇・二八四一・二八四二・二八四三・二八四四・二八四五・二八四六・二八四七・二八四八・二八四九・二八五〇・二八五一・二八五二・二八五三・二八五四・二八五五・二八五六・二八五七・二八五八・二八五九・二八六〇・二八六一・二八六二・二八六三・二八六四・二八六五・二八六六・二八六七・二八六八・二八六九・二八七〇・二八七一・二八七二・二八七三・二八七四・二八七五・二八七六・二八七七・二八七八・二八七九・二八八〇・二八八一・二八八二・二八八三・二八八四・二八八五・二八八六・二八八七・二八八八・二八八九・二八九〇・二八九一・二八九二・二八九三・二八九四・二八九五・二八九六・二八九七・二八九八・二八九九・二九〇〇・二九〇一・二九〇二・二九〇三・二九〇四・二九〇五・二九〇六・二九〇七・二九〇八・二九〇九・二九一〇・二九一一・二九一二・二九一三・二九一四・二九一五・二九一六・二九一七・二九一八・二九一九・二九二〇・二九二一・二九二二・二九二三・二九二四・二九二五・二九二六・二九二七・二九二八・二九二九・二九三〇・二九三一・二九三二・二九三三・二九三四・二九三五・二九三六・二九三七・二九三八・二九三九・二九四〇・二九四一・二九四二・二九四三・二九四四・二九四五・二九四六・二九四七・二九四八・二九四九・二九五〇・二九五一・二九五二・二九五三・二九五四・二九五五・二九五六・二九五七・二九五八・二九五九・二九六〇・二九六一・二九六二・二九六三・二九六四・二九六五・二九六六・二九六七・二九六八・二九六九・二九七〇・二九七一・二九七二・二九七三・二九七四・二九七五・二九七六・二九七七・二九七八・二九七九・二九八〇・二九八一・二九八二・二九八三・二九八四・二九八五・二九八六・二九八七・二九八八・二九八九・二九九〇・二九九一・二九九二・二九九三・二九九四・二九九五・二九九六・二九九七・二九九八・二九九九・三〇〇〇・三〇〇一・三〇〇二・三〇〇三・三〇〇四・三〇〇五・三〇〇六・三〇〇七・三〇〇八・三〇〇九・三〇一〇・三〇一一・三〇一二・三〇一三・三〇一四・三〇一五・三〇一六・三〇一七・三〇一八・三〇一九・三〇二〇・三〇二一・三〇二二・三〇二三・三〇二四・三〇二五・三〇二六・三〇二七・三〇二八・三〇二九・三〇三〇・三〇三一・三〇三二・三〇三三・三〇三四・三〇三五・三〇三六・三〇三七・三〇三八・三〇三九・三〇四〇・三〇四一・三〇四二・三〇四三・三〇四四・三〇四五・三〇四六・三〇四七・三〇四八・三〇四九・三〇五〇・三〇五一・三〇五二・三〇五三・三〇五四・三〇五五・三〇五六・三〇五七・三〇五八・三〇五九・三〇六〇・三〇六一・三〇六二・三〇六三・三〇六四・三〇六五・三〇六六・三〇六七・三〇六八・三〇六九・三〇七〇・三〇七一・三〇七二・三〇七三・三〇七四・三〇七五・三〇七六・三〇七七・三〇七八・三〇七九・三〇八〇・三〇八一・三〇八二・三〇八三・三〇八四・三〇八五・三〇八六・三〇八七・三〇八八・三〇八九・三〇九〇・三〇九一・三〇九二・三〇九三・三〇九四・三〇九五・三〇九六・三〇九七・三〇九八・三〇九九・三一〇〇・三一〇一・三一〇二・三一〇三・三一〇四・三一〇五・三一〇六・三一〇七・三一〇八・三一〇九・三一一〇・三一一一・三一一二・三一一三・三一一四・三一一五・三一一六・三一一七・三一一八・三一一九・三一二〇・三一二一・三一二二・三一二三・三一二四・三一二五・三一二六・三一二七・三一二八・三一二九・三一三〇・三一三一・三一三二・三一三三・三一三四・三一三五・

佐々木良一氏　商四四〇四二
佐々野書邦氏　国私巻頭・一〇・一〇・一四・二二・二三・二三・二三・二三・二三・二三〇
佐竹　三吉氏　商五〇二
佐藤丑次郎氏　憲九・二・二六・一一・一〇

シ

椎津　重一氏　商四四ノ二・四四ノ三・六・九・一〇・一〇・一一・二・一三・一四・一〇・一三・一四・一五・一六・一七・一八・一九・二〇・二一・二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九・一二〇・一二一・一二二・一二三・一二四・一二五・一二六・一二七・一二八・一二九・一三〇・一三一・一三二・一三三・一三四・一三五・一三六・一三七・一三八・一三九・一四〇・一四一・一四二・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四・一五五・一五六・一五七・一五八・一五九・一六〇・一六一・一六二・一六三・一六四・一六五・一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七・一七八・一七九・一八〇・一八一・一八二・一八三・一八四・一八五・一八六・一八七・一八八・一八九・一九〇・一九一・一九二・一九三・一九四・一九五・一九六・一九七・一九八・一九九・二〇〇・二〇一・二〇二・二〇三・二〇四・二〇五・二〇六・二〇七・二〇八・二〇九・二一〇・二一一・二一二・二一三・二一四・二一五・二一六・二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一・二二二・二二三・二二四・二二五・二二六・二二七・二二八・二二九・二三〇・二三一・二三二・二三三・二三四・二三五・二三六・二三七・二三八・二三九・二四〇・二四一・二四二・二四三・二四四・二四五・二四六・二四七・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・二五三・二五四・二五五・二五六・二五七・二五八・二五九・二六〇・二六一・二六二・二六三・二六四・二六五・二六六・二六七・二六八・二六九・二七〇・二七一・二七二・二七三・二七四・二七五・二七六・二七七・二七八・二七九・二八〇・二八一・二八二・二八三・二八四・二八五・二八六・二八七・二八八・二八九・二九〇・二九一・二九二・二九三・二九四・二九五・二九六・二九七・二九八・二九九・三〇〇・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八・三〇九・三一〇・三一一・三一二・三一三・三一四・三一五・三一六・三一七・三一八・三一九・三二〇・三二一・三二二・三二三・三二四・三二五・三二六・三二七・三二八・三二九・三三〇・三三一・三三二・三三三・三三四・三三五・三三六・三三七・三三八・三三九・三四〇・三四一・三四二・三四三・三四四・三四五・三四六・三四七・三四八・三四九・三五〇・三五一・三五二・三五三・三五四・三五五・三五六・三五七・三五八・三五九・三六〇・三六一・三六二・三六三・三六四・三六五・三六六・三六七・三六八・三六九・三七〇・三七一・三七二・三七三・三七四・三七五・三七六・三七七・三七八・三七九・三八〇・三八一・三八二・三八三・三八四・三八五・三八六・三八七・三八八・三八九・三九〇・三九一・三九二・三九三・三九四・三九五・三九六・三九七・三九八・三九九・四〇〇・四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五・四〇六・四〇七・四〇八・四〇九・四一〇・四一一・四一二・四一三・四一四・四一五・四一六・四一七・四一八・四一九・四二〇・四二一・四二二・四二三・四二四・四二五・四二六・四二七・四二八・四二九・四三〇・四三一・四三二・四三三・四三四・四三五・四三六・四三七・四三八・四三九・四四〇・四四一・四四二・四四三・四四四・四四五・四四六・四四七・四四八・四四九・四五〇・四五一・四五二・四五三・四五四・四五五・四五六・四五七・四五八・四五九・四六〇・四六一・四六二・四六三・四六四・四六五・四六六・四六七・四六八・四六九・四七〇・四七一・四七二・四七三・四七四・四七五・四七六・四七七・四七八・四七九・四八〇・四八一・四八二・四八三・四八四・四八五・四八六・四八七・四八八・四八九・四九〇・四九一・四九二・四九三・四九四・四九五・四九六・四九七・四九八・四九九・五〇〇・五〇一・五〇二・五〇三・五〇四・五〇五・五〇六・五〇七・五〇八・五〇九・五一〇・五一一・五一二・五一三・五一四・五一五・五一六・五一七・五一八・五一九・五二〇・五二一・五二二・五二三・五二四・五二五・五二六・五二七・五二八・五二九・五三〇・五三一・五三二・五三三・五三四・五三五・五三六・五三七・五三八・五三九・五四〇・五四一・五四二・五四三・五四四・五四五・五四六・五四七・五四八・五四九・五五〇・五五一・五五二・五五三・五五四・五五五・五五六・五五七・五五八・五五九・五六〇・五六一・五六二・五六三・五六四・五六五・五六六・五六七・五六八・五六九・五七〇・五七一・五七二・五七三・五七四・五七五・五七六・五七七・五七八・五七九・五八〇・五八一・五八二・五八三・五八四・五八五・五八六・五八七・五八八・五八九・五九〇・五九一・五九二・五九三・五九四・五九五・五九六・五九七・五九八・五九九・六〇〇・六〇一・六〇二・六〇三・六〇四・六〇五・六〇六・六〇七・六〇八・六〇九・六一〇・六一一・六一二・六一三・六一四・六一五・六一六・六一七・六一八・六一九・六二〇・六二一・六二二・六二三・六二四・六二五・六二六・六二七・六二八・六二九・六三〇・六三一・六三二・六三三・六三四・六三五・六三六・六三七・六三八・六三九・六四〇・六四一・六四二・六四三・六四四・六四五・六四六・六四七・六四八・六四九・六五〇・六五一・六五二・六五三・六五四・六五五・六五六・六五七・六五八・六五九・六六〇・六六一・六六二・六六三・六六四・六六五・六六六・六六七・六六八・六六九・六七〇・六七一・六七二・六七三・六七四・六七五・六七六・六七七・六七八・六七九・六八〇・六八一・六八二・六八三・六八四・六八五・六八六・六八七・六八八・六八九・六九〇・六九一・六九二・六九三・六九四・六九五・六九六・六九七・六九八・六九九・七〇〇・七〇一・七〇二・七〇三・七〇四・七〇五・七〇六・七〇七・七〇八・七〇九・七一〇・七一一・七一二・七一三・七一四・七一五・七一六・七一七・七一八・七一九・七二〇・七二一・七二二・七二三・七二四・七二五・七二六・七二七・七二八・七二九・七三〇・七三一・七三二・七三三・七三四・七三五・七三六・七三七・七三八・七三九・七四〇・七四一・七四二・七四三・七四四・七四五・七四六・七四七・七四八・七四九・七五〇・七五一・七五二・七五三・七五四・七五五・七五六・七五七・七五八・七五九・七六〇・七六一・七六二・七六三・七六四・七六五・七六六・七六七・七六八・七六九・七七〇・七七一・七七二・七七三・七七四・七七五・七七六・七七七・七七八・七七九・七八〇・七八一・七八二・七八三・七八四・七八五・七八六・七八七・七八八・七八九・七九〇・七九一・七九二・七九三・七九四・七九五・七九六・七九七・七九八・七九九・八〇〇・八〇一・八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇六・八〇七・八〇八・八〇九・八一〇・八一一・八一二・八一三・八一四・八一五・八一六・八一七・八一八・八一九・八二〇・八二一・八二二・八二三・八二四・八二五・八二六・八二七・八二八・八二九・八三〇・八三一・八三二・八三三・八三四・八三五・八三六・八三七・八三八・八三九・八四〇・八四一・八四二・八四三・八四四・八四五・八四六・八四七・八四八・八四九・八五〇・八五一・八五二・八五三・八五四・八五五・八五六・八五七・八五八・八五九・八六〇・八六一・八六二・八六三・八六四・八六五・八六六・八六七・八六八・八六九・八七〇・八七一・八七二・八七三・八七四・八七五・八七六・八七七・八七八・八七九・八八〇・八八一・八八二・八八三・八八四・八八五・八八六・八八七・八八八・八八九・八九〇・八九一・八九二・八九三・八九四・八九五・八九六・八九七・八九八・八九九・九〇〇・九〇一・九〇二・九〇三・九〇四・九〇五・九〇六・九〇七・九〇八・九〇九・九一〇・九一一・九一二・九一三・九一四・九一五・九一六・九一七・九一八・九一九・九二〇・九二一・九二二・九二三・九二四・九二五・九二六・九二七・九二八・九二九・九三〇・九三一・九三二・九三三・九三四・九三五・九三六・九三七・九三八・九三九・九四〇・九四一・九四二・九四三・九四四・九四五・九四六・九四七・九四八・九四九・九五〇・九五一・九五二・九五三・九五四・九五五・九五六・九五七・九五八・九五九・九六〇・九六一・九六二・九六三・九六四・九六五・九六六・九六七・九六八・九六九・九七〇・九七一・九七二・九七三・九七四・九七五・九七六・九七七・九七八・九七九・九八〇・九八一・九八二・九八三・九八四・九八五・九八六・九八七・九八八・九八九・九九〇・九九一・九九二・九九三・九九四・九九五・九九六・九九七・九九八・九九九・一〇〇〇
志田野太郎氏　商四四・一一〇・一三・一四・一五・一六・一七・一八・一九・二〇・二一・二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九・一二〇・一二一・一二二・一二三・一二四・一二五・一二六・一二七・一二八・一二九・一三〇・一三一・一三二・一三三・一三四・一三五・一三六・一三七・一三八・一三九・一四〇・一四一・一四二・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四・一五五・一五六・一五七・一五八・一五九・一六〇・一六一・一六二・一六三・一六四・一六五・一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七・一七八・一七九・一八〇・一八一・一八二・一八三・一八四・一八五・一八六・一八七・一八八・一八九・一九〇・一九一・一九二・一九三・一九四・一九五・一九六・一九七・一九八・一九九・二〇〇・二〇一・二〇二・二〇三・二〇四・二〇五・二〇六・二〇七・二〇八・二〇九・二一〇・二一一・二一二・二一三・二一四・二一五・二一六・二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一・二二二・二二三・二二四・二二五・二二六・二二七・二二八・二二九・二三〇・二三一・二三二・二三三・二三四・二三五・二三六・二三七・二三八・二三九・二四〇・二四一・二四二・二四三・二四四・二四五・二四六・二四七・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・二五三・二五四・二五五・二五六・二五七・二五八・二五九・二六〇・二六一・二六二・二六三・二六四・二六五・二六六・二六七・二六八・二六九・二七〇・二七一・二七二・二七三・二七四・二七五・二七六・二七七・二七八・二七九・二八〇・二八一・二八二・二八三・二八四・二八五・二八六・二八七・二八八・二八九・二九〇・二九一・二九二・二九三・二九四・二九五・二九六・二九七・二九八・二九九・三〇〇・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八・三〇九・三一〇・三一一・三一二・三一三・三一四・三一五・三一六・三一七・三一八・三一九・三二〇・三二一・三二二・三二三・三二四・三二五・三二六・三二七・三二八・三二九・三三〇・三三一・三三二・三三三・三三四・三三五・三三六・三三七・三三八・三三九・三四〇・三四一・三四二・三四三・三四四・三四五・三四六・三四七・三四八・三四九・三五〇・三五一・三五二・三五三・三五四・三五五・三五六・三五七・三五八・三五九・三六〇・三六一・三六二・三六三・三六四・三六五・三六六・三六七・三六八・三六九・三七〇・三七一・三七二・三七三・三七四・三七五・三七六・三七七・三七八・三七九・三八〇・三八一・三八二・三八三・三八四・三八五・三八六・三八七・三八八・三八九・三九〇・三九一・三九二・三九三・三九四・三九五・三九六・三九七・三九八・三九九・四〇〇・四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五・四〇六・四〇七・四〇八・四〇九・四一〇・四一一・四一二・四一三・四一四・四一五・四一六・四一七・四一八・四一九・四二〇・四二一・四二二・四二三・四二四・四二五・四二六・四二七・四二八・四二九・四三〇・四三一・四三二・四三三・四三四・四三五・四三六・四三七・四三八・四三九・四四〇・四四一・四四二・四四三・四四四・四四五・四四六・四四七・四四八・四四九・四五〇・四五一・四五二・四五三・四五四・四五五・四五六・四五七・四五八・四五九・四六〇・四六一・四六二・四六三・四六四・四六五・四六六・四六七・四六八・四六九・四七〇・四七一・四七二・四七三・四七四・四七五・四七六・四七七・四七八・四七九・四八〇・四八一・四八二・四八三・四八四・四八五・四八六・四八七・四八八・四八九・四九〇・四九一・四九二・四九三・四九四・四九五・四九六・四九七・四九八・四九九・五〇〇・五〇一・五〇二・五〇三・五〇四・五〇五・五〇六・五〇七・五〇八・五〇九・五一〇・五一一・五一二・五一三・五一四・五一五・五一六・五一七・五一八・五一九・五二〇・五二一・五二二・五二三・五二四・五二五・五二六・五二七・五二八・五二九・五三〇・五三一・五三二・五三三・五三四・五三五・五三六・五三七・五三八・五三九・五四〇・五四一・五四二・五四三・五四四・五四五・五四六・五四七・五四八・五四九・五五〇・五五一・五五二・五五三・五五四・五五五・五五六・五五七・五五八・五五九・五六〇・五六一・五六二・五六三・五六四・五六五・五六六・五六七・五六八・五六九・五七〇・五七一・五七二・五七三・五七四・五七五・五七六・五七七・五七八・五七九・五八〇・五八一・五八二・五八三・五八四・五八五・五八六・五八七・五八八・五八九・五九〇・五九一・五九二・五九三・五九四・五九五・五九六・五九七・五九八・五九九・六〇〇・六〇一・六〇二・六〇三・六〇四・六〇五・六〇六・六〇七・六〇八・六〇九・六一〇・六一一・六一二・六一三・六一四・六一五・六一六・六一七・六一八・六一九・六二〇・六二一・六二二・六二三・六二四・六二五・六二六・六二七・六二八・六二九・六三〇・六三一・六三二・六三三・六三四・六三五・六三六・六三七・六三八・六三九・六四〇・六四一・六四二・六四三・六四四・六四五・六四六・六四七・六四八・六四九・六五〇・六五一・六五二・六五三・六五四・六五五・六五六・六五七・六五八・六五九・六六〇・六六一・六六二・六六三・六六四・六六五・六六六・六六七・六六八・六六九・六七〇・六七一・六七二・六七三・六七四・六七五・六七六・六七七・六七八・六七九・六八〇・六八一・六八二・六八三・六八四・六八五・六八六・六八七・六八八・六八九・六九〇・六九一・六九二・六九三・六九四・六九五・六九六・六九七・六九八・六九九・七〇〇・七〇一・七〇二・七〇三・七〇四・七〇五・七〇六・七〇七・七〇八・七〇九・七一〇・七一一・七一二・七一三・七一四・七一五・七一六・七一七・七一八・七一九・七二〇・七二一・七二二・七二三・七二四・七二五・七二六・七二七・七二八・七二九・七三〇・七三一・七三二・七三三・七三四・七三五・七三六・七三七・七三八・七三九・七四〇・七四一・七四二・七四三・七四四・七四五・七四六・七四七・七四八・七四九・七五〇・七五一・七五二・七五三・七五四・七五五・七五六・七五七・七五八・七五九・七六〇・七六一・七六二・七六三・七六四・七六五・七六六・七六七・七六八・七六九・七七〇・七七一・七七二・七七三・七七四・七七五・七七六・七七七・七七八・七七九・七八〇・七八一・七八二・七八三・七八四・七八五・七八六・七八七・七八八・七八九・七九〇・七九一・七九二・七九三・七九四・七九五・七九六・七九七・七九八・七九九・八〇〇・八〇一・八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇六・八〇七・八〇八・八〇九・八一〇・八一一・八一二・八一三・八一四・八一五・八一六・八一七・八一八・八一九・八二〇・八二一・八二二・八二三・八二四・八二五・八二六・八二七・八二八・八二九・八三〇・八三一・八三二・八三三・八三四・八三五・八三六・八三七・八三八・八三九・八四〇・八四一・八四二・八四三・八四四・八四五・八四六・八四七・八四八・八四九・八五〇・八五一・八五二・八五三・八五四・八五五・八五六・八五七・八五八・八五九・八六〇・八六一・八六二・八六三・八六四・八六五・八六六・八六七・八六八・八六九・八七〇・八七一・八七二・八七三・八七四・八七五・八七六・八七七・八七八・八七九・八八〇・八八一・八八二・八八三・八八四・八八五・八八六・八八七・八八八・八八九・八九〇・八九一・八九二・八九三・八九四・八九五・八九六・八九七・八九八・八九九・九〇〇・九〇一・九〇二・九〇三・九〇四・九〇五・九〇六・九〇七・九〇八・九〇九・九一〇・九一一・九一二・九一三・九一四・九一五・九一六・九一七・九一八・九一九・九二〇・九二一・九二二・九二三・九二四・九二五・九二六・九二七・九二八・九二九・九三〇・九三一・九三二・九三三・九三四・九三五・九三六・九三七・九三八・九三九・九四〇・九四一・九四二・九四三・九四四・九四五・九四六・九四七・九四八・九四九・九五〇・九五一・九五二・九五三・九五四・九五五・九五六・九五七・九五八・九五九・九六〇・九六一・九六二・九六三・九六四・九六五・九六六・九六七・九六八・九六九・九七〇・九七一・九七二・九七三・九七四・九七五・九七六・九七七・九七八・九七九・九八〇・九八一・九八二・九八三・九八四・九八五・九八六・九八七・九八八・九八九・九九〇・九九一・九九二・九九三・九九四・九九五・九九六・九九七・九九八・九九九・一〇〇〇
島田　鷹士氏　民・一一・一二・一三・一四・一五・一六・一七・一八・一九・二〇・二一・二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九・一二〇・一二一・一二二・一二三・一二四・一二五・一二六・一二七・一二八・一二九・一三〇・一三一・一三二・一三三・一三四・一三五・一三六・一三七・一三八・一三九・一四〇・一四一・一四二・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四・一五五・一五六・一五七・一五八・一五九・一六〇・一六一・一六二・一六三・一六四・一六五・一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七・一七八・一七九・一八〇・一八一・一八二・一八三・一八四・一八五・一八六・一八七・一八八・一八九・一九〇・一九一・一九二・一九三・一九四・一九五・一九六・一九七・一九八・一九九・二〇〇・二〇一・二〇二・二〇三・二〇四・二〇五・二〇六・二〇七・二〇八・二〇九・二一〇・二一一・二一二・二一三・二一四・二一五・二一六・二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一・二二二・二二三・二二四・二二五・二二六・二二七・二二八・二二九・二三〇・二三一・二三二・二三三・二三四・二三五・二三六・二三七・二三八・二三九・二四〇・二四一・二四二・二四三・二四四・二四五・二四六・二四七・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・二五三・二五四・二五五・二五六・二五七・二五八・二五九・二六〇・二六一・二六二・二六三・二六四・二六五・二六六・二六七・二六八・二六九・二七〇・二七一・二七二・二七三・二七四・二七五・二七六・二七七・二七八・二七九・二八〇・二八一・二八二・二八三・二八四・二八五・二八六・二八七・二八八・二八九・二九〇・二九一・二九二・二九三・二九四・二九五・二九六・二九七・二九八・二九九・三〇〇・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八・三〇九・三一〇・三一一・三一二・三一三・三一四・三一五・三一六・三一七・三一八・三一九・三二〇・三二一・三二二・三二三・三二四・三二五・三二六・三二七・三二八・三二九・三三〇・三三一・三三二・三三三・三三四・三三五・三三六・三三七・三三八・三三九・三四〇・三四一・三四二・三四三・三四四・三四五・三四六・三四七・三四八・三四九・三五〇・三五一・三五二・三五三・三五四・三五五・三五六・三五七・三五八・三五九・三六〇・三六一・三六二・三六三・三六四・三六五・三六六・三六七・三六八・三六九・三七〇・三七一・三七二・三七三・三七四・三七五・三七六・三七七・三七八・三七九・三八〇・三八一・三八二・三八三・三八四・三八五・三八六・三八七・三八八・三八九・三九〇・三九一・三九二・三九三・三九四・三九五・三九六・三九七・三九八・三九九・四〇〇・四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五・四〇六・四〇七・四〇八・四〇九・四一〇・四一一・四一二・四一三・四一四・四一五・四一六・四一七・四一八・四一九・四二〇・四二一・四二二・四二三・四二四・四二五・四二六・四二七・四二八・四二九・四三〇・四三一・四三二・四三三・四三四・四三五・四三六・四三七・四三八・四三九・四四〇・四四一・四四二・四四三・四四四・四四五・四四六・四四七・四四八・四四九・四五〇・四五一・四五二・四五三・四五四・四五五・四五六・四五七・四五八・四五九・四六〇・四六一・四六二・四六三・四六四・四六五・四六六・四六七・四六八・四六九・四七〇・四七一・四七二・四七三・四七四・四七五・四七六・四七七・四七八・四七九・四八〇・四八一・四八二・四八三・四八四・四八五・四八六・四八七・四八八・四八九・四九〇・四九一・四九二・四九三・四九四・四九五・四九六・四九七・四九八・四九九・五〇〇・五〇一・五〇二・五〇三・五〇四・五〇五・五〇六・五〇七・五〇八・五〇九・五一〇・五一一・五一二・五一三・五一四・五一五・五一六・五一七・五一八・五一九・五二〇・五二一・五二二・五二三・五二四・五二五・五二六・五二七・五二八・五二九・五三〇・五三一・五三二・五三三・五三四・五三五・五三六・五三七・五三八・五三九・五四〇・五四一・五四二・五四三・五四四・五四五・五四六・五四七・五四八・五四九・五五〇・五五一・五五二・五五三・五五四・五五五・五五六・五五七・五五八・五五九・五六〇・五六一・五六二・五六三・五六四・五六五・五六六・五六七・五六八・五六九・五七〇・五七一・五七二・五七三・五七四・五七五・五七六・五七七・五七八・五七九・五八〇・五八一・五八二・五八三・五八四・五八五・五八六・五八七・五八八・五八九・五九〇・五九一・五九二・五九三・五九四・五九五・五九六・五九七・五九八・五九九・六〇〇・六〇一・六〇二・六〇三・六〇四・六〇五・六〇六・六〇七・六〇八・六〇九・六一〇・六一一・六一二・六一三・六一四・六一五・六一六・六一七・六一八・六一九・六二〇・六二一・六二二・六二三・六二四・六二五・六二六・六二七・六二八・六二九・六三〇・六三一・六三二・六三三・六三四・六三五・六三六・六三七・六三八・六三九・六四〇・六四一・六四二・六四三・六四四・六四五・六四六・六四七・六四八・六四九・六五〇・六五一・六五二・六五三・六五四・六五五・六五六・六五七・六五八・六五九・六六〇・六六一・六六二・六六三・六六四・六六五・六六六・六六七・六六八・六六九・六七〇・六七一・六七二・六七三・六七四・六七五・六七六・六七七・六七八・六七九・六八〇・六八一・六八二・六八三・六八四・六八五・六八六・六八七・六八八・六八九・六九〇・六九一・六九二・六九三・六九四・六九五・六九六・六九七・六九八・六九九・七〇〇・七〇一・七〇二・七〇三・七〇四・七〇五・七〇六・七〇七・七〇八・七〇九・七一〇・七一一・七一二・七一三・七一四・七一五・七一六・七一七・七一八・七一九・七二〇・七二一・七二二・七二三・七二四・七二五・七二六・七二七・七二八・七二九・七三〇・七三一・七三二・七三三・七三四・七三五・七三六・七三七・七三八・七三九・七四〇・七四一・七四二・七四三・七四四・七四五・七四六・七四七・七四八・七四九・七五〇・七五一・七五二・七五三・七五四・七五五・七五六・七五七・七五八・七五九・七六〇・七六一・七六二・七六三・七六四・七六五・七六六・七六七・七六八・七六九・七七〇・七七一・七七二・七七三・七七四・七七五・七七六・七七七・七七八・七七九・七八〇・七八一・七八二・七八三・七八四・七八五・七八六・七八七・七八八・七八九・七九〇・七九一・七九二・七九三・七九四・七九五・七九六・七九七・七九八・七九九・八〇〇・八〇一・八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇六・八〇七・八〇八・八〇九・八一〇・八一一・八一二・八一三・八一四・八一五・八一六・八一七・八一八・八一九・八二〇・八二一・八二二・八二三・八二四・八二五・八二六・八二七・八二八・八二九・八三〇・八三一・八三二・八三三・八三四・八三五・八三六・八三七・八三八・八三九・八四〇・八四一・八四二・八四三・八四四・八四五・八四六・八四七・八四八・八四九・八五〇・八五一・八五二・八五三・八五四・八五五・八五六・八五七・八五八・八五九・八六〇・八六一・八六二・八六三・八六四・八六五・八六六・八六七・八六八・八六九・八七〇・八七一・八七二・八七三・八七四・八七五・八七六・八七七・八七八・八七九・八八〇・八八一・八八二・八八三・八八四・八八五・八八六・八八七・八八八・八八九・八九〇・八九一・八九二・八九三・八九四・八九五・八九六・八九七・八九八・八九九・九〇〇・九〇一・九〇二・九〇三・九〇四・九〇五・九〇六・九〇七・九〇八・九〇九・九一〇・九一一・九一二・九一三・九一四・九一五・九一六・九一七・九一八・九一九・九二〇・九二一・九二二・九二三・九二四・九二五・九二六・九二七・九二八・九二九・九三〇・九三一・九三二・九三三・九三四・九三五・九三六・九三七・九三八・九三九・九四〇・九四一・九四二・九四三・九四四・九四五・九四六・九四七・九四八・九四九・九五〇・九五一・九五二・九五三・九五四・九五五・九五六・九五七・九五八・九五九・九六〇・九六一・九六二・九六三・九六四・九六五・九六六・九六七・九六八・九六九・九七〇・九七一・九七二・九七三・九七四・九七五・九七六・九七七・九七八・九七九・九八〇・九八一・九八二・九八三・九八四・九八五・九八六・九八七・九八八・九八九・九九〇・九九一・九九二・九九三・九九四・九九五・九九六・九九七・九九八・九九九・一〇〇〇
島田　武夫氏　刑一二・三六・一〇・一一・一二・一三・一四・一五・一六・一七・一八・一九・二〇・二一・二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九・一二〇・一二一・一二二・一二三・一二四・一二五・一二六・一二七・一二八・一二九・一三〇・一三一・一三二・一三三・一三四・一三五・一三六・一三七・一三八・一三九・一四〇・一四一・一四二・一四三・一四四・一四五・一四六・一四七・一四八・一四九・一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四・一五五・一五六・一五七・一五八・一五九・一六〇・一六一・一六二・一六三・一六四・一六五・一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四・一七五・一七六・一七七・一七八・一七九・一八〇・一八一・一八二・一八三・一八四・一八五・一八六・一八七・一八八・一八九・一九〇・一九一・一九二・一九三・一九四・一九五・一九六・一九七・一九八・一九九・二〇〇・二〇一・二〇二・二〇三・二〇四・二〇五・二〇六・二〇七・二〇八・二〇九・二一〇・二一一・二一二・二一三・二一四・二一五・二一六・二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一・二二二・二二三・二二四・二二五・二二六・二二七・二二八・二二九・二三〇・二三一・二三二・二三三・二三四・二三五・二三六・二三七・二三八・二三九・二四〇・二四一・二四二・二四三・二四四・二四五・二四六・二四七・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・二五三・二五四・二五五・二五六・二五七・二五八・二五九・二六〇・二六一・二六二・二六三・二六四・二六五・二六六・二六七・二六八・二六九・二七〇・二七一・二七二・二七三・二七四・二七五・二七六・二七七・二七八・二七九・二八〇・二八一・二八二・二八三・二八四・二八五・二八六・二八七・二八八・二八九・二九〇・二九一・二九二・二九三・二九四・二九五・二九六・二九七・二九八・二九九・三〇〇・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八・三〇九・三一〇・三一一・三一二・三一三・三一四・三一五・三一六・三一七・三一八・三一九・三二〇・三二一・三二二・三二三・三二四・三二五・三二六・三二七・三二八・三二九・三三〇・三三一・三三二・三三三・三三四・三三五・三三六・三三七・三三八・三三九・三四〇・三四一・三四二・三四三・三四四・三四五・三四六・三四七・三四八・三四九・三五〇・三五一・三五二・三五三・三五四・三五五・三五六・三五七・三五八・三五九・三六〇・三六一・三六二・三六三・三六四・三六五・三六六・三六七・三六八・三六九・三七〇・三七一・三七二・三七三・三七四・三七五・三七六・三七七・三七八・三七九・三八〇・三八一・三八二・三八三・三八四・三八五・三八六・三八七・三八八・三八九・三九〇・三九一・三九二・三九三・三九四・三九五・三九六・三九七・三九八・三九九・四〇〇・四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五・四〇六・四〇七・四〇八・四〇九・四一〇・四一一・四一二・四一三・四一四・四一五・四一六・四一七・四一八・四一九・四二〇・四二一・四二二・四二三・四二四・四二五・四二六・四二七・四二八・四二九・四三〇・四三一・四三二・四三三・四三四・四三五・四三六・四三七・四三八・四三九・四四〇・四四一・四四二・四四三・四四四・四四五・四四六・四四七・四四八・四四九・四五〇・四五一・四五二・四五三・四五四・四五五・四五六・四五七・四五八・四五九・四六〇・四六一・四六二・四六三・四六四・四六五・四六六・四六七・四六八・四六九・四七〇・四七一・四七二・四七三・四七四・四七五・四七六・四七七・四七八・四七九・四八〇・四八一・四八二・四八三・四八四・四八五・四八六・四八七・四八八・四八九・四九〇・四九一・四九二・四九三・四九四・四九五・四九六・四九七・四九八・四九九・五〇〇・五〇一・五〇二・五〇三・五〇四・五〇五・五〇六・五〇七・五〇八・五〇九・五一〇・五一一・五一二・五一三・五一四・五一五・五一六・五一七・五一八・五一九・五二〇・五二一・五二二・五二三・五二四・五二五・五二六・五二七・五二八・五二九・五三〇・五三一・五三二・五三三・五三四・五三五・五三六・五三七・五三八・五三九・五四〇・五四一・五四二・五四三・五四四・五四五・五四六・五四七・五四八・五四九・五五〇・五五一・五五二・五五三・五五四・五五五・五五六・五五七・五五八・五五九・五六〇・五六一・五六二・五六三・五六四・五六五・五六六・五六七・五六八・五六九・五七〇・五七一・五七二・五七三・五七四・五七五・五七六・五七七・五七八・五七九・五八〇・五八一・五八二・五八三・五八四・五八五・五八六・五八七・五八八・五八九・五九〇・五九一・五九二・五九三・五九四・五九五・五九六・五九七・五九八・五九九・六〇〇・六〇一・六〇二・六〇三・六〇四・六〇五・六〇六・六〇七・六〇八・六〇九・六一〇・六一一・六一二・六一三・六一四・六一五・六一六・六一七・六一八・六一九・六二〇・六二一・六二二・六二三・六二四・六二五・六二六・六二七・六二八・六二九・六三〇・六三一・六三二・六三三・六三四・六三五・六三六・六三七・六三八・六三九・六四〇・六四一・六四二・六四三・六四四・六四五・六四六・六四七・六四八・六四九・六五〇・六五一・六五二・六五三・六五四・六五五・六五六・六五七・六五八・六五九・六六〇・六六一・六六二・六六三・六六四・六六五・六六六・六六七・六六八・六六九・六七〇・六七一・六七二・六七三・六七四・六七五・六七六・六七七・六七八・六七九・六八〇・六八一・六八二・六八三・六八四・六八五・六八六・六八七・六八八・六八九・六九〇・六九一・六九二・六九三・六九四・六九五・六九六・六九七・六九八・六九九・七〇〇・七〇一・七〇二・七〇三・七〇四・七〇五・七〇六・七〇七・七〇八・七〇九・七一〇・七一一・七一二・七一三・七一四・七一五・七一六・七一七・七一八・七一九・七二〇・七二一・七二二・七二三・七二四・七二五・七二六・七二七・七二八・七二九・七三〇・七三一・七三二・七三三・七三四・七三五・七三六・七三七・七三八・七三九・七四〇・七四一・七四二・七四三・七四四・七四五・七四六・七四七・七四八・七四九・七五〇・七五一・七五二・七五三・七五四・七五五・七五六・七五七・七五八・七五九・七六〇・七六一・七六二・七六三・七六四・七六五・七六六・七六七・七六八・七六九・七七〇・七七一・七七二・七七三・七七四・七七五・七七六・七七七・七七八・七七九・七八〇・七八一・七八二・七八三・七八四・七八五・七八六・七八七・七八八・七八九・七九〇・七九一・七九二・七九三・七九四・七九五・七九六・七九七・七九八・七九九・八〇〇・八〇一・八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇六・八〇七・八〇八・八〇九・八一〇・八一一・八一二・八一三・八一四・八一五・八一六・八一七・八一八・八一九・八二〇・八二一・八二二・八二三・八二四・八二五・八二六・八二七・八二八・八二九・八三〇・八三一・八三二・八三三・八三四・八三五・八三六・八三七・八三八・八三九・八四〇・八四一・八四二・八四三・八四四・八四五・八四六・八四七・八四八・八四九・八五〇・八五一・八五二・八五三・八五四・八五五・八五六・八五七・八五八・八五九・八六〇・八六一・八六二・八六三・八六四・八六五・八六六・八六七・八六八・八六九・八七〇・八七一・八七二・八七三・八

中島　玉吉氏　民二一・一二七・四〇一・四〇三・四〇五・四〇五・四〇五・四一三・四二二四・四二二四・四三二・四三三・四四六・四五八・四五八・四五八・四七四・四八二・四九四・五三九・五三九・七二八・IV 3 iv・八二七・八二七・八六〇・V 1 i・九六四・九七〇・九八五・九八七
長島　毅氏　民I・一・二一・八六・I 4 i・九九・九九
長場　正勝氏　商I 1・二六
中村　萬吉氏　民I・九九・一二九・III 2 i・III 2 i・六〇一・六二三・七〇九
中村　宗雄氏　民訴一四〇・一九九・二三二・三七七
西川　一男氏　民二九五・二九六・三五二

ヌ

沼　義雄氏　民三一・八七・九六・一〇六・一一九・一二七・一四五・五五五・五五五・五五八・五九三・六〇一・六〇一・六一四・七〇九・七〇九・七〇九

ノ

野津　務氏　商四〇三・四六四・五四四・六七四
野村　淳治氏　憲卷頭・五五

ハ

花輪三次郎氏　商二九一・四三六・四四〇・四四〇・四四五・四六三・四七四・五九〇
早川彌三郎氏　民一七七・一七七・一七七・一七九・二一〇・二三九・二四三・三六八・三五二・三六四
民訴四五・五〇・五〇・一九一・二〇八・二〇八・五一四・五一六・五二二・五四六
林　穎三郎氏　刑三八・六〇
刑訴三〇五

ヒ

樋貝　詮三氏　商五九二・六二〇
日高要次郎氏　民訴卷頭・一一五・三六〇・三六〇・三六三・三六四・四一〇
平井彦三郎氏　民訴二六九・三〇九・三九八
刑三七・六〇・六〇

フ

舟橋　諄一氏　民一七八・一九五・三四五・三四五・八三九・八三九・一〇八七

ホ

穗積　重遠氏　民四・一二・一四・一四・I 3・二四・三七・五四・九三・九四・九六・九六 I 4 iii・一一三・一一九・一二〇・一三二・一三六・一七七・一八三・一八八・一九二・一九二・一九三・二一〇・二四〇・二六六・II 5・二七〇・II 7・II 7・II 8 i・三〇六・三四九・三三五・三七二・四一四・四三二・四六八・五〇九・五四一・五五七・五六〇・五七〇・五七〇・六〇五・七〇三・七〇三・七〇九・七五五・七六四・七六六・七八七・七八八・八二〇・八二七・八三九・八三九・V・九七〇・八七一・九八二・九九六
細野　長良氏　民訴一五・一五・三五・三五・三七・三七・五〇・五三・八一・一二五・一四〇・一九九・二〇三・二二三・二二五・二二五・二二六・二二八・二二八・二二八・二三〇・二三七・二五〇・二二五・七・二九九・三一一・三一一・五四五・五九四・七三七

マ

前田房之助氏　民訴四九・六四・二二三・三六〇・五六六・七三〇・七三七
破一五
牧野　英一氏　刑I 2・I 2・I 2・三八・四三・四三・一九九・二三五・二四六
松岡　義正氏　民四二七
商一・二・三・三・三・四・二九・三〇・三〇・三〇・三二・三六・二六三・二六三・二六三・二七三・二七五・二八四・二八五・三一三・V・V・五四二・五四四・五五六・五五七・五六五・五七・〇・六八〇

民訴卷頭・卷頭
破卷頭・八七
松波仁一郎氏　商五四・一二三・一四九・一五六・五五八・五六五・五七七・六四一・四二七
松本　重敏氏　憲五・八・二七・三五・六四・六四

ミ

三浦　義氏　商三八五・三八五・三八六・三八七・三九九ノ二・三九九ノ二・四一二・四一二
水口　吉藏氏　商三六・三一三・三一七・III 10・三八四・三八四・三八四・三八四・三八五・三八六・三九七・四一九・四二八ノ二・四三一・四三四・四三五・四四三・四四三・四四五・四四五・四四五・四四五・四四五・四四五・四六九・四七〇・五二五・三二五
三瀦　信三氏　民I・I・一四・二二・三九・八七・八八・I 4 ii・九三・九五・九六・一〇二・一一三・一一五・一三六・一四五・一七七・一九二・一九七・二〇〇・二四九・二七二・II 7・三二三・三四八・三六四・三六九・三七八・四一〇・四一四・四三二・四六六・四九四・五三九
美濃部達吉氏　憲卷頭・卷頭・二・四・四・八・九・九・一〇・一七・2・二四・三〇・三四・三五・三七・三七・五五・五五・五五・六二・六三・六四・六四・六四・六四・七〇・七四
宮城　實氏　刑I 2・三八・一〇八・一三〇・二二二・二三六・二四六・二五六
宮本　英雄氏　民一七六・一七七・一九二・一九二・一九五・II 3 i・二〇七・II 7・二九五・五二八・五
三三・七〇九
宮本　英脩氏　刑卷頭・卷頭・三五・三八・三八・三八・四三・四三・五四・六一・一〇六・一〇六・II 24
二〇四・二〇九・二三六・二三六・二四六
刑訴卷頭・卷頭・一三〇・一三〇・二一九・三三七

ム

村上　恭一氏　民四一・三・III1・i・五三・五五・五八・六〇一・六三二
村瀬　直養氏　商

モ

森　莊三郎氏　商五三八・五九〇・六四二・六五〇・六五四
森口　繁治氏　憲四八・2・五五
森田豐次郎氏　民訴一・三〇・八一・二二六・二三一・二五〇
森本富士雄氏　民II1・一七八・一八一・一八一・一八五・二五六
森本日出夫氏　民七四二・七四五・七五〇・七六三・七六八・八〇八・八一三・八二〇・八二〇・八二七・八三一・八三二・九五四・九五四・九七〇・一〇〇四・一〇四一
森山武市郎氏　民一九二・一九七・二〇〇・二四六・二五九・二六四・二六六・四〇〇・四一四・四二四・四二四・四五二・四五二・四八二・四八二・四八六・四九四・五〇五・五〇五・七〇九

ヤ

矢口　毅氏　民五五七
柳川　勝二氏　民九六八・一〇二四
矢追　秀作氏　刑訴二・三六・一一三・一一五・一九〇・二一〇・二六八・三三一・三九五・四〇九
山尾　時三氏　民五二九・五五七・五七〇・七〇九
山口　弘一氏　國私卷頭・卷頭・卷頭・七一〇・一〇・一〇・一一四・一五・一八・二〇・二一・二七・二九
山下　博章氏　民一七八・二六六・三〇六・三三六・三五三・III1・i・四一三
山田　正三氏　民訴二五・二五・六二・七〇・一四四・一四四・二〇三　破一二六・一二九
山田　三良氏　國私卷頭・卷頭・三・七一・一・一二・一三・一五・二一・二七・二七・二九
山内確三郎氏　商四四〇・四五三・四五〇・四五三・四五七・四五九・四六〇・四六四　破七・一三・九二・一〇一

ユ

遊佐　慶夫氏　民三九・一一三・一七八・一八一・一九七・二〇一・二四九・二四三・II9・i・三四二・三四二・三四四・三六三・三六九・七〇三

ヨ

横田　秀雄氏　民II1・一七七・一八一・一八三・一八八・二六一・II7・三六七・三九三
吉田　久氏　民二九六・三六九
吉田　勳三氏　刑二五六

昭和七年三月一日印刷
昭和七年三月十五日發行
昭和七年十月一日十版
昭和八年四月五日增訂發行

試驗問題條文對照
受驗六法　並製　特價一圓七十錢

不許複製

本書に使用せし參照條文は原著者たる至誠書院編輯部の許諾を得て使用せることを附記す

編輯兼發行者　東京市本鄉區駒込林町二百三十八番地　澁谷惠
印刷者　東京市芝區愛宕町二丁目十四番地　谷本正
發行所　東京市本鄉區駒込林町二三八番地　新社
發行所　東京市麹町區富士見町二丁目二十五　至誠書院
發賣所　東京市神田區裏猿樂町八番地　松山房

常磐印刷株式會社　特許オフセット印刷

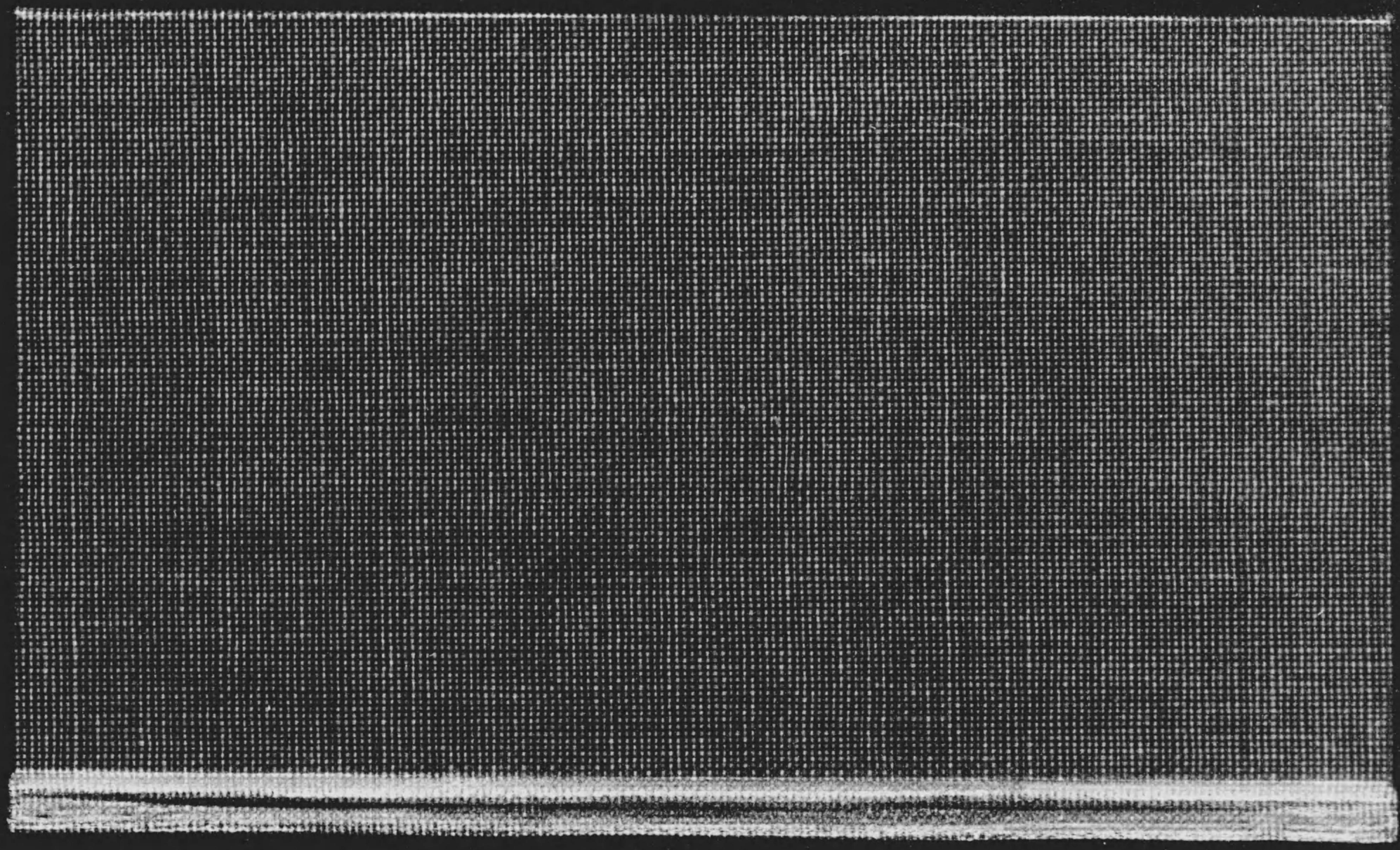
126
4
12

重要

表紙見返シヨリ續ク

取得時效……民 三三
準占有……民 四四
傷害罪……刑 三七
召喚……刑訴 一六
償還ノ請求……商 一〇一
商業使用人……商 七
商業帳簿……商 六
商業登記……商 三
條件……民 二七
證據……民訴 四六
商號……商 四
商行爲……商 五七
上訴……民訴六四・刑訴七七
證據保全……民訴 五七
上訴……民訴五九・刑訴七一・一〇六
使用貸借……民 一二八
商人……商 二
承認……民 二三三
證人訊問……民訴四八・刑訴二三
消費貸借……民 一三七
證憑湮滅罪……刑 二〇
商法……商 一
商法施行法……商 一四六
商法中署名スヘキ

船舶……商 一一三
船舶債權者……商 一四一
船舶所有者……商 一一三
船舶ノ強制執行……民訴 一一三
占有權……民 二八
占有權ノ效力……民 四〇
占有權ノ消滅……民 四四
占有權ノ取得……民 二八
倉庫營業……商 七四
ソ
搜査……刑訴 四一
相殺……民 一〇六
搜索……刑訴 二五
騷擾罪……刑 二一
相續……民 二〇五
相續人ノ曠缺……民 二三一
相續ノ承認……民 二三一
相續ノ拋棄……民 二三七
相續分……民 二一八
送達……刑訴二九・刑訴一四
贓物罪……刑 四六
贈與……民 一一八
訴願法……憲 一〇四
訴訟參加……民訴 一一
訴訟上ノ救助……民訴 一九
訴訟代理人……民訴 一五
訴訟手續……民訴 二三

賃貸借ノ效力……民 一三〇
賃貸借ノ終了……民 一三三
ツ
通貨僞造罪……刑 二七
通譯……刑訴 四〇
罪……刑 一六
テ
定款ノ變更……商 四六
帝國議會……憲 一〇
抵當權……民 七三
抵當權ノ效力……民 七八
抵當權ノ消滅……民 七九
手形……商 九〇
天皇……憲 三
ト
問屋營業……商 六六
登極令……憲 二五
動產質……民 七〇
動產ノ強制執行……民訴 八六
動產ノ先取特權……民 六三
當事者……民訴 八
當事者訊問……民訴 五六
當事者能力……民訴 八
逃走罪……刑 二〇
盜犯防止法……刑 六三
濱職罪……刑 三五
督促手續……民訴 七一
匿名組合……商 六四
[illegible]

ヘ
兵役法……憲 一〇七
併合罪……刑 一三
辯護……刑訴 八
辨濟……民 一〇〇
辯論ノ準備……民訴 四四
ホ
放火罪……刑 二三
法人……民 八
法人ノ管理……民 一三
法人ノ設立……民 八
法定財產制……民 一七〇
法律行爲……民 一八
暴力行爲處罰法……刑 六三
法例……憲 六八
法例……商一・刑一
保險……商七九・一三六
輔佐……刑訴 八
輔佐人……民訴 一五
保證……商 一〇四
保證債務……民 九三
ミ
未遂罪……刑 一一
民事訴訟法……民訴 一
民事訴訟法施行法……民訴 一二八
民法……民 一
民法施行法……民 二三
民法親族編中改正ノ要綱